

# 騒音計算プログラム

日本建築学会騒音対策指針準拠  
建設省建築設備設計基準準拠  
空気調和衛生工学便覧準拠

*Windows*版  
操作ガイド

# 騒音計算操作ガイド

## 目次

第1章．プログラム全体概要	1
1．全体概要	1
2．各種ファイルについて	2
2-1. プログラム	2
2-2. 物件データ	2
2-3. マスターデータ	2
2-4. ワークファイル	3
3．プログラムの基本動作	3
3-0. マウスの操作について	3
3-1. メニューの選択	4
3-2. グリッドの選択	4
3-3. 名称、数値等の入力	4
3-4. チェックボックスの選択	4
第2章．起動メニューと物件選択	5
1．起動メニュー	5
2．物件データの選択	6
3．物件データの入出力	7
第3章．データの作成	8
A．屋内系騒音計算データの入力	8
1．許容値、計算範囲の入力	10
2．受音室吸音率の入力	10
2-1. 詳細計算	10
2-2. 概略計算	13
3．ダクト系騒音計算データの入力	14
3-1. 送風機発生騒音入力	14
3-2. ダクト系寄与係数入力	17
3-3. 吹出口発生騒音入力	17
3-4. 吹出口騒音チェック・必要減音量計算	18
3-5. 消音装置入力	19
3-6. ダクト系気流騒音チェック入力	24

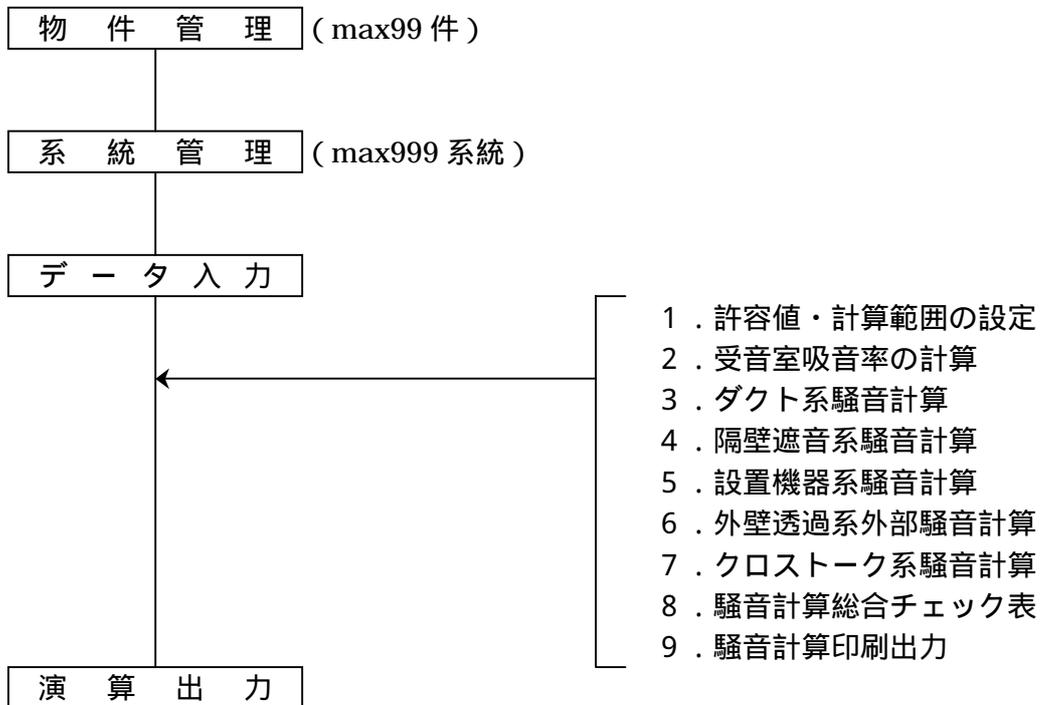
4 . 隔壁遮音系騒音計算データの入力	29
4-1. 音源室吸音率入力	29
4-2. 音源室発生騒音入力	31
4-3. 受音室受音点の騒音計算入力	33
5 . 設置機器系騒音計算データの入力	34
5-1. 受音室設置機器発生騒音入力	34
5-2. 受音室受音点の騒音計算入力	37
6 . 外壁透過系外部騒音計算データの入力	37
6-1. 屋外設置機器発生騒音入力	38
6-2. 受音室受音点の騒音計算入力	40
7 . クロストーク系騒音計算データの入力	41
7-1. クロストーク音源室吸音率入力	42
7-2. 音源室入射係数入力	44
7-3. クロストーク分配比係数計算入力	45
7-4. クロストーク系寄与係数入力	45
7-5. 実効吹出口・放射係数の計算入力	46
7-6. 受音点騒音チェック・必要減音量計算入力	47
7-7. 消音装置の設計入力	47
8 . 騒音計算総合チェック表入力	53
B . 屋外系騒音計算データの入力	54
1 . 許容値・計算範囲の入力	55
2 . 屋外設置機器系騒音計算の入力	56
2-1. 屋外設置機器発生騒音の計算入力	56
2-2. 受音点（敷地境界）の騒音計算入力	59
2-3. へいの設計入力	59
3 . 遮音系騒音計算の入力	60
3-1. 音源室吸音率入力	60
3-2. 音源室発生騒音入力	62
3-3. 受音点（敷地境界）の騒音計算入力	65
4 . ガラリ系騒音計算の入力	66
4-1. 送風機発生騒音入力	66
4-2. ガラリ系寄与係数入力	68
4-3. ガラリ発生騒音入力	68
4-4. ガラリ騒音チェック・必要減音量計算	69
4-5. 消音装置入力	71
4-6. ガラリ系気流騒音チェック入力	75
5 . 屋外系騒音計算総合チェック表の入力	80
第4章 . 騒音計算出力	81
1 . 屋内系騒音計算出力	81
2 . 屋外系騒音計算出力	83

第 5 章 . マスターデータメンテナンス .....	86
1 . マスターデータの入力 .....	86
1-1. 室内許容騒音の入力 .....	86
1-2. 建築材料吸音率入力 .....	87
1-3. 室平均吸音率入力 .....	87
1-4. 建築材料遮音透過損失入力 .....	87
1-5. 消音装置減音量（建設省）入力 .....	88
1-6. チャンバー内貼消音材吸音率入力 .....	88
1-7. 屋外騒音規制値入力 .....	88
1-8. ダクト内貼消音材吸音率入力 .....	89
2 . マスターデータの印刷 .....	89
第 6 章 . システムユーティリティ .....	90
1 . ドライブ環境の設定 .....	90
2 . 印刷環境の設定 .....	92

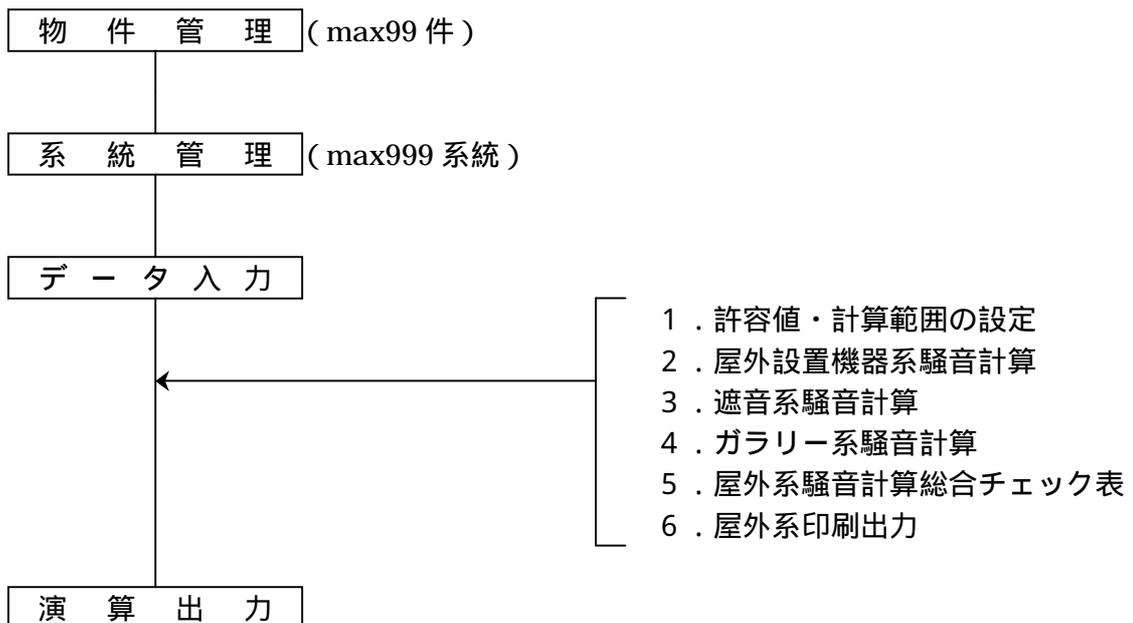
# 第 1 章 プログラム全体概要

## 1. 全体概要

### A-1. 屋内系騒音計算



### A-2. 屋外系騒音計算



## B . マスターデータメンテナンス

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| 1 . 室内許容騒音              | ( 登録 70 )  |
| 2 . 建築材料吸音率             | ( 登録 240 ) |
| 3 . 室平均吸音率              | ( 登録 20 )  |
| 4 . 建築材料透過損失            | ( 登録 200 ) |
| 5 . 消音装置減音量 ( 建設省 )     | ( 登録 100 ) |
| 6 . チャンバー内貼消音材 ( 残響室法 ) | ( 登録 10 )  |
| 7 . 屋外騒音規制値             | ( 登録 20 )  |
| 8 . ダクト内貼消音材 ( 垂直入射 )   | ( 登録 10 )  |
| 1 1 . マスターデータ印刷         |            |

## 2 . 各種ファイルについて

### 2-1. プログラム(¥Tdc\_w¥Ncr)

N c r.exe	プログラムファイル
Fileset.dat	ランダムファイル管理用ファイル

### 2-2. 物件データ(¥Tdc\_w¥Ncr¥Project)

Bname	.dt	物件名称
Duct***	.dt	入力系統データ
Keisan_*	.dt	各種計算条件登録用のデータ
NcrA_***	.dt	屋内系騒音計算 系統データ ( 001 ~ 999 )
NcrA_kq*	.dt	屋内系騒音計算 系統出力条件データ
NcrB_***	.dt	屋外系騒音計算 系統データ ( 001 ~ 999 )
NcrB_kq*	.dt	屋外系騒音計算 系統出力条件データ
Kaisha	.dt	表紙の出力用データ

### 2-3. マスターデータ(¥Tdc\_w¥Ncr¥Masdt)

Aa	.dt	建築材料吸音率
Bb	.dt	建築材料遮音透過損失
Mncr_1	.dt	1.室内許容騒音
Mncr_2	.dt	2.建築材料吸音率
Mncr_3	.dt	3.室平均吸音率
Mncr_4	.dt	4.建築材料遮音透過損失
Mncr_5	.dt	5.建設省消音装置
Mncr_6	.dt	ダクト部材・入力値範囲 ( 建設省 )
Mncr_7	.dt	流体の登録名称
Mncr_8	.dt	流体粘度・登録数値

## 2-4. ワークファイル(¥Tdc\_w¥Ncr¥Work)

Ctrl	.dt	作業中の各種変数
Ctrl_Kub	.dt	作業中の各種変数
Ctrl_mas	.dt	作業中の各種変数
Ctrl_Mnu	.dt	作業中の各種変数
Ctrl_mpr	.dt	作業中の各種変数
Drvset	.dt	ディレクトリ設定
Mpr_0	.dt	作業中の各種変数
NcrA_Pr**	.dt	作業中の各種変数
Npr_*	.dt	作業中の各種変数
Npr_Pr	.dt	作業中の各種変数
Npr_WK	.dt	作業中の各種変数
Ptp_x	.dt	作業中の各種変数
Ptp*	.dt	作業中の各種変数

## 3 . プログラムの基本動作

本プログラムに共通な基本動作を説明します。ウィンドウズプログラムの操作が初めての方はお読み下さい。

### 3-0. マウスの操作について

マウスにはボタンが2個と、底面から見えるボール1個を使用して、以下の動作を行うことができます。

#### 「クリック」

マウスについているどちらかのボタンを、押して、離す動作を1度行うことを指します。左右とも役割が決まっています。

#### ・左ボタン

選択項目を指定、決定を行う場合使用します。

クリックやドラッグ、ダブルクリックなどは、たいていこのボタンを使用します。

#### ・右ボタン

たいていは、実行しようとする作業を中止する場合に使用します。使用しなくても、当プログラムでの作業に問題はありません。

#### 「ドラッグ&ドロップ」

指定したアイコンなどを、別の位置に移動させる動作を指します。

#### (例) アイコンを移動させる場合

マウスカーソルがアイコンの上にある時、マウスの左ボタンを押したままで、マウスを移動させた後にボタンから手を離すと、手を離れた位置にアイコンが移動します。

### 「ダブルクリック」

マウスについている左ボタンを、押して、離す動作を2度連続して行うことを指します。この動作によって、アプリケーションを起動させることができます。

#### 3-1. メニューの選択

コマンドボタンをクリックするか、コマンドボタンのタイトルが太字になっているフォーカス(カーソル)がありますので、上下にカーソルを移動させ、CR キーを押します。

#### 3-2. グリッドの選択

グリッドの項目を選択する場合に、グリッドを直接クリックするか、カーソルを移動させ、CR キーを押します。

フォーカスの有る項目のみ色が異なります。

#### 3-3. 名称、数値等の入力

入力枠をクリックすると、カーソルが“ | ”で表示されますので、文字は全角または半角、数値は半角で入力します。

数値入力時に、あらかじめ設定された数値の範囲外を入力すると、入力エラーメッセージが画面に表示されます。確認ボタンを押して再入力して下さい。

#### 3-4. チェックボックスの選択

チェックボックスの枠を一度クリックすれば、( “レ”) マーク、もう一度クリックすれば、元のマーク (“ ”) に戻ります。

## 第2章 起動メニューと物件選択

### 1. 起動メニュー

TDC技術計算プログラム(図2-1)の騒音計算プログラムを選択すると起動メニュー(図2-2)が表示されます。  
(エクスプローラで¥tdc\_w¥Ncr の Ncr.exe をダブルクリックすることにより同様に起動させることができます。)

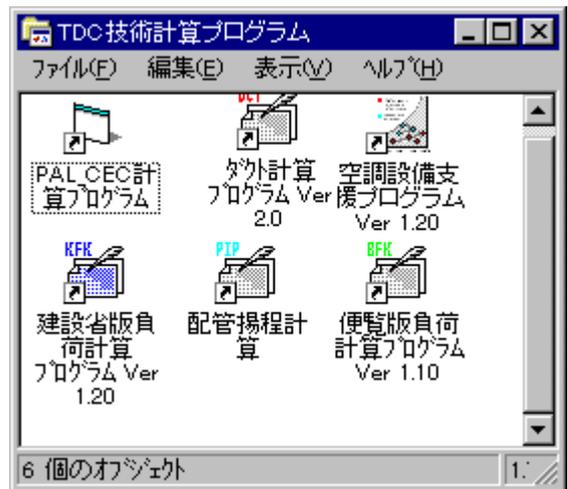


図 2 - 1

騒音計算プログラムは

- 『 A . 騒 音 計 算 』
- 『 B . マスタ-データメンテナンス』
- 『 C . システムユーティリティー』
- 『 終 了 』

からなっています。

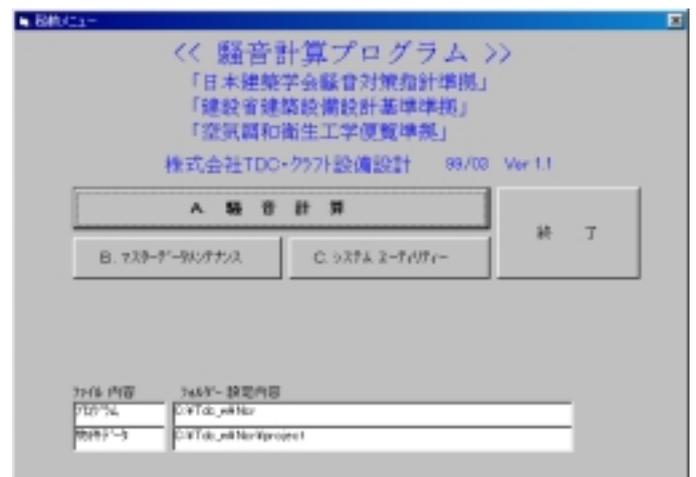


図 2 - 2

#### 《入力操作》

- ・「 A . 騒音計算」…………… 騒音計算を行なう場合
- ・「 B . マスタ-データメンテナンス」…………… マスタ-データメンテナンスを行なう場合
- ・「 C . システムユーティリティー」…………… ドライブの変更、印刷環境の設定を行なう場合
- ・「 終 了 」…………… 騒音計算プログラムを終了する場合

メニューの下に使用するプログラムと物件データがあるフォルダが表示されており、使用するプログラムおよび物件データのドライブを変更したい場合は [ C . システムユーティリティー ] の [ ドライブ環境設定 ] で変更ができます。

本プログラムのフォルダは下記名称で作動します。

プログラム ¥tdc\_w¥Ncr

物件データ ¥tdc\_w¥Ncr¥project

図の例はプログラム・物件データとも A ドライブを指定した場合を示しています(ただし、物件データをフロッピーで行なう場合は物件データのフォルダ名称は¥project となります)

フロッピードライブがAドライブと仮定しますと、物件データは A:\¥project とフォルダ設定内容を設定します。

## 2. 物件データの選択

[ 起動メニュー ] で『 A . 騒音計算 』を選択すると [ 1 . 物件管理 ] ( 図 2-3 ) が表示されます。

### 1 ). 物件管理は

- 『 1 . 新規作成 』
- 『 2 . 更新 』
- 『 3 . 削除 』
- 『 4 . 複写 』
- 『 5 . 終了 』

からなっています。



図 2-3

### 《入力操作》

- ・ [ 1 . 新規作成 ] …… 新規に物件を入力する場合
- ・ [ 2 . 更新 ] …… すでに入力済み物件データを更新あるいは印刷などする場合
- ・ [ 3 . 削除 ] …… 物件を削除する場合
- ・ [ 4 . 複写 ] …… 入力済み物件を複写して新しい物件として追加登録する場合

### [ 新規作成 ]

- ・ 物件 No. は自動的に設定されます。
- ・ 物件名称、設計番号を入力します。
- ・ 管理番号は入力する必要はありません。

### [ 更新 ]

- ・ リストから更新したい物件を選択します。
- ・ 物件名称、設計番号は変更できます。

### [ 削除 ]

- ・ リストから削除したい物件を選択します。
- ・ 確認のメッセージボックスが表示されますので削除する場合は “ O K ” ボタンをクリックします。削除したくない場合は “ キャンセル ” ボタンをクリックします。

### [ 複写 ]

- ・ リストから複写したい物件を選択します。
- ・ 物件名称、設計番号は変更できます。

### [ 終了 ]

- ・ 起動メニューに戻ります。

### 3. 物件データの入出力

[ 1. 物件管理 ] の 『 1. 新規作成 』 あるいは 『 2. 更新 』 を選択した場合、[ A 1. 物件管理 ] ( 図 2-4 ) が表示されます。

・ 物件名称、物件番号を入力します。

『 OK 』

・ [ A 2. 入出力選択 ] ( 図 2-5 ) が表示されます。

『 中止 』

・ [ 1. 物件管理 ] ( 図 2-3 ) へ戻ります。

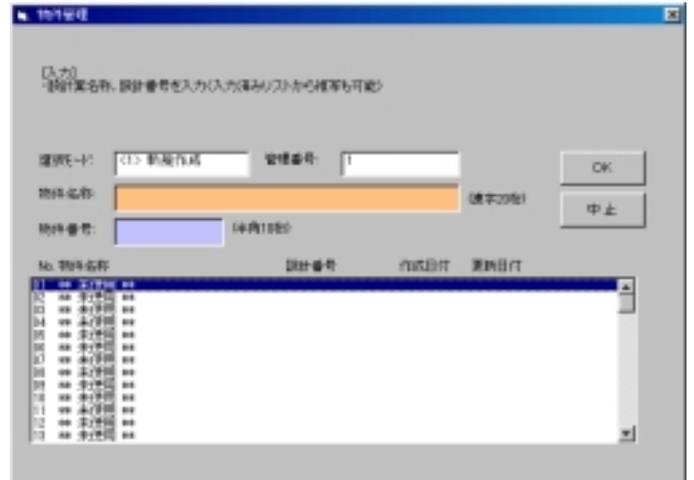


図 2-4

#### A. 入出力選択は

『 1. 屋内系騒音計算データ入出力 』

『 2. 屋外系騒音計算データ入出力 』

『 3. 終了 』

からなっています。

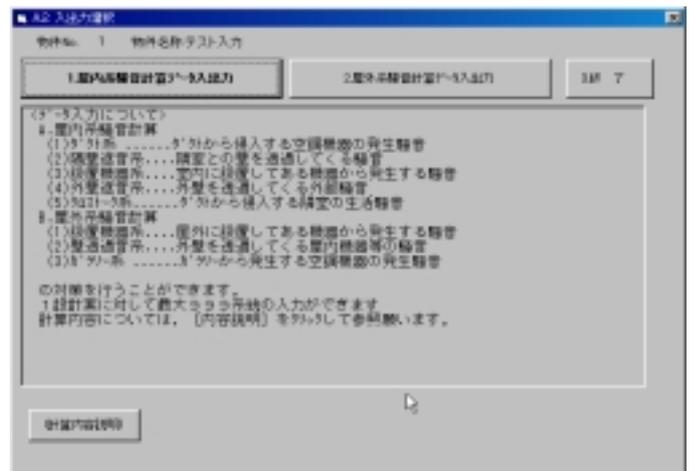


図 2-5

### 第3章 データの作成

#### A. 屋内系騒音計算データの入力

[ A . 入出力選択 ]( 図 3-1 )で『 1 . 屋内系騒音計算データ入出力』を選択すると[ 室内系騒音計算システム選択物件 ]( 図 3-2 )が表示されます。

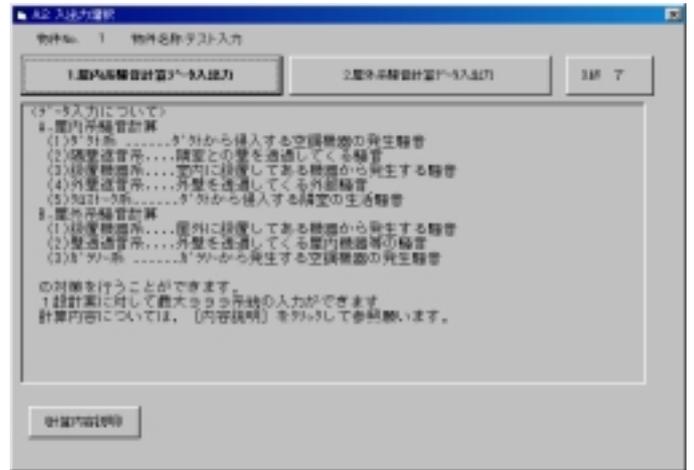


図 3-6

[ 室内系騒音計算システム選択物件名称入力 ]は、

- 『 1 . 新規作成 』
- 『 2 . 新規 ( 複写 ) 』
- 『 3 . 新規 ( 途中追加 ) 』
- 『 4 . 新規 ( 複写 + 追加 ) 』
- 『 5 . 更新 』
- 『 6 . 削除 』
- 『 7 . 組替 』
- 『 8 . 終了 』

からなっています。



図 3-7

#### 《入力操作》

- ・「 1 . 新規作成 」…………… 新規に受音室を入力する場合
- ・「 2 . 新規 ( 複写 ) 」…………… 入力済み受音室を複写して新しい受音室として追加登録する場合
- ・「 3 . 新規 ( 途中追加 ) 」…………… 入力済みデータの途中に新しい受音室を追加する場合
- ・「 4 . 新規 ( 複写+追加 ) 」…………… 入力済みデータを複写して途中に新しい受音室を追加する場合
- ・「 5 . 更新 」…………… 入力済み受音室データを更新あるいは印刷などする場合
- ・「 6 . 削除 」…………… 入力済み受音室データを削除する場合
- ・「 7 . 組替 」…………… 複数の入力済み受音室データを並び替える場合

[ 室内系騒音計算系統選択物件名称入力 ] の『 1 . 新規作成』～『 5 . 更新』を選択した場合 [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-3 ) が表示されます。

室内系騒音計算総合メニューは

- 『 1 . 許容値・計算範囲の設定』
- 『 2 . 受音室吸音率計算』
- 『 3 . ダクト系騒音計算』
- 『 4 . 隔壁遮音系騒音計算』
- 『 5 . 設置機器系騒音計算更新』
- 『 6 . 外壁透過系外部騒音計算』
- 『 7 . クロストーク系騒音計算』
- 『 8 . 騒音計算総合チェック表』
- 『 9 . 騒音計算印刷出力』
- 『 10 . 終了』

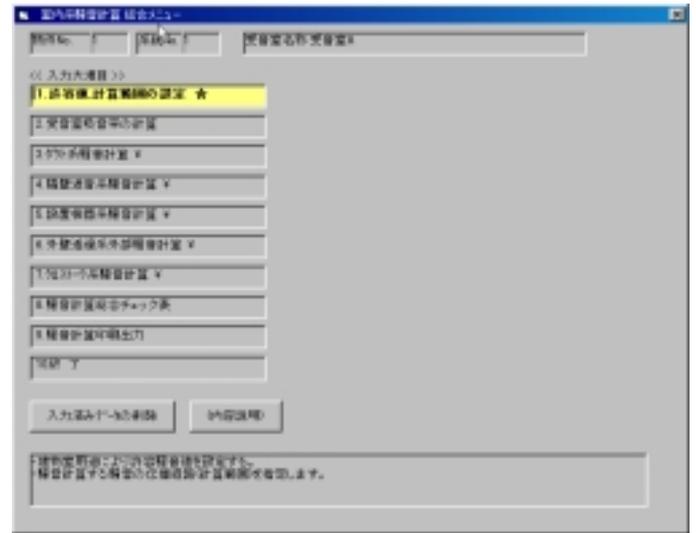


図 3-8

からなっています。

- ・ 屋内系騒音計算はダクト系、隔壁遮音系、設置機器系、外壁透過系およびクロストーク系の騒音計算を総合的に計算評価出来ます。
- ・ [ 1 . 許容値・計算範囲の設定 ] [ 2 . 受音室吸音率 ] はどの系の計算にも関与します。必ずデータ入力してください。
- ・ ダクト系、隔壁遮音系、設置機器系、外壁透過系およびクロストーク系の騒音計算は [ 1 . 許容値・計算範囲の設定 ] で騒音計算を実行する系を設定します。設定されていないとデータ入力が出来ませんので、計算できません。計算させたい系は必ずこの部分で設定してください。

## 1. 許容値・計算範囲の入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)で『1. 許容値・計算範囲の設定』を選択した場合 [1. 屋内系騒音計算 室内許容騒音設定](図 3-4)が表示されます。



図 3-9

### 《入力操作》

- (1) 受音室名称                      受音室名称を入力します。
- (2) 設計許容騒音                    建物用途室用途リストを選択します。
- (3) NC設定ランク                    建物用途室用途リストを選択して表示されたなかから選択します。
- (4) 騒音計算する伝搬経路          騒音計算を実行する系を設定します。

・『終了』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)に戻ります。

## 2. 受音室吸音率の入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)で『2. 受音室吸音率の計算』を選択した場合 [2. 受音室吸音率の計算](図 3-5)が表示されます。吸音率の計算は詳細計算と概略計算の2通りが用意されており、いずれかを選択してください。



図 3-10



メッセージボックスの“OK”をクリックすると、(図 3-9)が表示されます。

No.2 に追加したいデータを入力します。

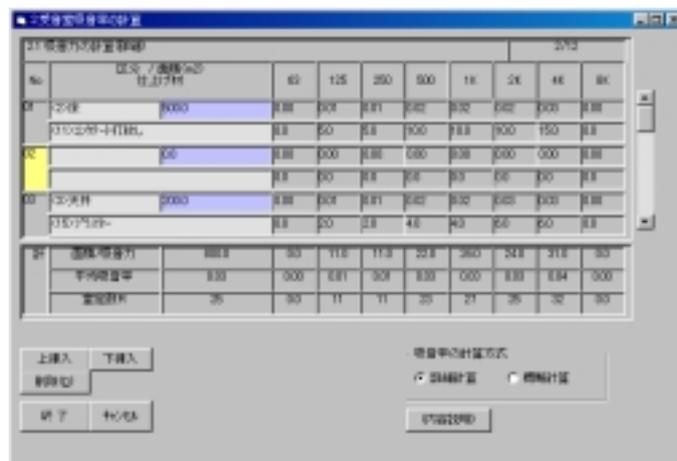


図 3-14

・下挿入

指定したデータの後にデータを挿入する場合、後ろにデータを挿入したい No. を選択して“下挿入”をクリックします。

図 3-10 のメッセージボックスが表示されます(例は No.1 の次にデータを挿入)。

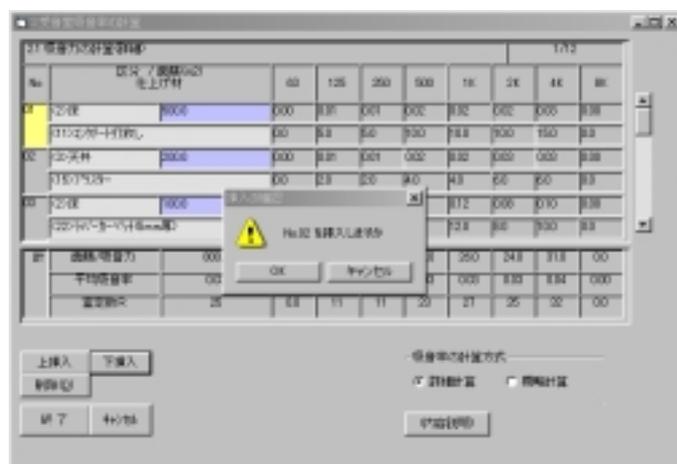


図 3-15

・メッセージボックスの“OK”をクリックすると図 3-11 が表示されます。

・No.2 に追加したいデータを入力します。

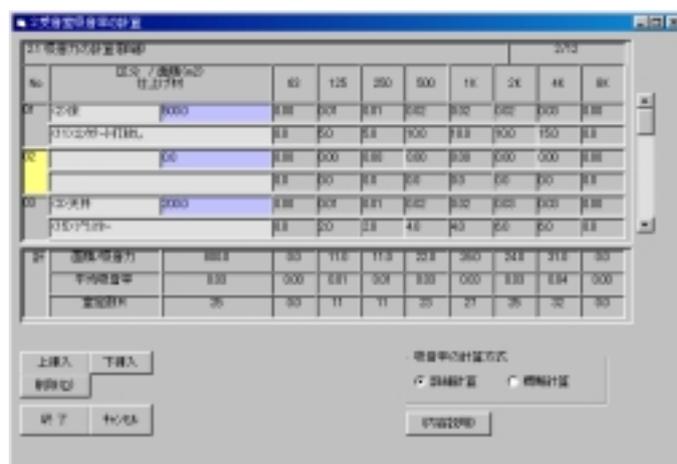


図 3-16

- 削除

削除したいデータの No.を選択し“削除”をクリックします。(図 3-12)が表示されます。(例では No.2 を削除しようとしています)。

メッセージボックスの“OK”をクリックすると指定した No.2 のデータが削除されます。

“キャンセル”をクリックすると削除作業が中止されます。

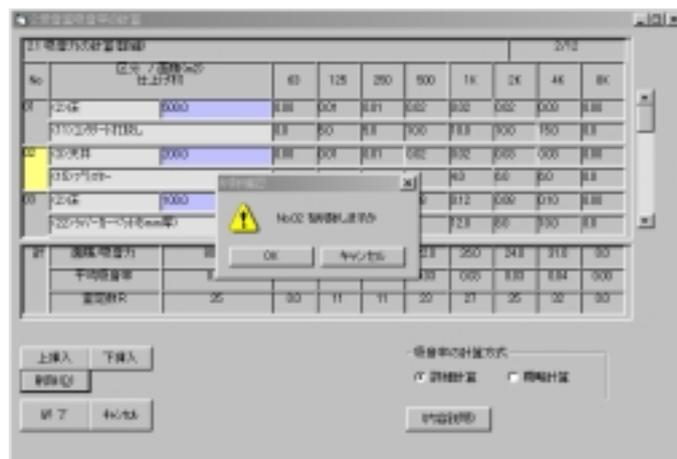


図 3-17

『終了』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)に戻ります。

## 2-2. 概略計算

吸音率の計算方式の選択を概略計算とすると(図 3-13)が表示されます。

### 《入力操作》

#### (1) 建物室用途

建物室用途区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-14) リストのなかから選択します。

#### (2) 表面積

幅、奥行、天井高さを入力します。

- 『キャンセル』をクリックするとこの画面上での作業内容が保存されず、作業前の状態となります。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)に戻ります。

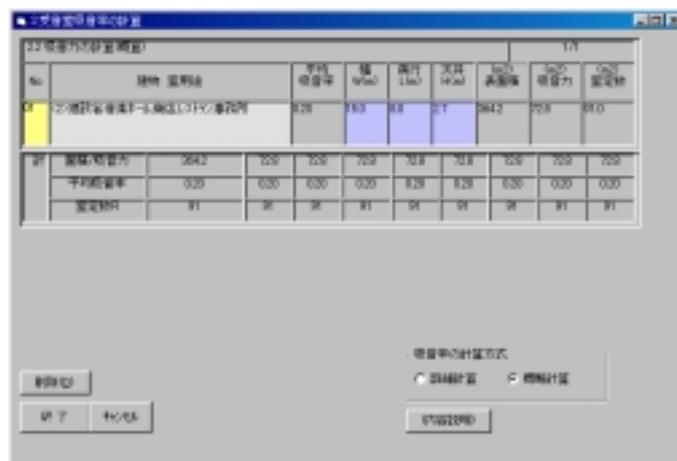


図 3-18



図 3-19

### 3. ダクト系騒音計算データの入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-3)で『3. ダクト系騒音計算』を選択した場合 [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)が表示されます。

[ダクト系騒音計算]は

- 『1. 送風機発生騒音』
- 『2. ダクト系寄与係数』
- 『3. 実効吹出口数・発生騒音』
- 『4. 吹出口騒音チェック・必要減音量計算』
- 『5. 消音装置の設計』
- 『6. ダクト系気流騒音計算』

からなっています。



図 3-20

#### 3-1. 送風機発生騒音入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)で『3.1 送風機発生騒音』を選択した場合 [ダクト系発生騒音](図 3-16)が表示されます。

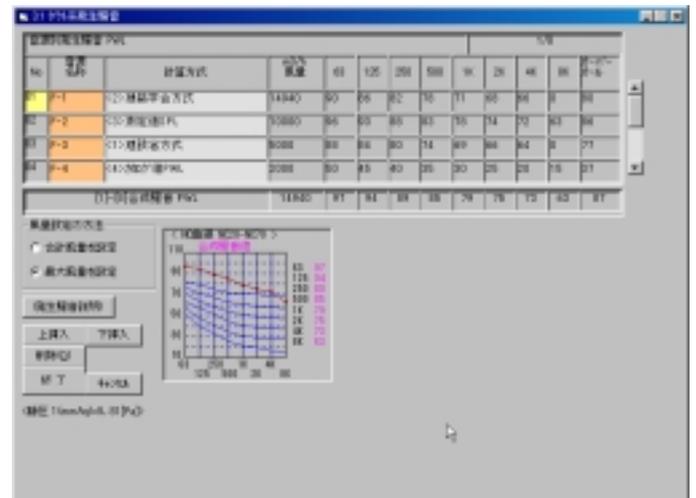


図 3-21

#### 《入力操作》

- (1) 音源名称      音源名称を入力します。
- (2) 計算方式      建設省方式、建築学会方式、測定値 SPL、カタログ値 PWL の計算方式が用意されています。リストのなかから選択します。

### 3-1-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると（図 3-17）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
リストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。

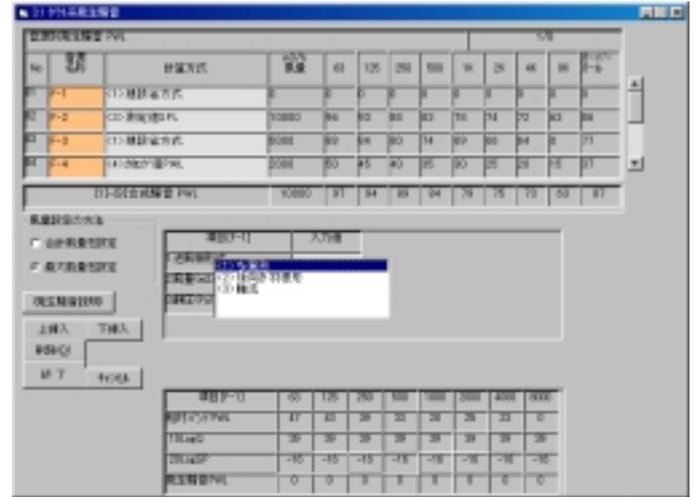


図 3-22

### 3-1-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると（図 3-18）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。

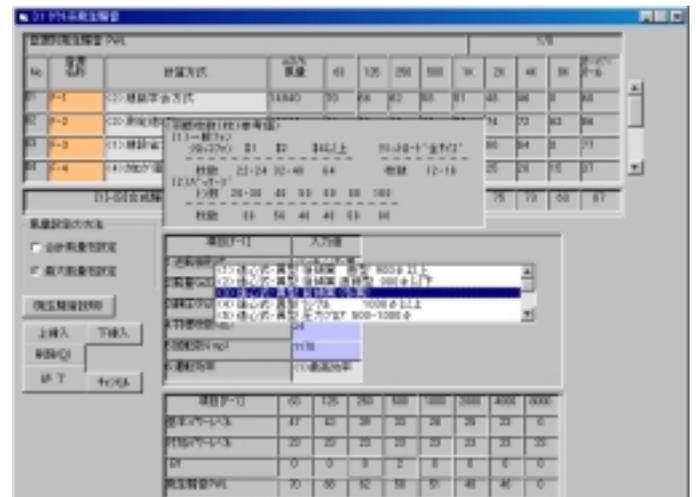


図 3-23

### 3-1-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると ( 図 3-19 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

( 1 ) 測定値

測定した騒音値を入力します。

( 2 ) 音源との距離

音源と測定点との距離を入力します。

( 3 ) 指向係数

音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。

( 4 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。



図 3 - 24

### 3-1-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると ( 図 3-20 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

( 1 ) カタログ値

カタログなどから入手した P W L を入力します。

( 2 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

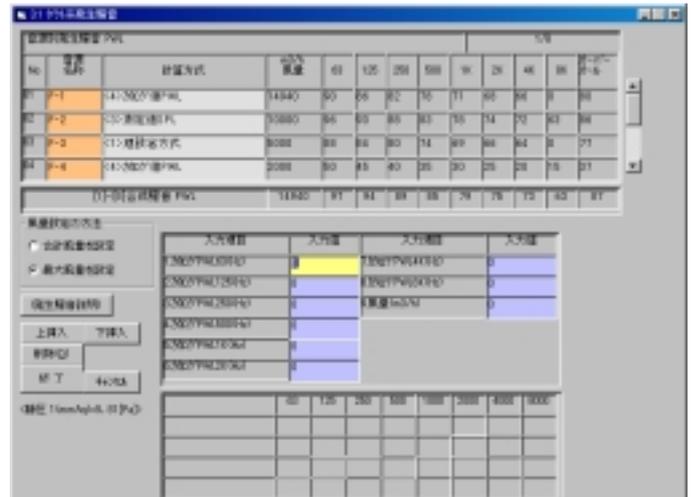


図 3 - 25

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-15 ) に戻ります。

### 3-2. ダクト系寄与係数入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)で『3.2 ダクト系寄与係数』を選択した場合[ダクト系寄与係数(受音室の給気系、還気系、換気系)](図 3-21)が表示されます。



図 3-26

#### 《入力操作》

##### (1) 風量

対象受音室に関する給気、還気、換気各風量を入力します。

##### (2) ダクト系寄与係数の対象となる系

給気系統、還気系統、換気系統のなかから騒音計算対象の系統を選択します。削除、キャンセルは 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)に戻ります。

### 3-3. 吹出口発生騒音入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)で『3.3 実効吹出口数・発生騒音』を選択した場合[吹出口騒音、実効吹出口数](図 3-22)が表示されます。

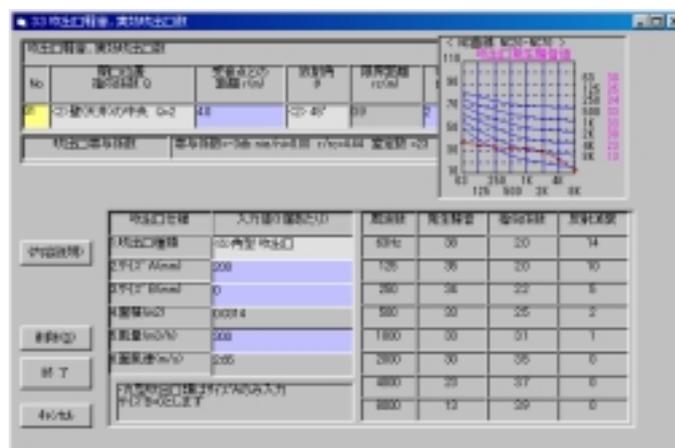


図 3-27

#### 《入力操作》

##### (1) 開口位置指向係数

吹出口類の取付け位置から、開口位置指向係数をリストのなかから選択します。

##### (2) 受音点との距離

吹出口類し受音点との距離を入力します。

##### (3) 放射角

放射角をリストのなかから選択します。

##### (4) 吹出口個数

吹出口の個数を入力します。

##### (5) 限界距離内実効吹出口個数

限界距離内実効吹出口個数を入力します。

(6) 吹出口仕様

吹出口の種類をリストのなかから選択し、サイズおよび風量を入力します。

削除、キャンセルは 2. 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

3-4. 吹出口騒音チェック・必要減音量計算

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) で『3.4 吹出口騒音チェック・必要減音量計算』を選択した場合 [ダクト系吹出口騒音チェック・必要減音量計算] (図 3-23) が表示されます。



図 3-28

『結果表示』をクリックすると (図 3-24) が表示されます。

『表示する内容』で吹出口騒音チェックとダクト系必要減音量計算の選択が出来ます。

『終了』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。



図 3-29

### 3-5. 消音装置入力

[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)で『3.5 消音装置の設計』を選択した場合 [ダクト系消音装置の設計](図 3-25)が表示されます。

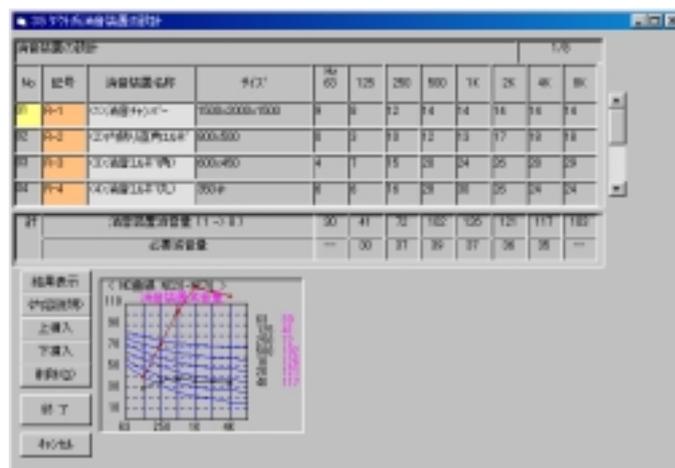


図 3-30

消音装置は消音装置名称をクリックするとリストが表示されます。(図 3-26) リストから選択します。

消音装置の設計入力方法として

1. 消音チャンバー
2. 内張直角エルボ
3. 消音エルボ(角)
4. 消音エルボ(丸)
5. 吹出口ボックス
6. 吸音材内貼ダクト
7. 建設省データ
8. その他(直接入力)

が用意されています。

#### 3-5-1. 消音チャンバー入力

(図 3-26)で“消音チャンバー”を選択した場合(図 3-27)が表示されます。

##### 《入力操作》

##### (1) 吸音材料

チャンバー内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。

##### (2) 吸音率

マスター値を変更する場合は入力します。

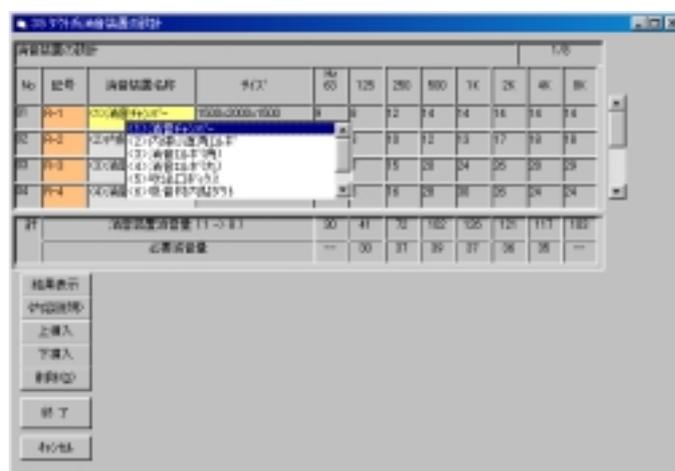


図 3-31



図 3-32

- ( 3 ) チャンバーサイズ  
チャンバーサイズ a、 b、 c を入力します。
- ( 4 ) 音源側サイズ  
音源側ダクトサイズ入力します。
- ( 5 ) 出口側サイズ  
出口側ダクトサイズ入力します。
- ( 6 ) 開口位置関係  
リストのなかから選択します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-14 ) に戻ります。

### 3-5-2. 内張直角エルボ入力

( 図 3-26 ) で “ 内張直角エルボ ” を選択した場合 ( 図 3-28 ) が表示されます。

《入力操作》

- ( 1 ) ダクトサイズ  
内張直角エルボサイズを入力します。

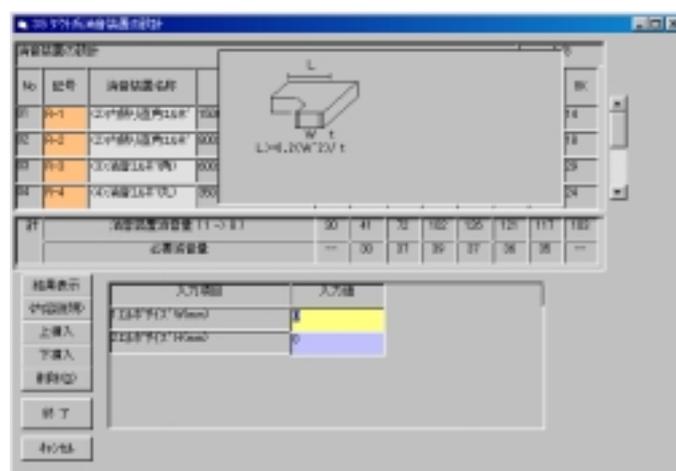


図 3 - 33

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 4 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-15 ) に戻ります。

### 3-5-3. 消音エルボ（角）入力

(図 3-26) で “消音エルボ（角）” を選択した場合 (図 3-29) が表示されます。

《入力操作》

#### (1) ダクトサイズ

消音エルボ（角）サイズを入力します。

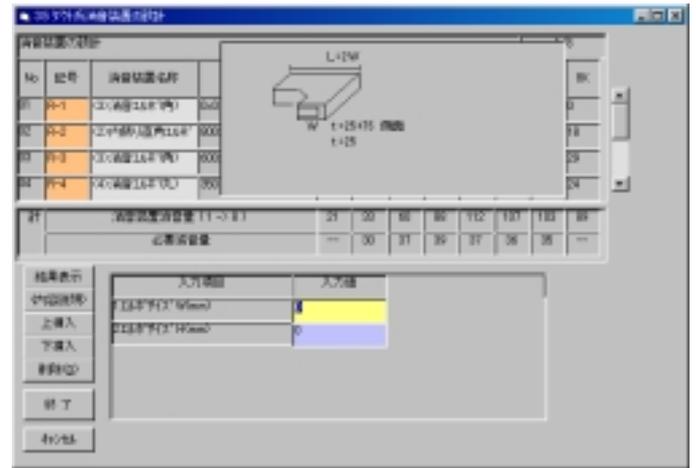


図 3-34

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

### 3-5-4. 消音エルボ（丸）入力

(図 3-26) で “消音エルボ（丸）” を選択した場合 (図 3-30) が表示されます。

《入力操作》

#### (1) ダクトサイズ

消音エルボ（丸）サイズを入力します。

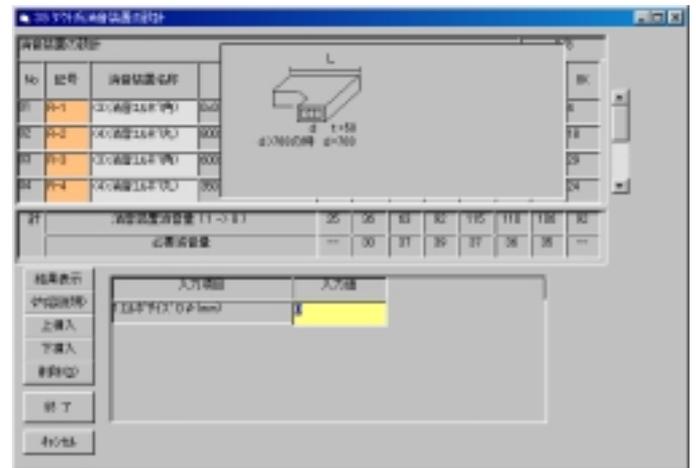


図 3-35

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

### 3-5-5. 吹出口ボックス入力

(図 3-26) で“吹出口ボックス”を選択した場合(図 3-31)が表示されます。

#### 《入力操作》

(1) 吸音材料

吹出口ボックス内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。

(2) 吸音率

マスター値を変更する場合は入力します。

(3) チャンバータイプ

チャンバータイプをリストのなかから選択します。

(4) チャンバーサイズ

チャンバーサイズ C1、C2 を入力します。

(5) 音源側サイズ

音源側ダクトサイズ入力します。

(6) 出口側サイズ

出口側ダクトサイズ入力します。

(7) 内貼チャンバー長さ

内貼チャンバー長さ入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-14)に戻ります。

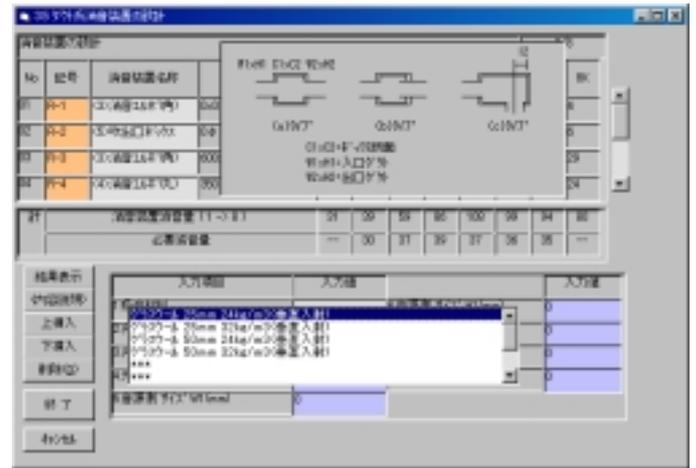


図 3-36

### 3-5-6. 吸音材内貼りダクト入力

(図 3-26) で“吸音材内貼りダクト”を選択した場合(図 3-32)が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 吸音材料  
ダクト内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。
- (2) 吸音率  
マスター値を変更する場合は入力します。
- (3) ダクトサイズ  
ダクトサイズを入力します。
- (4) チャンバーサイズ  
チャンバーサイズ C1、C2 を入力します。
- (5) 内貼りダクト長さ  
内貼りダクト長さを入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)に戻ります。

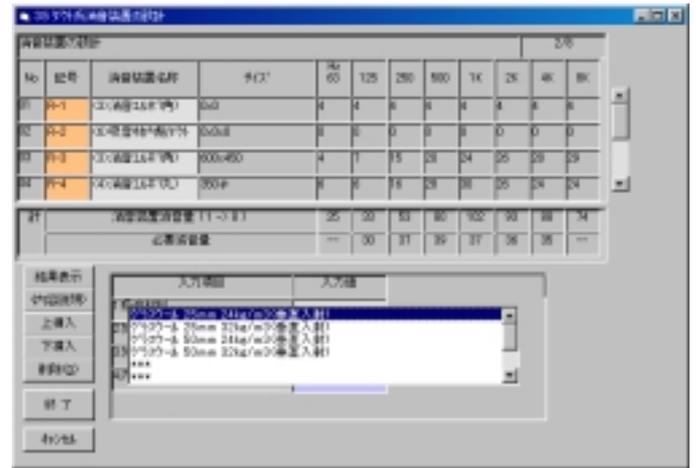


図 3-37

### 3-5-7. 建設省データ入力

(図 3-26) で“建設省データ”を選択した場合(図 3-33)が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 消音装置選択  
消音装置をリストのなかから選択します。
- (2) 個数または長さ  
選択した消音装置に応じ、個数または長さを入力します。

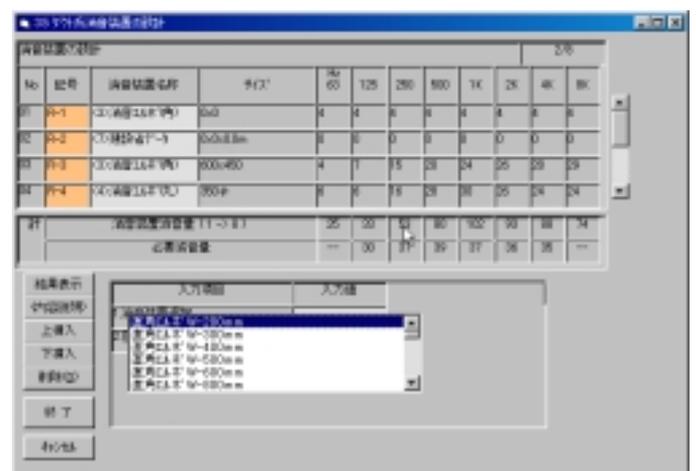


図 3-38

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)に戻ります。

### 3-5-8. 直接入力データ入力

(図 3-26) で “その他 (直接入力)” を選択した場合 (図 3-34) が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) メモ

消音装置名称を入力します。

##### (2) 減音値

減音値を入力します。

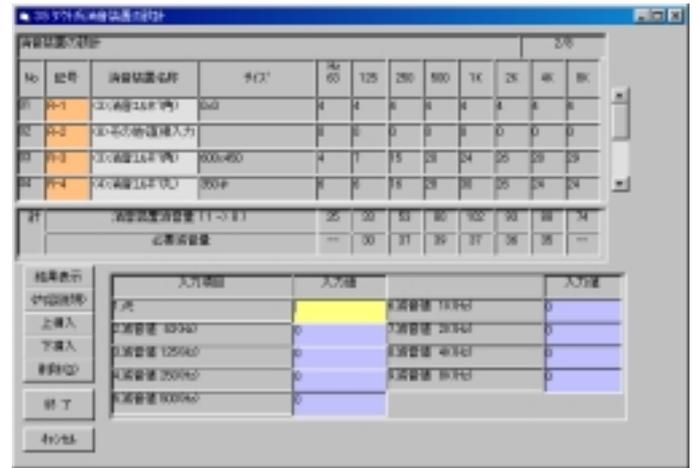


図 3-39

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

### 3-6. ダクト系気流騒音チェック入力

詳細にダクト系の騒音チェックを行う場合に入力します。音源側から、順をおって、減音要素と騒音発生要素を入力します。

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) で 『3.6 ダクト系気流騒音計算』 を選択した場合 [ダクト系気流騒音チェック入力] (図 3-35) が表示されます。

気流騒音チェック要素として

- 1 . 消音装置による減音
- 2 . 風量分岐による減音
- 3 . ダンパー気流騒音
- 4 . 直角エルボ気流騒音
- 5 . 分岐気流騒音
- 6 . 減音要素 (減音値) 直接入力
- 7 . 騒音発生要素 (PWL 値) 直接入力

が用意されています。



図 3-40

### 3-6-1. 消音装置による減音入力

(図 3-35)で“消音装置による減音”を選択した場合(図 3-36)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) 消音装置の選択

消音装置入力で入力した消音装置がリストとして表示されます。このリストのなかから選択します。

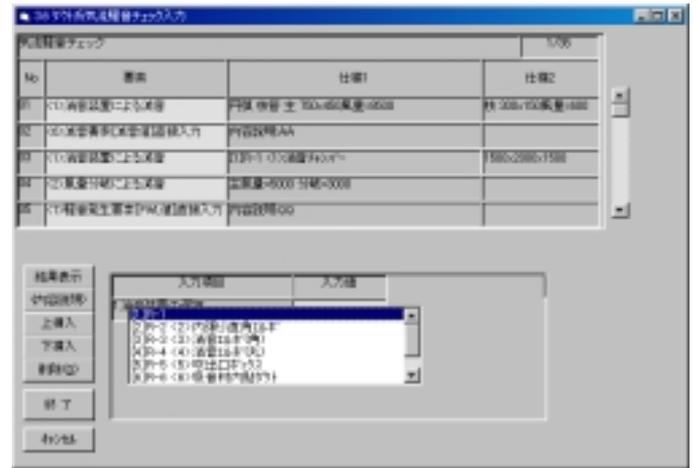


図 3-41

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-14)に戻ります

### 3-6-2. 風量分岐による減音入力

(図 3-35)で“風量分岐による減音”を選択した場合(図 3-37)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) 主ダクト風量

主ダクト(分岐前ダクト)の風量を入力します。

##### (2) 分岐ダクト風量

分岐ダクト(分岐後のダクト)の風量を入力します。

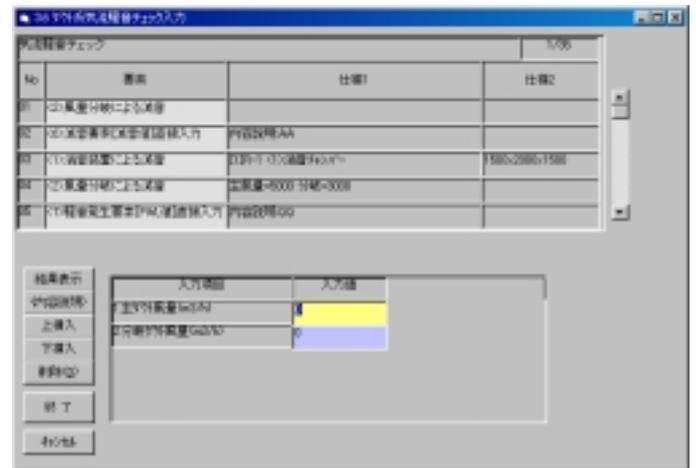


図 3-42

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)に戻ります。

### 3-6-3. ダンパー気流騒音入力

(図 3-35) で “ダンパー気流騒音” を選択した場合 (図 3-38) が表示されます。

《入力操作》

- (1) ダンパーサイズ  
ダンパーサイズ (幅および高さ) を入力します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 羽根角度  
リストのなかから選択します。

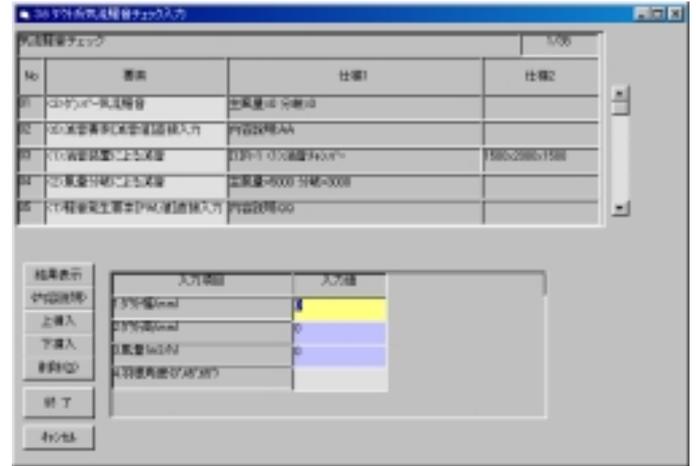


図 3-43

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

### 3-6-4. 直角エルボ気流騒音入力

(図 3-35) で “直角エルボ気流騒音” を選択した場合 (図 3-39) が表示されます。

《入力操作》

- (1) 直角エルボサイズ  
直角エルボサイズ (幅および高さ) を入力します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) ガイドベーン有無  
ガイドベーンの有無を選択します。

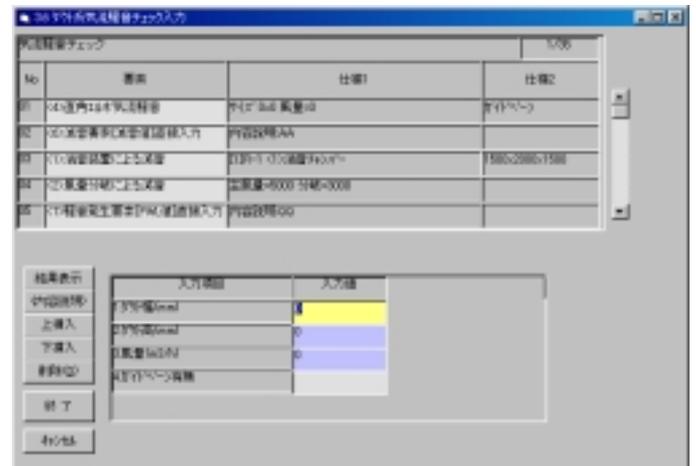


図 3-44

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-15) に戻ります。

### 3-6-5. 分岐気流騒音入力

(図 3-35)で“分岐気流騒音”を選択した場合(図 3-40)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) 分岐の形状

分岐の形状をリストの中から選択します。

##### (2) 分岐方向

分岐方向をリストの中から選択します。

##### (3) 直管側サイズ

直管側サイズ(幅および高さ)を入力します。

##### (4) 直管側風量

直管側風量を入力します。

##### (5) 枝管側サイズ

枝管側サイズ(幅および高さ)を入力します。

##### (6) 枝管側風量

枝管側風量を入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-15)に戻ります。

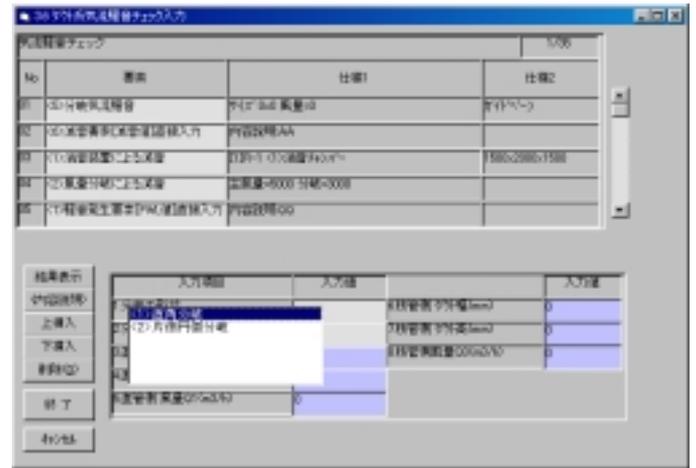


図 3-45

### 3-6-6. 減音要素直接入力

(図 3-35) で “ 減音要素 ( 減音値 ) 直接入力 ” を選択した場合 ( 図 3-41 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

##### ( 1 ) メモ

消音装置名称を入力します。

##### ( 2 ) 減音値

減音値を入力します。



図 3 - 46

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-15 ) に戻ります。

### 3-6-7. 騒音発生要素直接入力

( 図 3-35 ) で “ 騒音発生要素 ( P W L 値 ) 直接入力 ” を選択した場合 ( 図 3-42 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

##### ( 1 ) メモ

騒音発生装置名称を入力します。

##### ( 2 ) 騒音発生値

騒音発生値 ( P W L 値 ) を入力します。



図 3 - 47

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-15 ) に戻ります。

#### 4. 隔壁遮音系騒音計算データの入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-3) で『4. 隔壁遮音系騒音計算』を選択した場合 [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-43) が表示されます。

[隔壁遮音系騒音計算は]

- 『1. 音源室吸音率の計算』
- 『2. 音源室発生騒音の計算』
- 『3. 受音室受音点の騒音計算』

からなっています。

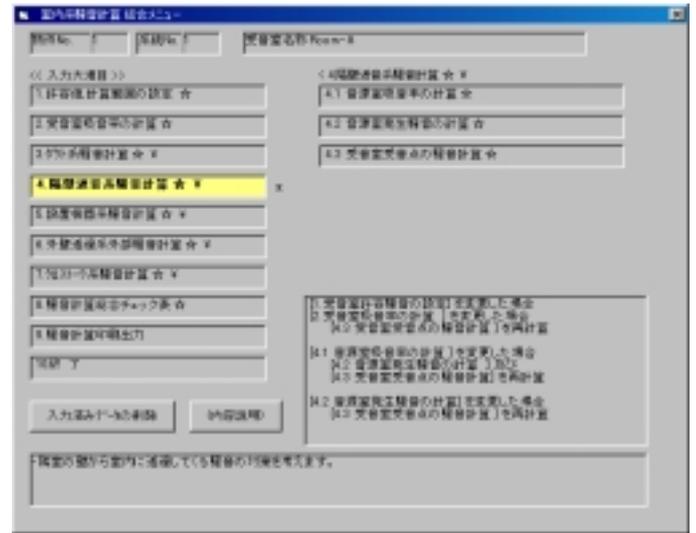


図 3-43

#### 4-1. 音源室吸音率入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-43) で『4.1 音源室吸音率の計算』を選択した場合 [音源室吸音率] (図 3-44) が表示されます。

吸音率の計算は詳細計算と概略計算の2通りが用意されており、いずれかを選択してください。

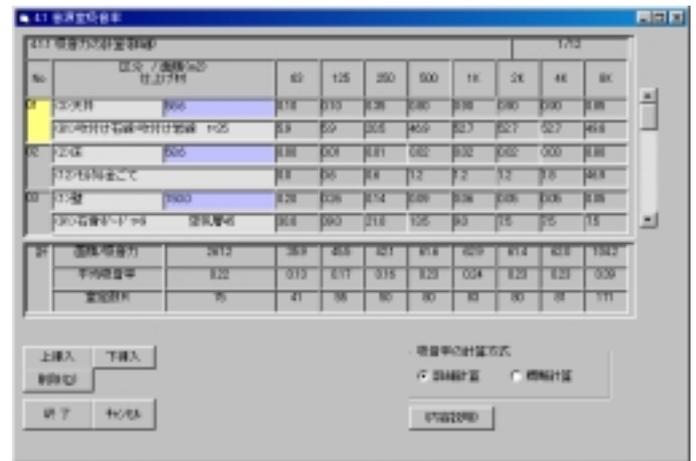


図 3-44

#### 4-1-1. 詳細計算

《入力操作》

(1) 区分

区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-45) リストのなかから選択します。

(2) 面積

面積を入力します。



図 3-45

(3) 仕上げ材

仕上げ材をクリックするとリストが表示されます。(図 3-46) リストのなかから選択します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 4. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-43)に戻ります。



図 3-46

4-1-2. 概略計算

吸音率の計算方式の選択を概略計算とすると(図 3-47)が表示されます。

《入力操作》

(1) 建物室用途

建物室用途区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-48) リストのなかから選択します。

(2) 表面積

幅、奥行、天井高さを入力します。

『キャンセル』をクリックするとこの画面上での作業内容が保存されず、作業前の状態となります。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-43)に戻ります。



図 3-47

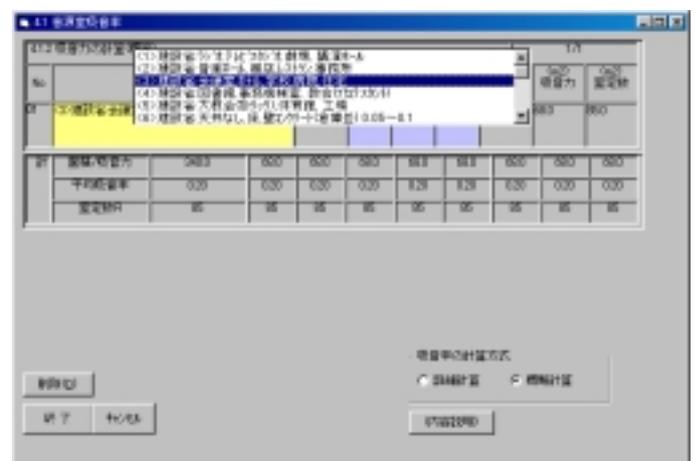


図 3-48



#### 4-2-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると（図 3-52）が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。



図 3-52

#### 4-2-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると（図 3-53）が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 測定値  
測定した騒音値を入力します。
- (2) 音源との距離  
音源と測定点との距離を入力します。
- (3) 指向係数  
音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。
- (4) 風量  
風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

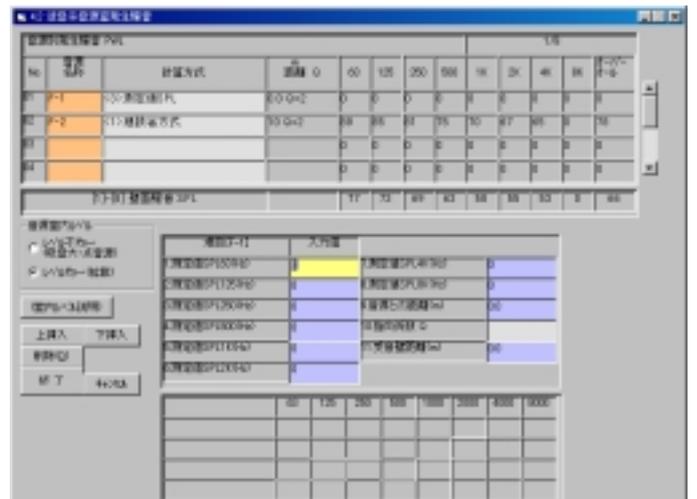


図 3-53

#### 4-2-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると (図 3-53) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### (1) カタログ値

カタログなどから入手した P W L を入力します。

##### (2) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。



図 3-54

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。  
『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-43) に戻ります。

#### 4-3. 受音室受音点の騒音計算入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-43) で『4.3 受音室受音点の騒音計算』を選択した場合 [受音室受音点] (図 3-55) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### (1) 間仕切壁面積

受音室と音源室の隔壁の面積 (幅、高さ) を入力します。

##### (2) 間仕切壁透過損失

間仕切壁透過損失部分をクリックするとリスト (図 3-56) が表示されます。受音室と音源室の隔壁の透過損失値 (透過壁を選択することにより、透過損失値を選択します。) をリストの中から選択します。



図 3-55



図 3-56

(3) 受音点との距離

受音室と音源室の隔壁間仕切壁と受音点との距離を入力します。

(4) 壁施工安全率

受音室と音源室の隔壁間仕切壁の施工上透過しやすい部分があることを考慮し、透過損失値から差し引く数値を入力する。

削除、キャンセルは 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-43) に戻ります。

5. 設置機器系騒音計算データの入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-3) で『5. 設置機器系騒音計算』を選択した場合 [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-57) が表示されます。

[設置機器系騒音計算] は

- 『1. 受音室設置機器発生騒音の計算』
- 『2. 受音室受音点の騒音計算』

からなっています。

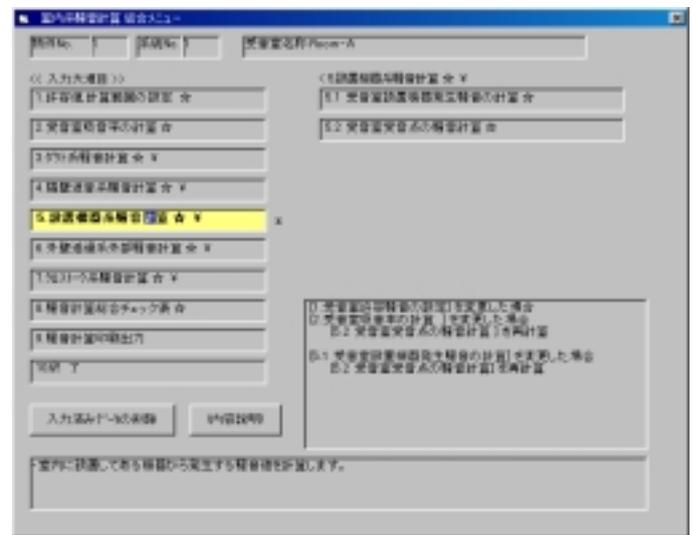


図 3-57

5-1. 受音室設置機器発生騒音入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-57) で『5.1 受音室設置機器発生騒音の計算』を選択した場合 [受音室設置機器発生騒音の計算] (図 3-58) が表示されます。

《入力操作》

(1) 音源名称

音源名称を入力します。

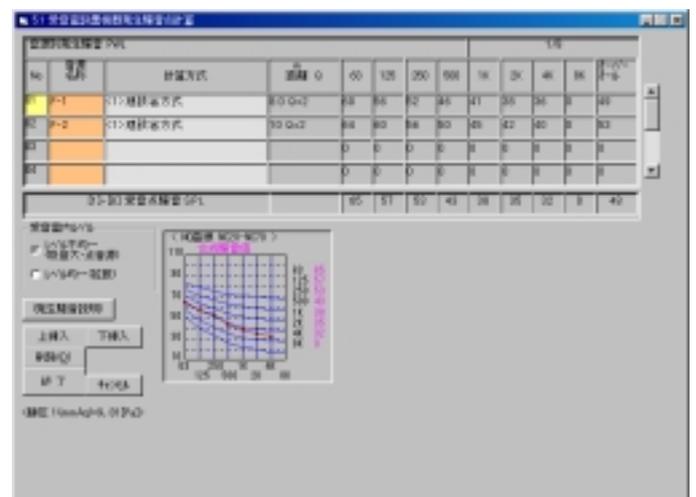


図 3-58

(2) 計算方式

建設省方式、建築学会方式、測定値 SPL、カタログ値 PWL の計算方式が用意されています。(図 3-59) リストのなかから選択します。

(3) 受音室内レベル

受音室が拡散音場であるか否かを選択する。

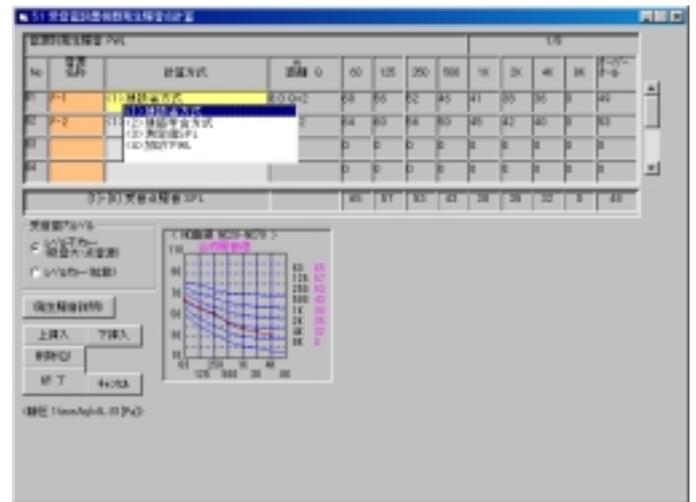


図 3-59

5-1-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると(図 3-60)が表示されます。

《入力操作》

(1) 送風機形式

リストから選択します。

(2) 風量

風量を入力します。

(3) 静圧

静圧を入力します。

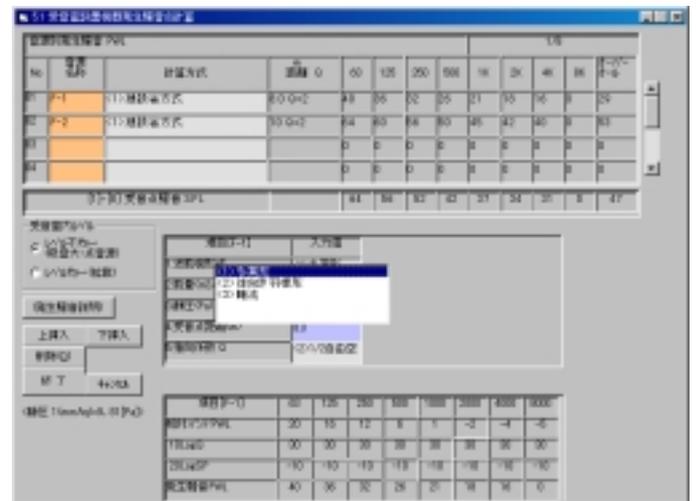


図 3-60

5-1-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると(図 3-61)が表示されます。

《入力操作》

(1) 送風機形式

送風機形式をリストから選択します。

(2) 風量

風量を入力します。

(3) 静圧

静圧を入力します。



図 3-61

- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。

### 5-1-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると ( 図 3-62 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 測定値  
測定した騒音値を入力します。
- (2) 音源との距離  
音源と測定点との距離を入力します。
- (3) 指向係数  
音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。
- (4) 風量  
風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

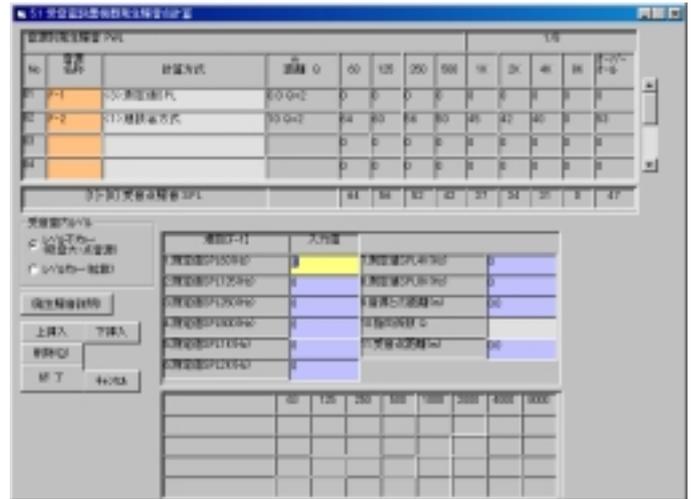


図 3 - 62

### 5-1-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると ( 図 3-63 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) カタログ値  
カタログなどから入手した P W L を入力します。
- (2) 風量  
風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

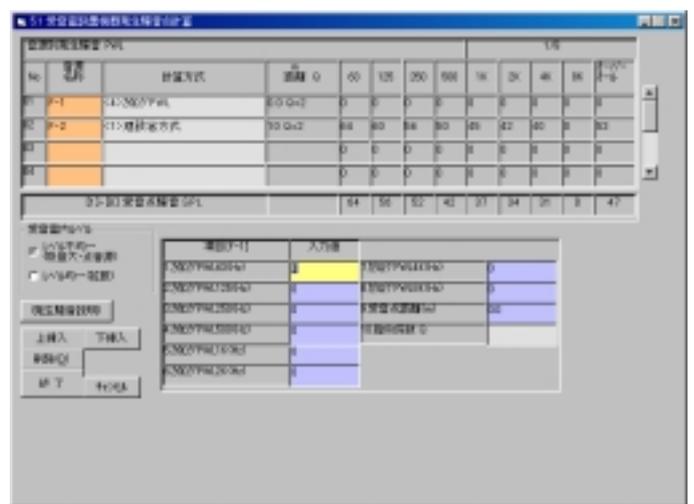


図 3 - 63

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 4 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-57 ) に戻ります。

## 5-2. 受音室受音点の騒音計算入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-57 ) で 『 5.2 受音室受音点の騒音計算 』 を選択した場合 [ 2 受音室受音点の騒音計算 ] ( 図 3-64 ) が表示されます。



図 3 - 64

### 《入力操作》

- (1) ( 1 ) 結果表示  
結果表示をクリックすると ( 図 3-65 ) が表示されます。

『 終了 』 で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-57 ) に戻ります。



図 3 - 65

## 6 . 外壁透過系外部騒音計算データの入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-3 ) で 『 6 . 外壁透過系外部騒音計算 』 を選択した場合 [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-66 ) が表示されます。

[ 外壁透過系外部騒音計算 ] は

- 『 1 . 屋外設置機器発生騒音の計算 』
- 『 2 . 受音室受音点の騒音計算 』

からなっています。

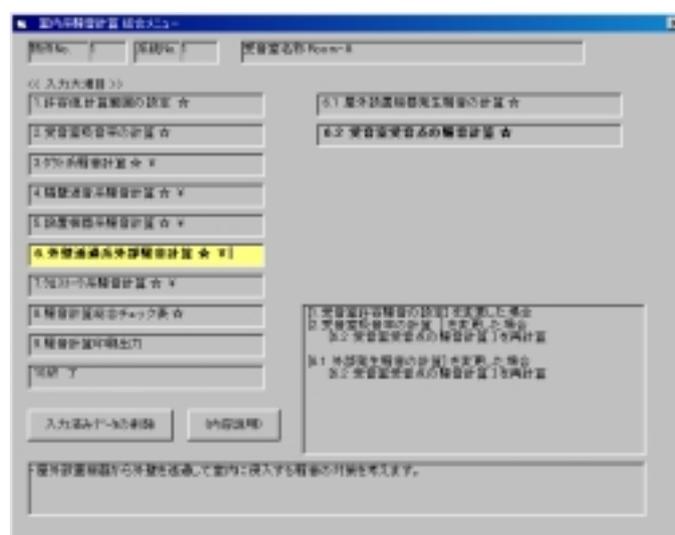


図 3 - 66

## 6-1. 屋外設置機器発生騒音入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-66 ) で『 6.1 屋外設置機器発生騒音の計算 』を選択した場合 [ 外部発生騒音の計算 ] ( 図 3-67 ) が表示されます。

### 《入力操作》

#### ( 1 ) 音源名称

音源名称を入力します。

#### ( 2 ) 計算方式

建設省方式、建築学会方式、測定値 SPL、カタログ値 PWL の計算方式が用意されています。( 図 3-68 ) リストのなかから選択します。

#### ( 3 ) 受信室内レベル

受信室が拡散音場であるか否かを選択する。

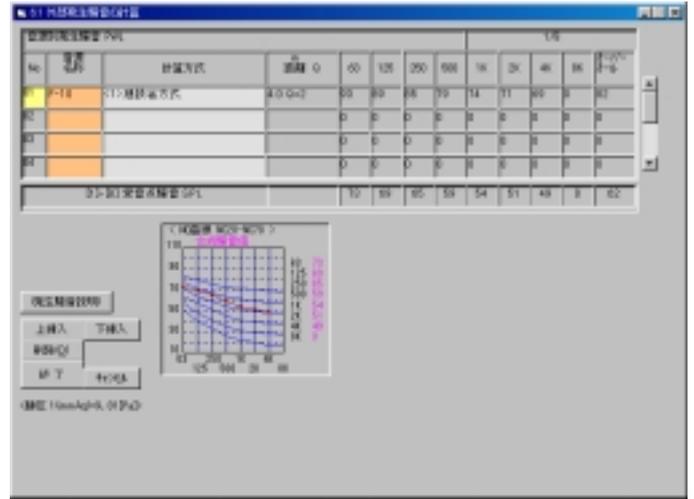


図 3 - 67

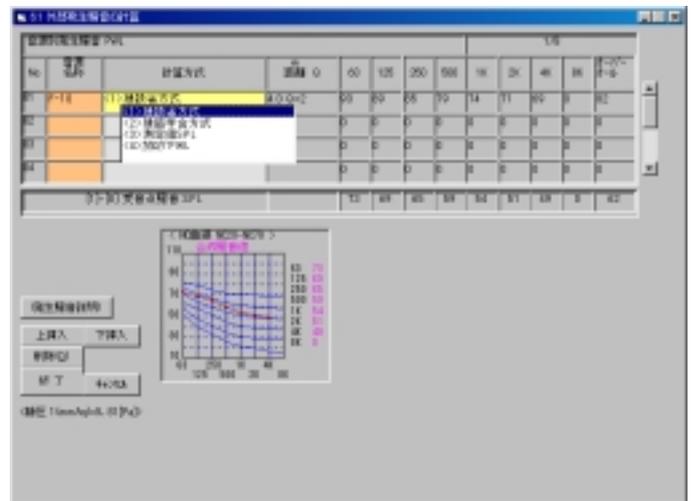


図 3 - 68

### 6-1-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると ( 図 3-69 ) が表示されます。

### 《入力操作》

#### ( 1 ) 送風機形式

リストから選択します。

#### ( 2 ) 風量

風量を入力します。

#### ( 3 ) 静圧

静圧を入力します。

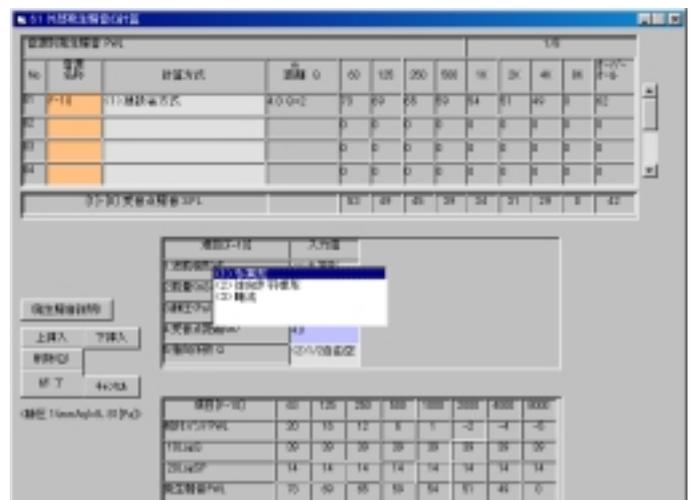


図 6 - 69

### 6-1-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると（図 3-70）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。

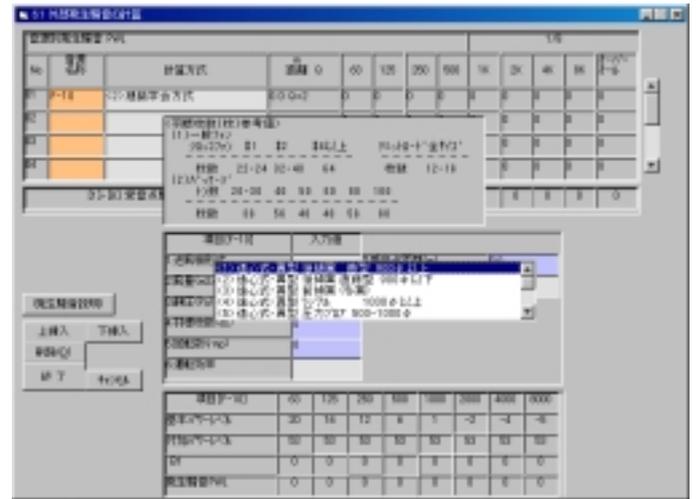


図 6-70

### 6-1-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると（図 3-71）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 測定値  
測定した騒音値を入力します。
- (2) 音源との距離  
音源と測定点との距離を入力します。
- (3) 指向係数  
音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。
- (4) 風量  
風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

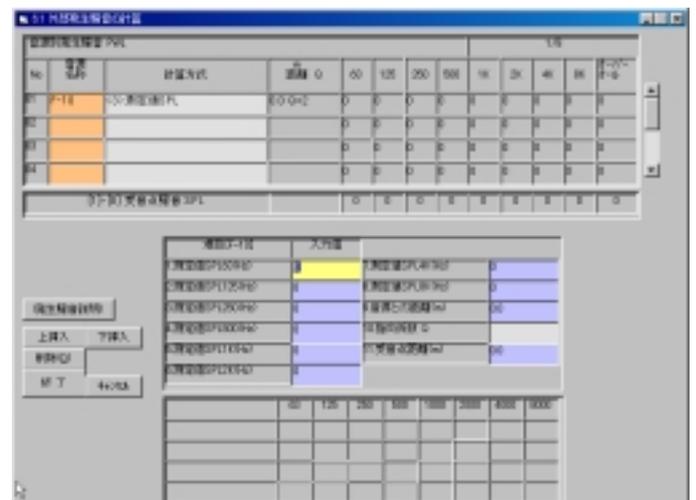


図 6-71

#### 6-1-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると ( 図 3-72 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### ( 1 ) カタログ値

カタログなどから入手した P W L を入力します。

##### ( 2 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

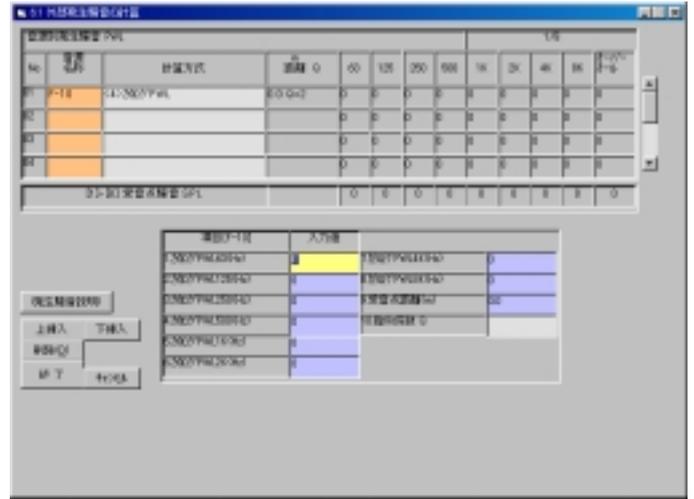


図 6-72

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-66 ) に戻ります。

#### 6-2. 受音室受音点の騒音計算入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-66 ) で 『6.2 受音室受音点の騒音計算』を選択した場合 [ 受音室受音点 ] ( 図 3-73 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### ( 1 ) 外壁面積

受音室と音源との隔壁 ( 外壁 ) の面積 ( 幅、高さ ) を入力します。



図 3-73

##### ( 2 ) 外壁透過損失

外壁透過損失部分をクリックするとリスト ( 図 3-74 ) が表示されます。



図 3-74

受音室と音源との隔壁（外壁）の透過損失値（外壁を選択することにより、透過損失値を選択します。）をリストのなかから選択します。（図 3-75）が表示されます。

（ 3 ） 受音点との距離

受音室と音源との隔壁間仕切壁（外壁）と受音点との距離を入力します。

（ 4 ） 壁施工安全率

受音室と音源との隔壁間仕切壁（外壁）が、施工上透過しやすい部分が出ることを考慮し、透過損失値から差し引く数値を入力する。

削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] （図 3-66）に戻ります。



図 3 - 75

7 . クロストーク系騒音計算データの入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] （図 3-3）で『7 . クロストーク系外部騒音計算』を選択した場合 [ 室内系騒音計算総合メニュー ] （図 3-76）が表示されます。

[ クロストーク系騒音計算 ] は

- 『 1 . クロストーク音源室吸音率』
- 『 2 . 音源室入射係数の計算』
- 『 3 . クロストーク分配比係数計算』
- 『 4 . クロストーク系寄与係数』
- 『 5 . 実効吹出口数・放射係数の計算』
- 『 6 . 受音点騒音チェック・必要減音量計算』
- 『 7 . 消音装置の設計』

からなっています。

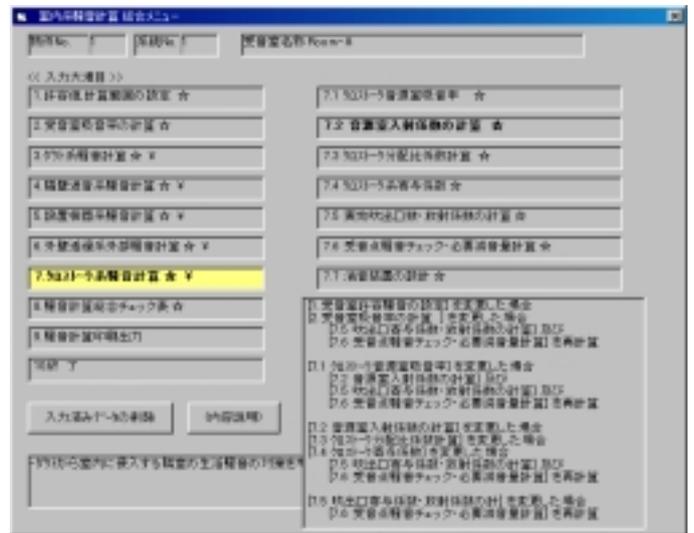


図 3 - 76

## 7-1. クロストーク音源室吸音率入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) で『7.1 クロストーク音源室吸音率』を選択した場合 [クロストーク音源室吸音率] (図 3-77) が表示されます。

吸音率の計算は詳細計算と概略計算の 2 通りが用意されております。いずれが選択してください。



図 3-77

### 7-1-1. 詳細計算

#### 《入力操作》

##### (1) 区分

区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-78) リストのなかから選択します。

##### (2) 面積

面積を入力します。



図 3-78

##### (3) 仕上げ材

仕上げ材をクリックするとリストが表示されます。(図 3-79) リストのなかから選択します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) に戻ります。

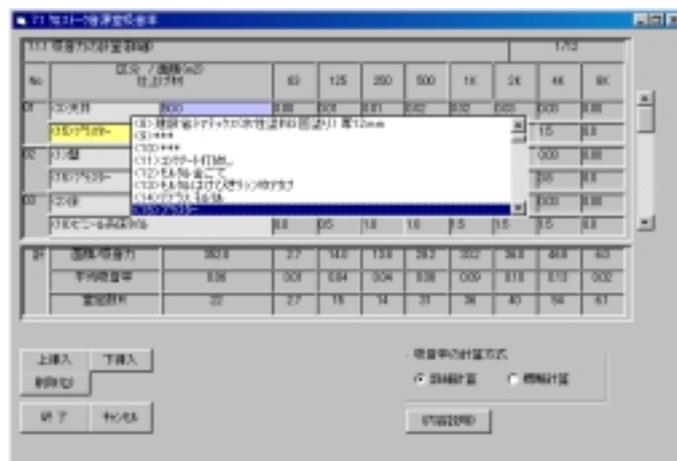


図 3-79

## 7-1-2.概略計算

吸音率の計算方式の選択を概略計算とすると（図 3-80）が表示されます。

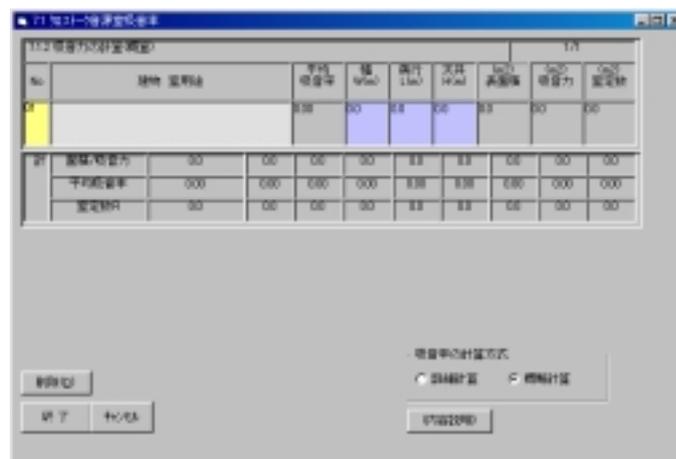


図 3 - 80

### 《入力操作》

#### （ 1 ）建物室用途

建物室用途区分をクリックするとリストが表示されます。（図 3-81）リストのなかから選択します。

#### （ 2 ）表面積

幅、奥行、天井高さを入力します。



図 3 - 81

『キャンセル』をクリックするとこの画面上での作業内容が保存されず、作業前の状態となります。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] （図 3-76）に戻ります。

## 7-2.音源室入射係数入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) で『7.2 音源室入射係数の計算』を選択した場合 [クロストーク音源室入射係数の計算] (図 3-82) が表示されます。

### 《入力操作》

#### (1) 会話音

会音をクリックするとリストが表示されます。(図 3-83) リストのなかから選択します。

#### (2) ダクト開口

ダクト開口の幅、高さを入力します。

#### (3) 指向係数

指向係数をクリックするとリストが表示されます。(図 3-84) リストのなかから選択します。

#### (4) 音源との距離

音源との距離を入力します。

#### (5) 角度

音源とダクト開口面法線となす角度を入力します。

削除、キャンセルは 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) に戻ります。



図 3-82

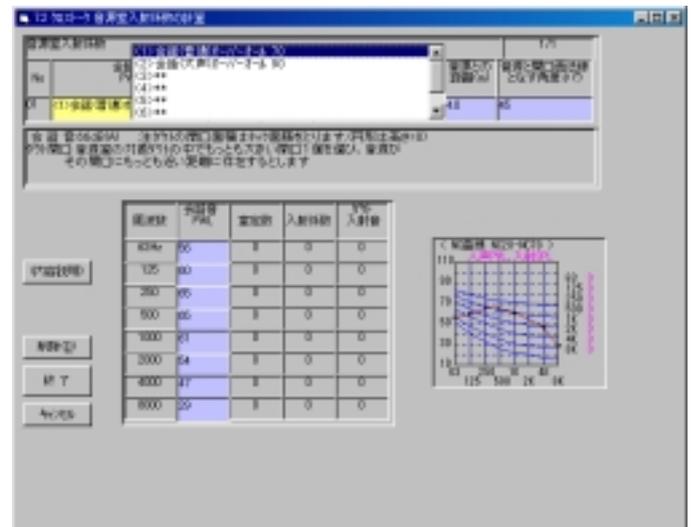


図 3-83

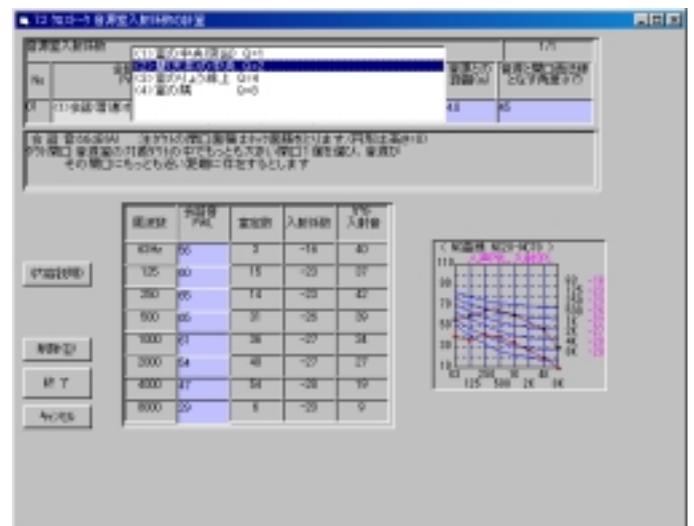


図 3-84



削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-76 ) に戻ります。

#### 7-5. 実効吹出口数・放射係数の計算入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-76 ) で 『7.5 実効吹出口数・放射係数の計算』を選択した場合 [ クロストーク系実効吹出口数 ] ( 図 3-88 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

- ( 1 ) 指向係数  
開口位置指向係数をリストのなかから選択します。
- ( 2 ) 受音点との距離  
開口と受音点との距離を入力します。
- ( 3 ) 放射角  
放射角をリストのなかから選択します。
- ( 4 ) 吹出口個数  
吹出口の個数を入力します。
- ( 5 ) 限界距離内実効吹出口個数  
限界距離内にある吹出口の個数を入力します。
- ( 6 ) 吹出口種類  
吹出口の種類をリストのなかから選択します。
- ( 7 ) 吹出口サイズ  
吹出口サイズを入力します。

削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-76 ) に戻ります。

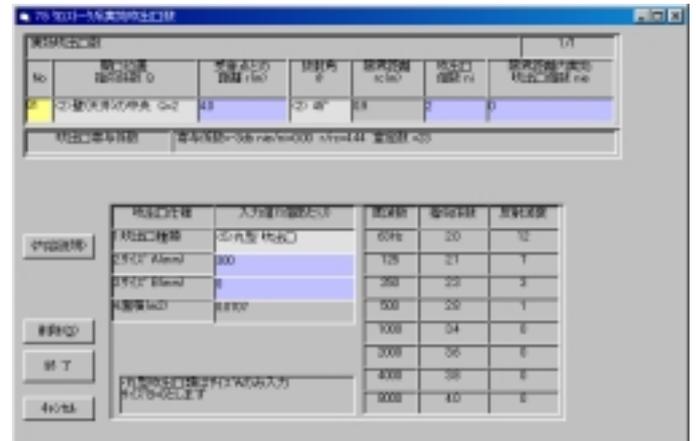


図 3 - 88

## 7-6. 受信点騒音チェック・必要減音量計算入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) で『7.6 受信点騒音チェック・必要減音量計算』を選択した場合 [クロストーク系受信点騒音チェック・必要減音量計算] (図 3-89) が表示されます。

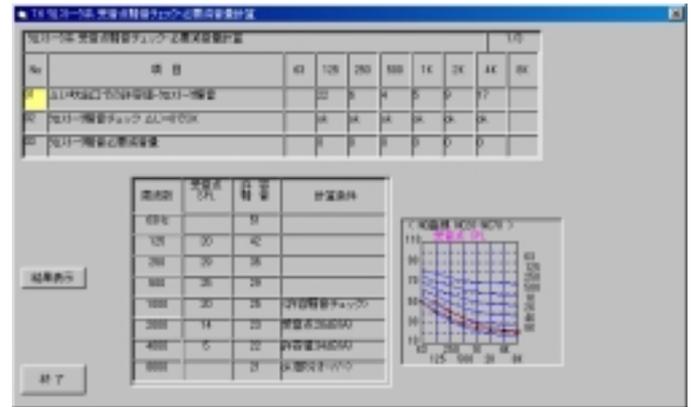


図 3-89

『結果表示』をクリックすると (図 3-90) が表示されます。

削除、キャンセルは 2. 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) に戻ります。



図 3-90

## 7-7. 消音装置の設計入力

[室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) で『7.7 消音装置の設計』を選択した場合 [クロストーク消音装置の設計] (図 3-91) が表示されます。

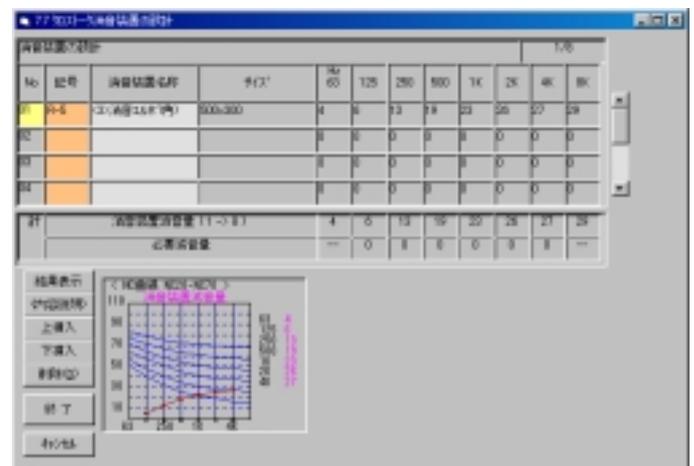


図 3-91

消音装置は消音装置名称をクリックするとリストが表示されます。(図 3-92) リストから選択します。

消音装置の設計入力方法として

1. 消音チャンバー
2. 内張直角エルボ
3. 消音エルボ(角)
4. 消音エルボ(丸)
5. 吹出口ボックス
6. 吸音材内貼ダクト
7. 建設省データ
8. その他(直接入力)

が用意されています。

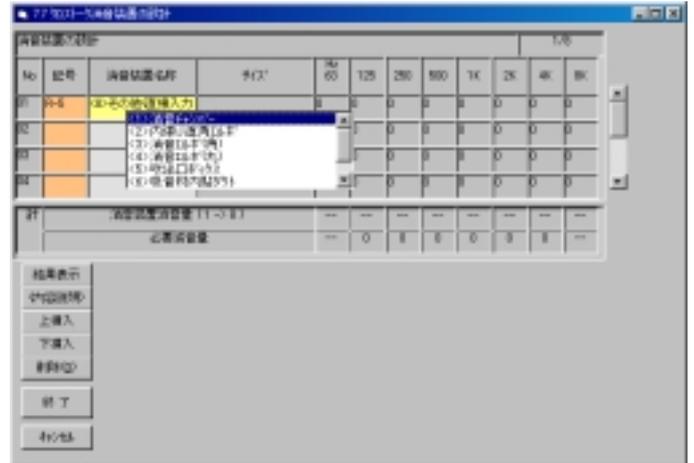


図 3-92

#### 7-7-1. 消音チャンバー入力

(図 3-92) で“消音チャンバー”を選択した場合(図 3-93)が表示されます。

《入力操作》

##### (1) 吸音材料

チャンバー内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。

##### (2) 吸音率

マスター値を変更する場合は入力します。

##### (3) チャンバーサイズ

チャンバーサイズ a、b、c を入力します。

##### (4) 音源側サイズ

音源側ダクトサイズ入力します。

##### (5) 出口側サイズ

出口側ダクトサイズ入力します。

##### (6) 開口位置関係

リストのなかから選択します。



図 3-93

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー] (図 3-76) に戻ります。

### 7-7-2. 内張直角エルボ入力

(図 3-92) で“内張直角エルボ”を選択した場合(図 3-94)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) ダクトサイズ

内張直角エルボサイズを入力します。

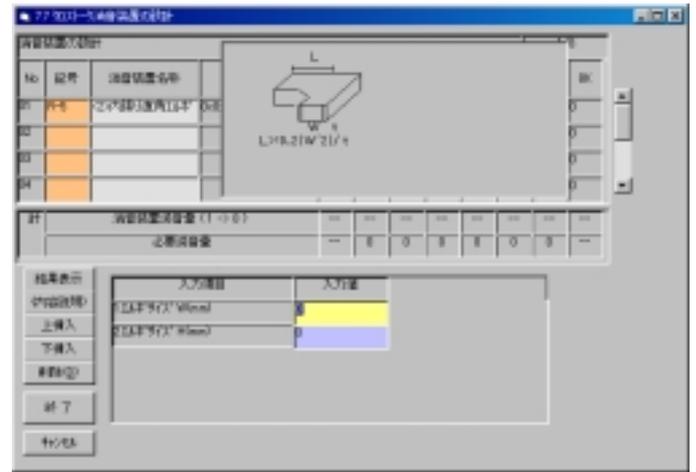


図 3-94

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-76)に戻ります。

### 7-7-3. 消音エルボ(角)入力

(図 3-92) で“消音エルボ(角)”を選択した場合(図 3-95)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) ダクトサイズ

消音エルボ(角)サイズを入力します。

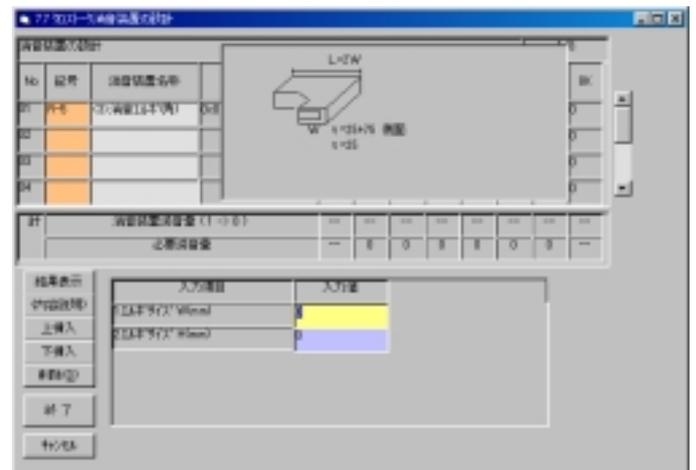


図 3-95

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-76)に戻ります。

#### 7-7-4. 消音エルボ（丸）入力

（図 3-92）で“消音エルボ（丸）”を選択した場合（図 3-96）が表示されます。

##### 《入力操作》

- （1）ダクトサイズ  
消音エルボ（丸）サイズを入力します。

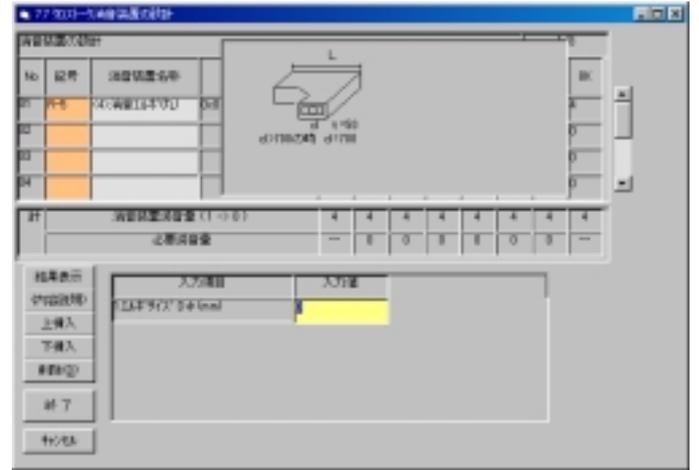


図 3-96

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [室内系騒音計算総合メニュー]（図 3-76）に戻ります。

#### 7-7-5. 吹出口ボックス入力

（図 3-92）で“吹出口ボックス”を選択した場合（図 3-97）が表示されます。

##### 《入力操作》

- （1）吸音材料  
吹出口ボックス内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。
- （2）吸音率  
マスター値を変更する場合は入力します。
- （3）チャンバータイプ  
チャンバータイプをリストのなかから選択します。
- （4）チャンバーサイズ  
チャンバーサイズ C1、C2 を入力します。
- （5）音源側サイズ  
音源側ダクトサイズ入力します。
- （6）出口側サイズ  
出口側ダクトサイズ入力します。
- （7）内貼チャンバー長さ  
内貼チャンバー長さ入力します。

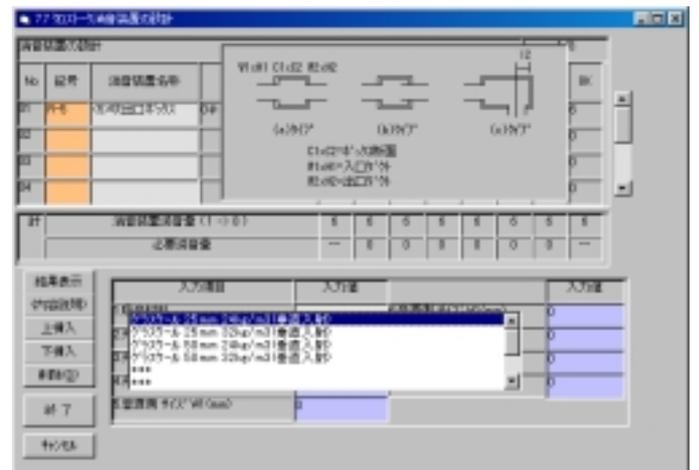


図 3-97

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-76 ) に戻ります。

#### 7-7-6. 吸音材内貼りダクト入力

( 図 3-92 ) で “ 吸音材内貼りダクト ” を選択した場合 ( 図 3-98 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### ( 1 ) 吸音材料

ダクト内貼り吸音材料をリストの中から選択します。

##### ( 2 ) 吸音率

マスター値を変更する場合は入力します。

##### ( 3 ) ダクトサイズ

ダクトサイズを入力します。

##### ( 4 ) チャンバーサイズ

チャンバーサイズ C1、C2 を入力します。

##### ( 5 ) 内貼りダクト長さ

内貼りダクト長さを入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-76 ) に戻ります。

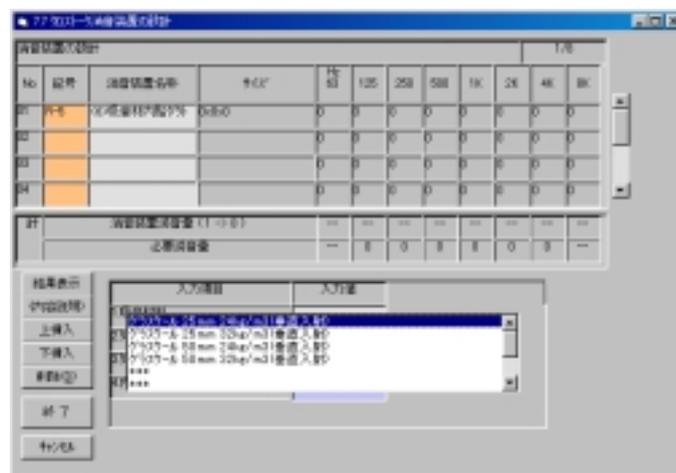


図 3 - 98

### 7-7-7. 建設省データ入力

(図 3-92) で“建設省データ”を選択した場合(図 3-99)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) 消音装置選択

消音装置をリストのなかから選択します。

##### (2) 個数または長さ

選択した消音装置によって個数または長さを入力します。

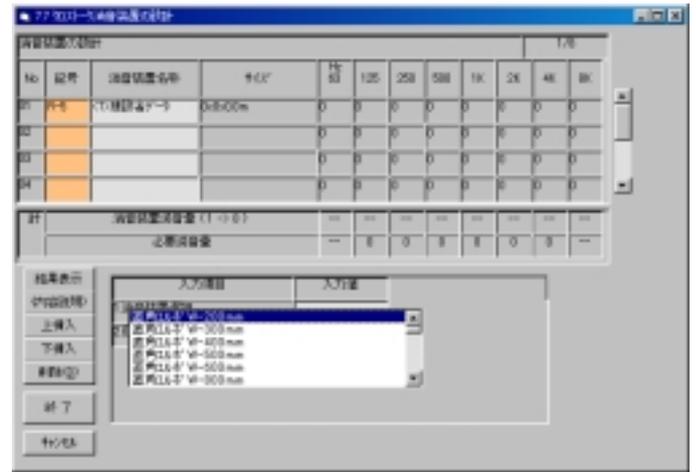


図 3-99

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-76)に戻ります。

### 7-7-8. 直接入力データ入力

(図 3-92) で“その他(直接入力)”を選択した場合(図 3-100)が表示されます。

#### 《入力操作》

##### (1) メモ

消音装置名称を入力します。

##### (2) 減音値

減音値を入力します。

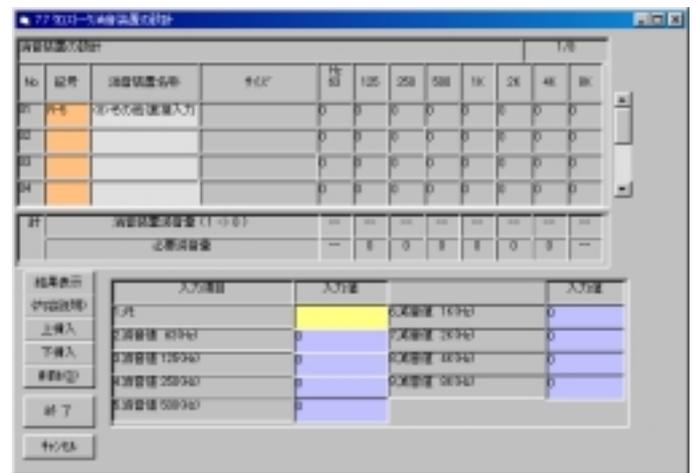


図 3-100

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-76)に戻ります。

## 8 . 騒音計算総合チェック表入力

[ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-3 ) で『 8 . 騒音計算総合チェック表 』を選択した場合 [ 騒音計算総合チェック表 ] ( 図 3-101 ) が表示されます。

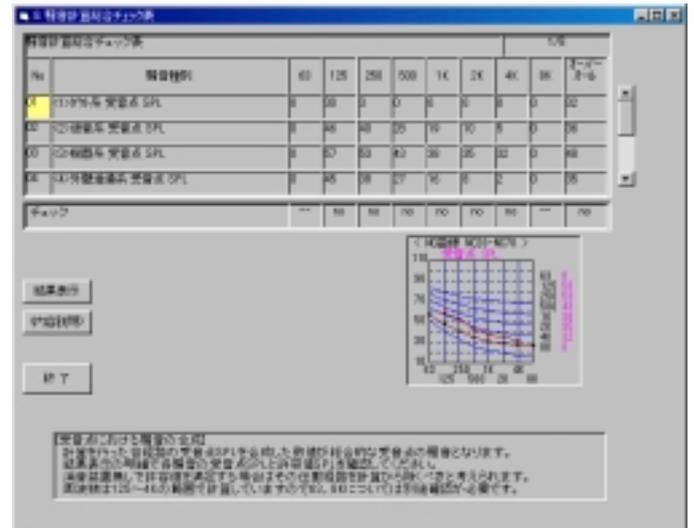


図 3 - 101

『 結果表示 』をクリックすると ( 図 3-102 ) が表示されます。

室内系騒音の総合チェックを行うことができます。

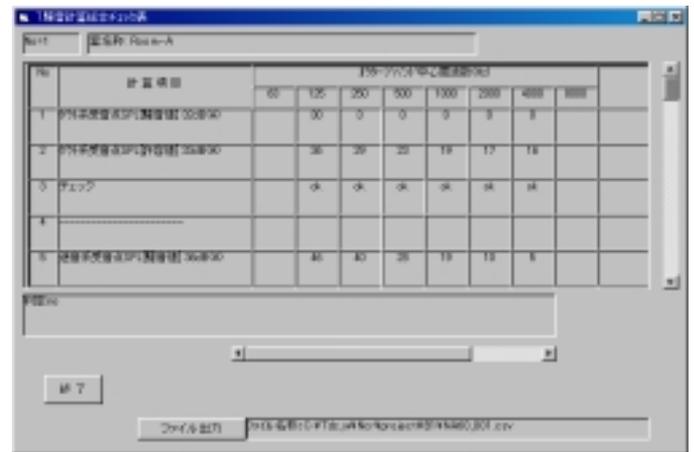


図 3 - 102

## B. 屋外系騒音計算データの入力

[ A . 入出力選択 ]( 図 3-1 )で『 2 . 屋外系騒音計算データ入出力』を選択すると[ 室外系騒音計算系統選択 ]( 図 3-103 )が表示されます。

[ 室外系騒音計算系統選択 ]は

- 『 1 . 新規作成 』
- 『 2 . 新規 ( 複写 ) 』
- 『 3 . 新規 ( 途中追加 ) 』
- 『 4 . 新規 ( 複写 + 追加 ) 』
- 『 5 . 更新 』
- 『 6 . 削除 』
- 『 7 . 組替 』
- 『 8 . 終了 』

からなっています。

《入力操作》

[ 1 . 新規作成 ]

新規に受音点を入力する場合

[ 2 . 新規 ( 複写 ) ]

入力済み受音点を複写して新しい受音点として追加登録する場合

[ 3 . 新規 ( 途中追加 ) ]

入力済みデータの途中に新しい受音点を追加する場合

[ 4 . 新規 ( 複写+追加 ) ]

入力済みデータを複写して途中に新しい受音点を追加する場合

[ 5 . 更新 ]

入力済み受音点データを更新あるいは印刷などする場合

[ 6 . 削除 ]

入力済み受音点データを削除する場合

[ 7 . 組替 ]

複数の入力済み受音点データを並び替える場合

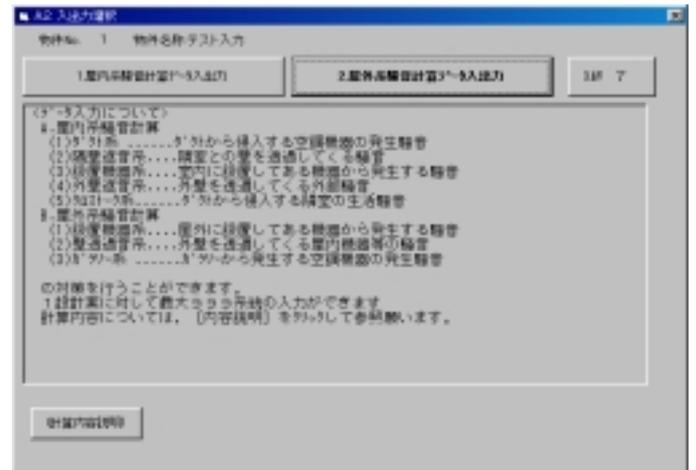


図 3 - 48



図 3 - 103

[ 室外系騒音計算系統選択 ] の『 1 . 新規作成』～『 5 . 更新』を選択した場合 [ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-104 ) が表示されます。

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] は

- 『 1 . 許容値・計算範囲の設定』
- 『 2 . 屋外設置機器系騒音計算』
- 『 3 . 遮音系騒音計算』
- 『 4 . ガラリ系騒音計算』
- 『 5 . 屋外系騒音計算総合チェック表』
- 『 6 . 屋外系印刷出力』
- 『 7 . 終了』

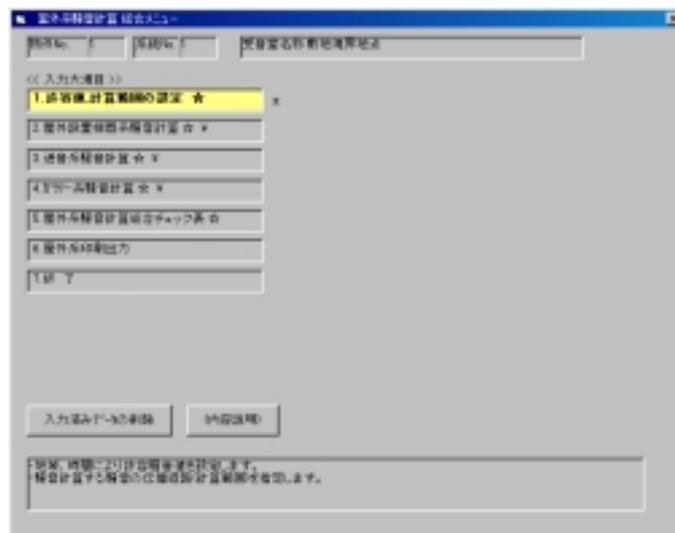


図 3 - 104

からなっています。

屋外系騒音計算は屋外設置機器系、遮音系およびガラリ系の騒音計算を総合的に計算評価出来ます。

[ 1 . 許容値・計算範囲の設定 ] はどの系の計算にも関与します。必ずデータ入力してください。

屋外設置機器系、遮音系およびガラリ系の騒音計算は [ 1 . 許容値・計算範囲の設定 ] で騒音計算を実行する系を設定します。設定されていないとデータ入力が出来ませんので、計算できません。計算させたい系は必ずこの部分で設定してください。

## 1 . 許容値・計算範囲の入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-104 ) で『 1 . 許容値・計算範囲の設定』を選択した場合 [ 1 . 屋外系騒音計算 敷地許容騒音設定 ]( 図 3-105 ) が表示されます。

《入力操作》

- ( 1 ) 敷地境界位置  
受音点名称を入力します。
- ( 2 ) 設計許容騒音  
区域、時間のリストのなかから選択します。
- ( 3 ) NC 設定ランク  
区間 時間のリストを選択して表示されたなかから選択します。

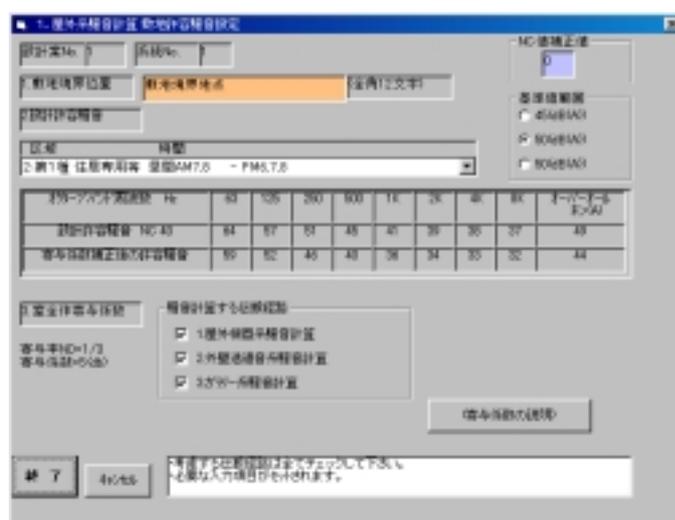


図 3 - 105

(4) NC 値補正值

設定された設計許容値を変更する場合に入力します。入力された数値が加算されます。

(5) 騒音計算する伝搬経路

騒音計算を実行する系を設定します。

- ・ 『キャンセル』をクリックするとこの画面上での作業内容が保存されず、作業前の状態となります。
- ・ 『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-104 ) に戻ります。

2. 屋外設置機器系騒音計算の入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-104 ) で 『 2. 屋外設置機器系騒音計算 』 を選択した場合 [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) が表示されます。

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] は

- 『 1. 屋外設置機器発生騒音の計算 』
- 『 2. 受信点 ( 敷地境界 ) の騒音計算 』
- 『 3. への設計 』

からなっています。

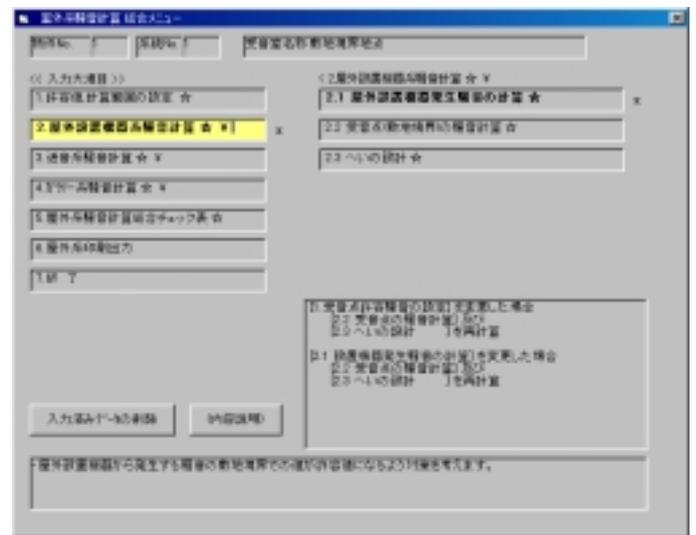


図 3 - 106

2-1. 屋外設置機器発生騒音の計算入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) で 『 2.1 屋外設置機器発生騒音の計算 』 を選択した場合 [ 屋外設置機器発生騒音の計算 ] ( 図 3-107 ) が表示されます。

《入力操作》

(1) 音源名称

音源名称を入力します。

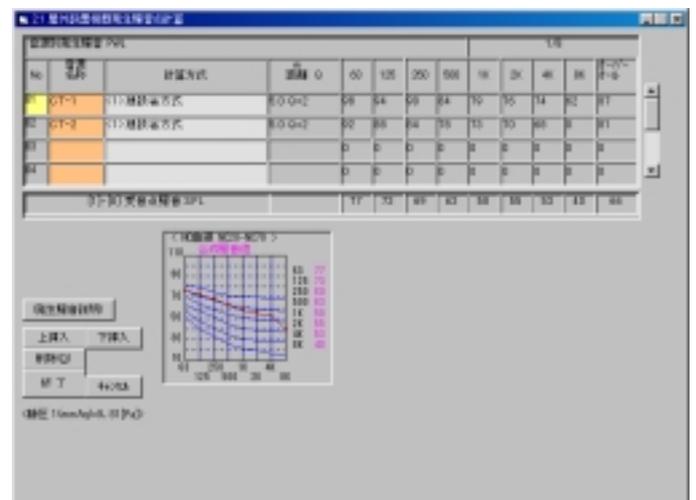


図 3 - 107

(2) 計算方式

建設省方式、建築学会方式、測定値 SPL、カタログ値 PWL の計算方式が用意されています。(図 3-108) リストのなかから選択します。

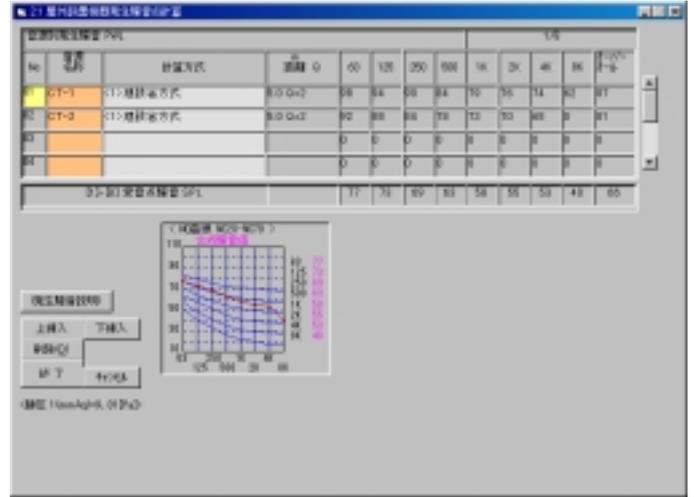


図 3 - 108

2-1-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると(図 3-109)が表示されます。

《入力操作》

- (1) 送風機形式  
リストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。

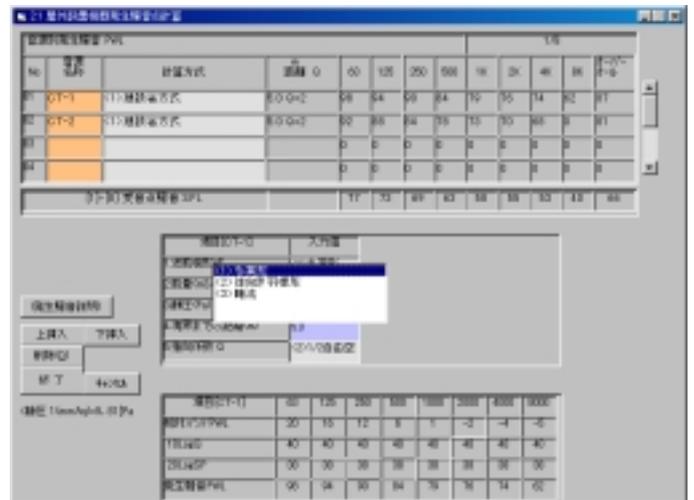


図 3 - 109

2-1-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると(図 3-110)が表示されます。

《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率

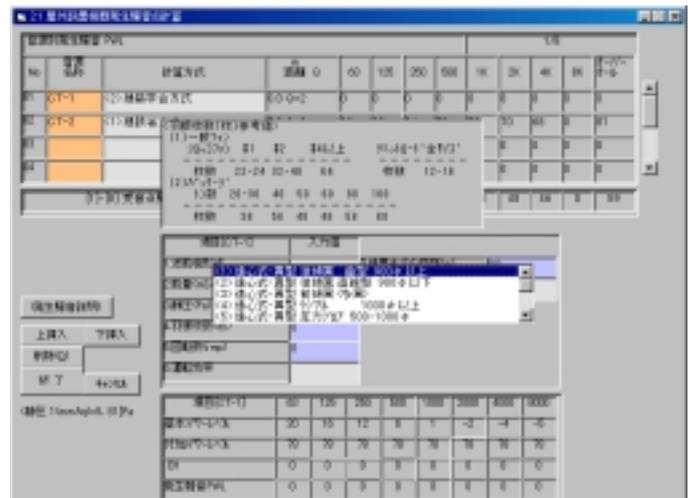


図 3 - 110

運転効率リストから選択します。

### 2-1-3. 測定値 SPL 方式

測定値 SPL 方式を選択すると ( 図 3-111 ) が表示されます。

《入力操作》

( 1 ) 測定値

測定した騒音値を入力します。

( 2 ) 音源との距離

音源と測定点との距離を入力します。

( 3 ) 指向係数

音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。

( 4 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

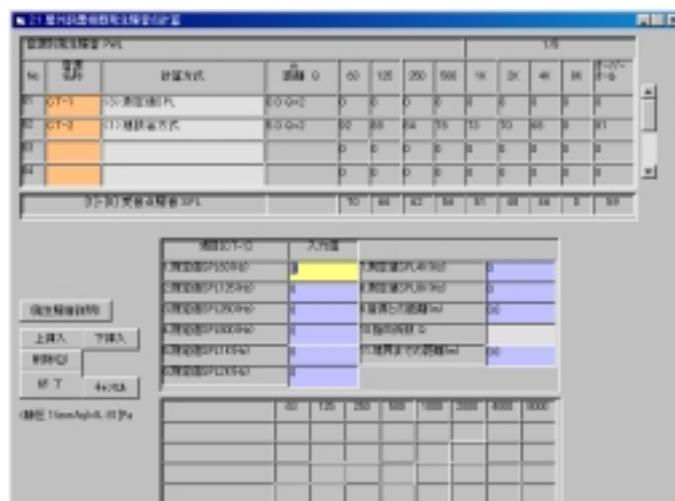


図 3 - 111

### 2-1-4. カタログ値 PWL 方式

カタログ値 PWL 方式を選択すると ( 図 3-112 ) が表示されます。

《入力操作》

( 1 ) カタログ値

カタログなどから入手した PWL を入力します。

( 2 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

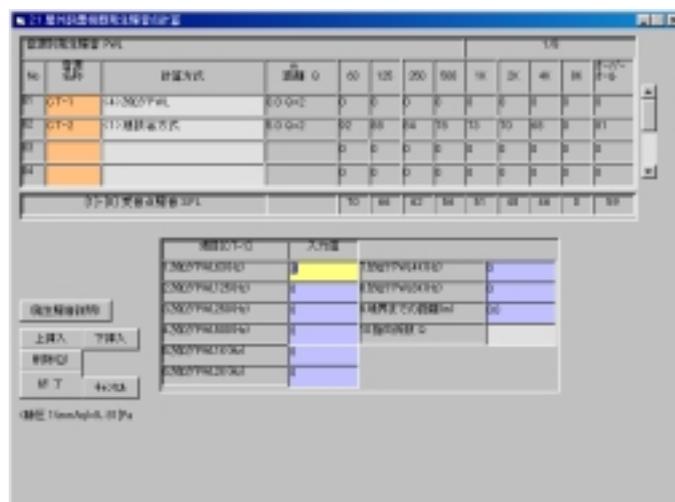


図 3 - 112

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) に戻ります。

## 2-2. 受音点（敷地境界）の騒音計算入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) で [ 2.2 受音点（敷地境界）の騒音計算 ] を選択した場合 [ 受音点（敷地境界）の騒音計算 ] ( 図 3-113 ) が表示されます。

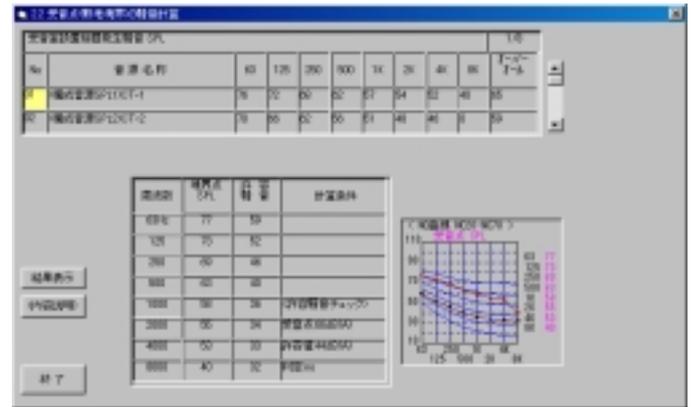


図 3 - 113

『結果表示』をクリックすると ( 図 3-114 ) が表示されます。

『終了』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) に戻ります。



図 3 - 114

## 2-3. へいの設計入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-106 ) で [ 2.3 へいの設計 ] を選択した場合 [ 屋外系遮音へいの設計・受音点騒音値 ] ( 図 3-115 ) が表示されます。

### 《入力操作》

- ( 1 ) 受音点と塀の距離  
受音点と塀の距離を入力します。
- ( 2 ) 塀の高さ  
塀の高さを入力します。
- ( 3 ) 塀の透過損失  
リストのなかから選択します。
- ( 4 ) 塀による減衰量  
リストのなかから、塀による減衰値を計算する式を選択します。
- ( 5 ) 塀の施工安全率  
隙間等を考慮し、許容騒音値から差し引く数値を入力します。



図 3 - 115

『結果表示』をクリックすると(図 3-116)が表示されます。

削除、キャンセルは屋内系騒音計算  
2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-106)に戻ります。

No.	計算項目	100-10000Hzの騒音計算							
		63	125	250	500	1000	2000	4000	8000
1	音源室発生レベル(L <sub>eq</sub> )		94	90	84	79	76	74	
2	音源室の騒音		92	88	82	77	74	72	
3	音源室の吸音率		0.1	0.05	0.02	0.01	0.005	0.002	
4	音源室の騒音(音源室境界での値)		85	80	74	69	66	64	
5	必要吸音率		38	35	32	27	24	22	

図 3-116

### 3. 遮音系騒音計算の入力

[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-104)で『3. 遮音系騒音計算』を選択した場合[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-117)が表示されます。

[遮音系騒音計算]は

- 『1. 音源室吸音率の計算』
- 『2. 音源室発生騒音の計算』
- 『3. 受音点(敷地境界)の騒音計算』

からなっています。

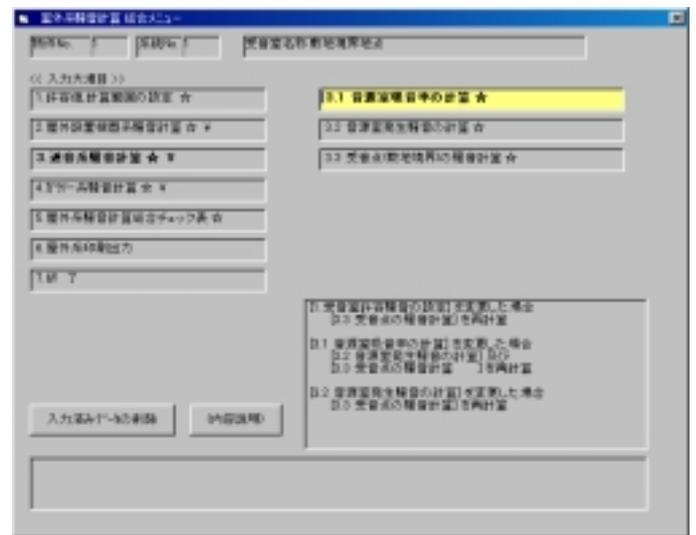


図 3-117

#### 3-1. 音源室吸音率入力

[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-117)で『3.1 音源室吸音率の計算』を選択した場合[音源室吸音率](図 3-118)が表示されます。

吸音率の計算は詳細計算と概略計算の2通りが用意されております。いずれか選択してください。

No.	計算項目	100-10000Hzの騒音計算							
		63	125	250	500	1k	2k	4k	8k
01	音源室	0.08	0.04	0.01	0.005	0.002	0.001	0.0005	0.0002
02	音源室の騒音	88	85	81	76	73	70	68	66
03	音源室の吸音率	0.08	0.04	0.01	0.005	0.002	0.001	0.0005	0.0002
04	音源室の騒音(音源室境界での値)	88	85	81	76	73	70	68	66
05	必要吸音率	38	35	32	27	24	22	20	18
計	音源室境界	20.8	20	18	14	12	11	10	9
	平均吸音率	0.08	0.04	0.01	0.005	0.002	0.001	0.0005	0.0002
	必要吸音率	38	35	32	27	24	22	20	18

図 3-118

### 3-1-1. 詳細計算

#### 《入力操作》

##### (1) 区分

区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-119) リストのなかから選択します。

##### (2) 面積

面積を入力します。

##### (3) 仕上げ材

仕上げ材をクリックするとリストが表示されます。(図 3-120) リストのなかから選択します。

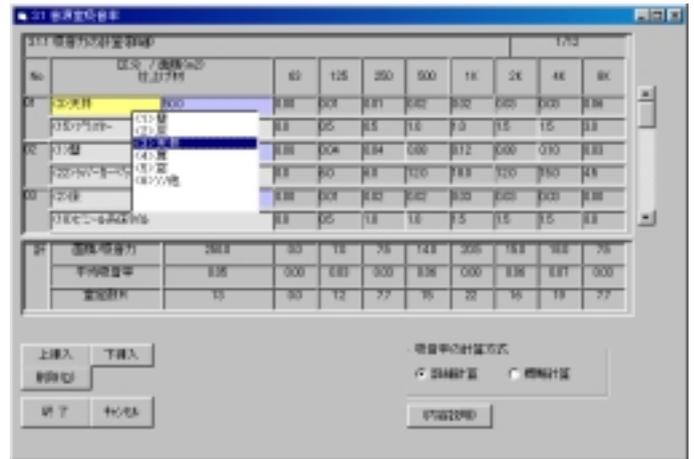


図 3 - 119

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは  
屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] (図 3-117) に戻ります。

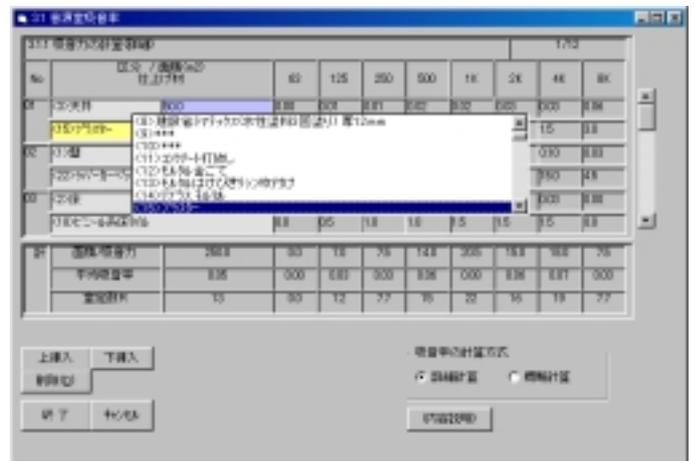


図 3 - 120

### 3-1-2. 概略計算

吸音率の計算方式の選択を概略計算とすると (図 3-121) が表示されます。

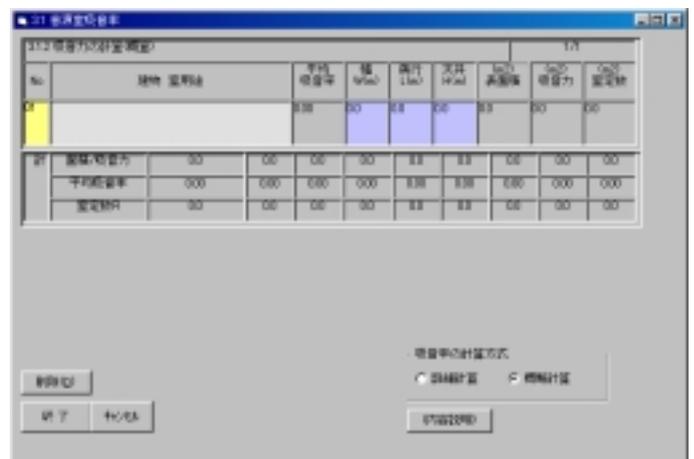


図 3 - 121

## 《入力操作》

### (1) 建物室用途

建物室用途区分をクリックするとリストが表示されます。(図 3-122) リストのなかから選択します。

### (2) 表面積

幅、奥行、天井高さを入力します。

『キャンセル』をクリックするとこの画面上での作業内容が保存されず、作業前の状態となります。

『終了』、『キャンセル』で[室内系騒音計算総合メニュー](図 3-117)に戻ります。

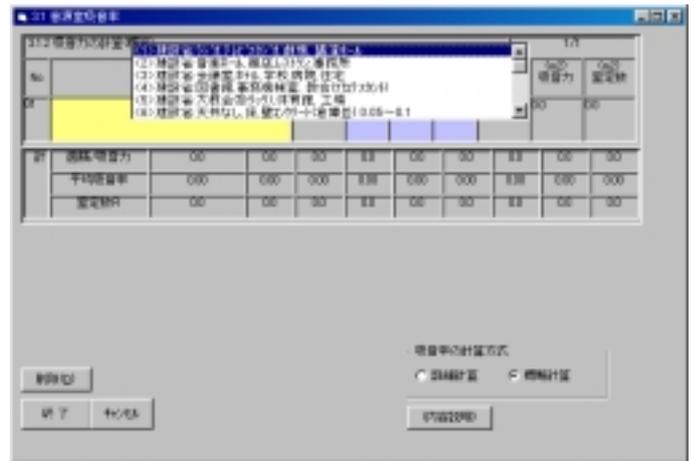


図 3 - 122

## 3-2. 音源室発生騒音入力

[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-117)で『3.2 音源室発生騒音の計算』を選択した場合[遮音系音源室発生騒音の計算](図 3-123)が表示されます。

## 《入力操作》

### (1) 音源名称

音源名称を入力します。

### (2) 計算方式

建設省方式、建築学会方式、測定値 SPL、カタログ値 PWL の計算方式が用意されています。(図 3-124) リストのなかから選択します。

### (3) 音源室内レベル

音源室が拡散音場であるか否かを選択する。



図 3 - 123

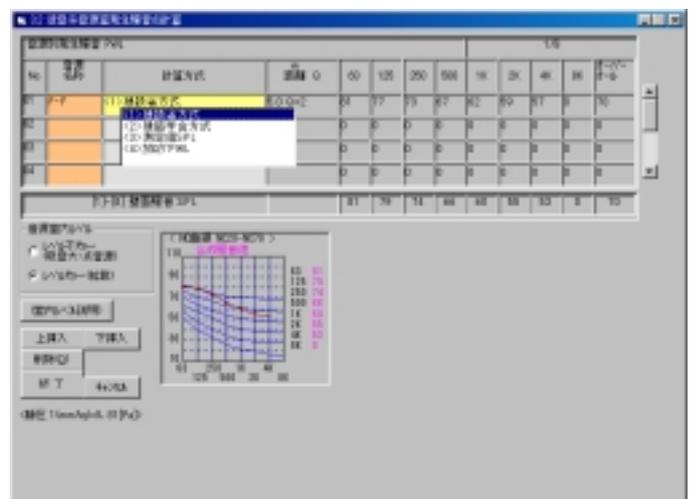


図 3 - 124

### 3-2-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると（図 3-125）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
リストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。

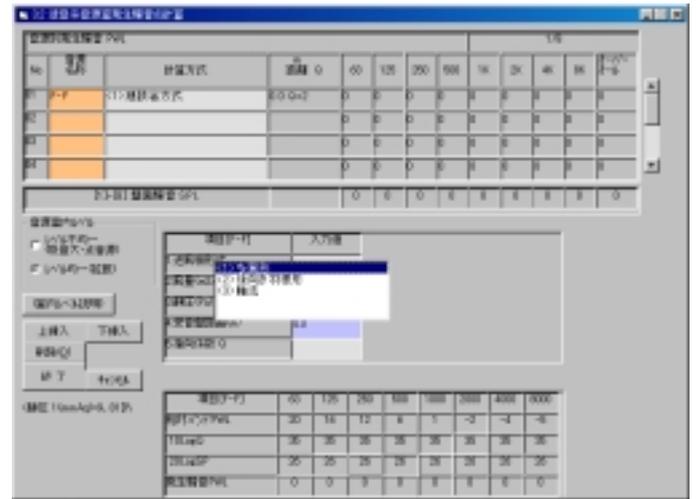


図 3-125

### 3-2-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると（図 3-126）が表示されます。

#### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。

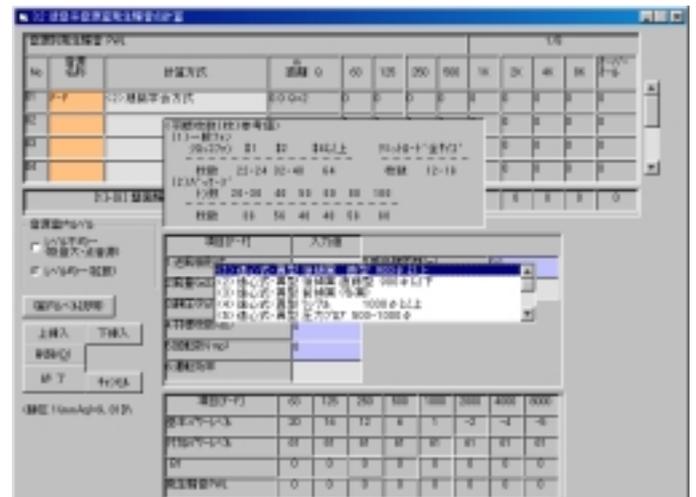


図 3-126

### 3-2-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると ( 図 3-127 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

( 1 ) 測定値

測定した騒音値を入力します。

( 2 ) 音源との距離

音源と測定点との距離を入力します。

( 3 ) 指向係数

音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。

( 4 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

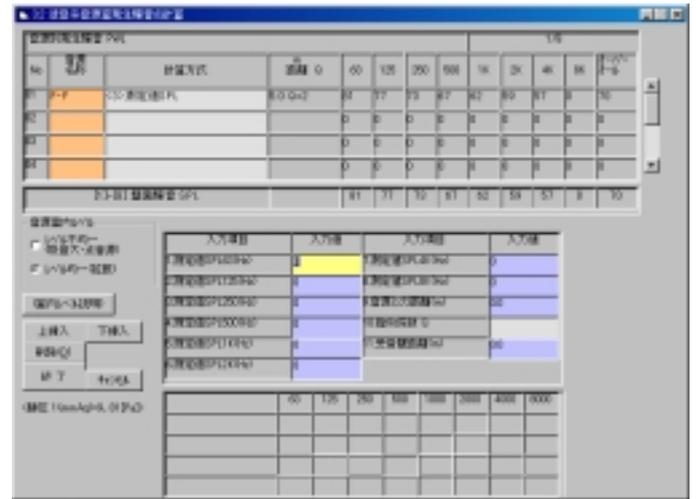


図 3 - 127

### 3-2-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると ( 図 3-128 ) が表示されます。

#### 《入力操作》

( 1 ) カタログ値

カタログなどから入手した P W L を入力します。

( 2 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

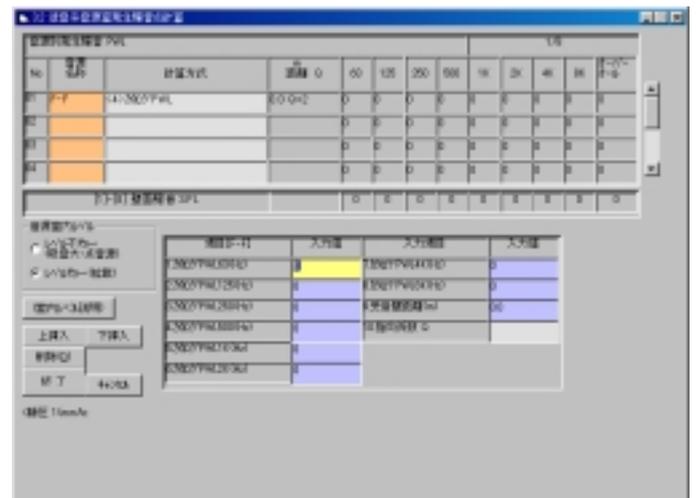


図 3 - 128

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-117 ) に戻ります。

### 3-3. 受音点（敷地境界）の騒音計算入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-117 )で『3.3 受音点（敷地境界）の騒音計算』を選択した場合 [ 屋外系外壁透過騒音受音点 ]( 図 3-129 )が表示されます。

#### 《入力操作》

##### ( 1 ) 外壁面積

外壁の面積（幅、高さ）を入力します。

##### ( 2 ) 外壁透過損失

外壁透過損失部分をクリックするとリスト( 図 3-130 )が表示されます。外壁の透過損失値(外壁を選択することにより、透過損失値を選択します)をリストの中から選択します。( 図 3-131 )が表示されます。

##### ( 3 ) 受音点との距離

外壁と受音点との距離を入力します。

##### ( 4 ) 指向係数

リストのなかから選択します。

##### ( 5 ) 壁施工安全率

外壁が施工上透過しやすい部分があることを考慮し、透過損失値から差し引く数値を入力する。

##### ( 6 ) 計算方法の設定

点音源、面音源いずれかを選択します。



図 3 - 129



図 3 - 130



図 3 - 131

削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室内系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-117 )に戻ります。

#### 4. ガラリ系騒音計算の入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-104 )  
で『 4. ガラリ系騒音計算 』を選択した場合  
[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )  
が表示されます。

[ ガラリ系騒音計算 ] は

- 『 1. 送風機発生騒音 』
- 『 2. ガラリ系寄与係数 』
- 『 3. ガラリ実効吹出口数・発生騒音 』
- 『 4. ガラリ騒音チェック・必要減音量  
計算 』
- 『 5. 消音装置の設計 』
- 『 6. ガラリ気流騒音計算 』

からなっています。

##### 4-1. 送風機発生騒音入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )  
で『 4.1 送風機発生騒音 』を選択した  
場合 [ ガラリ系発生騒音 ]( 図 3-133 ) が表  
示されます。

《 入力操作 》

- ( 1 ) 音源名称  
音源名称を入力します。

- ( 2 ) 計算方式  
建設省方式、建築学会方式、測定  
値 SPL、カタログ値 PWL の計算  
方式が用意されています。( 図 3-  
134 ) リストのなかから選択します。

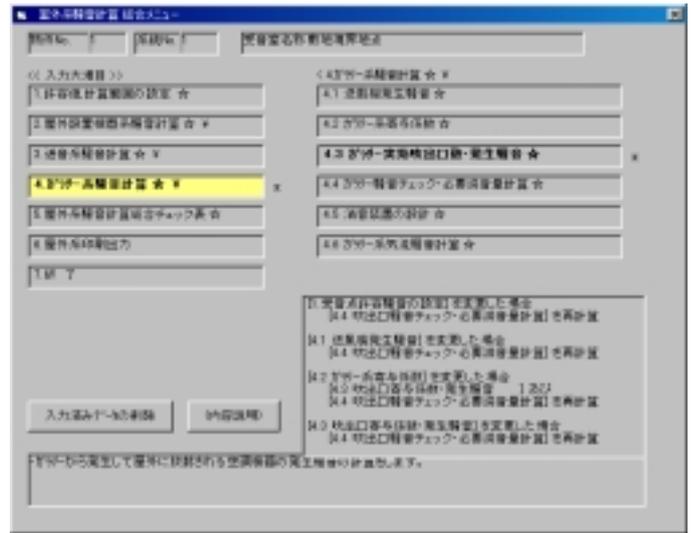


図 3 - 132

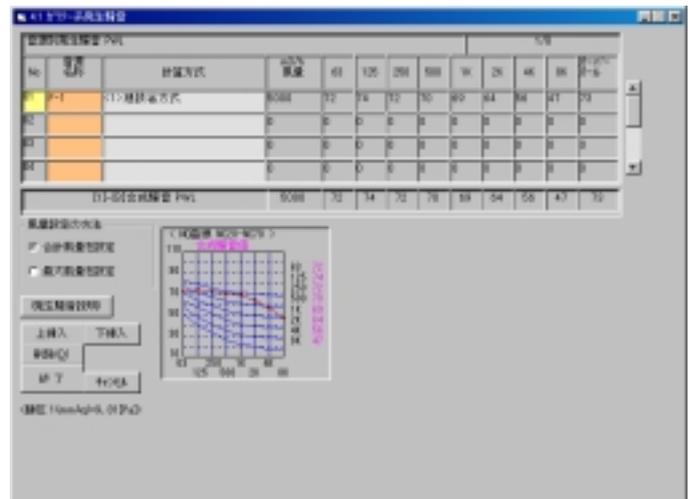


図 3 - 133

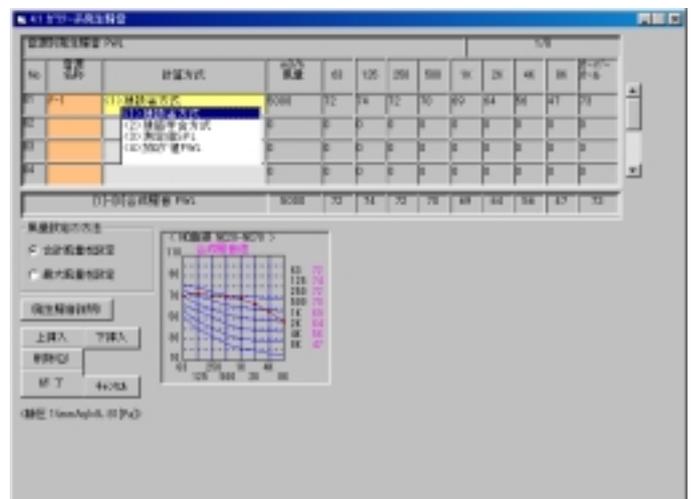


図 3 - 134

#### 4-1-1. 建設省方式

建設省方式を選択すると（図 3-135）が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
リストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。

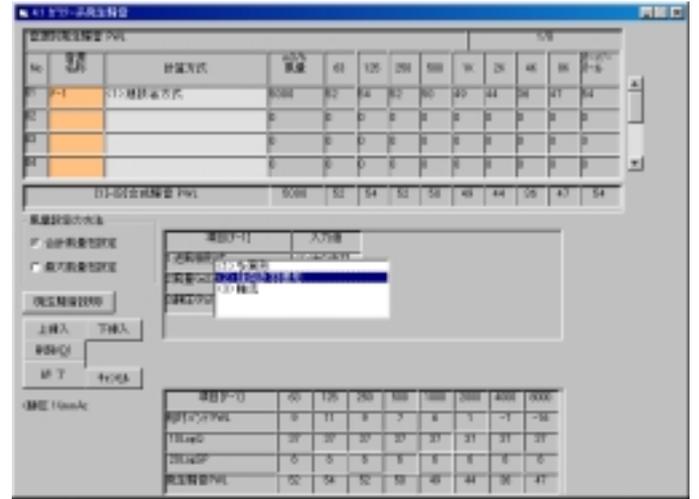


図 3 - 135

#### 4-1-2. 建築学会方式

建築学会方式を選択すると（図 3-136）が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 送風機形式  
送風機形式をリストから選択します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) 静圧  
静圧を入力します。
- (4) 羽根枚数  
羽根枚数を入力します。
- (5) 回転数  
回転数を入力します。
- (6) 運転効率  
運転効率リストから選択します。



図 3 - 136

#### 4-1-3. 測定値 S P L 方式

測定値 S P L 方式を選択すると ( 図 3-137 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### ( 1 ) 測定値

測定した騒音値を入力します。

##### ( 2 ) 音源との距離

音源と測定点との距離を入力します。

##### ( 3 ) 指向係数

音源の設置状況より判断して指向係数を入力します。

##### ( 4 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

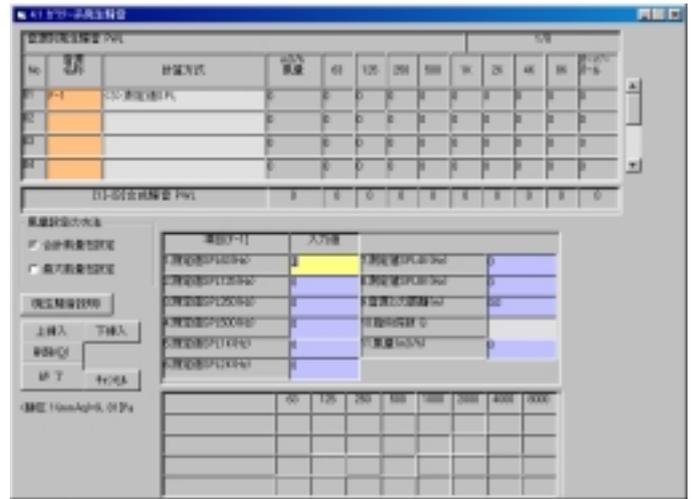


図 3 - 137

#### 4-1-4. カタログ値 P W L 方式

カタログ値 P W L 方式を選択すると ( 図 3-138 ) が表示されます。

##### 《入力操作》

##### ( 1 ) カタログ値

カタログなどから入手した P W L を入力します。

##### ( 2 ) 風量

風量を入力します。参考データですので入力しなくても差し障りはありません。

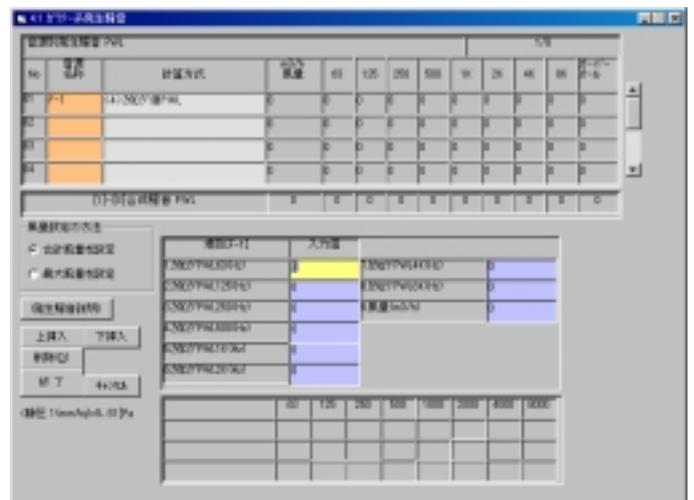


図 3 - 138

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-132 ) に戻ります。

#### 4-2. ガラリ系寄与係数入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )で『4.2 ガラリ系寄与係数』を選択した場合 [ ガラリ系寄与係数 ]( 図 3-139 )が表示されます。



図 3 - 139

##### 《入力操作》

###### ( 1 ) 風量

対象となる給気ガラリ系および排気ガラリ系各風量を入力します。

###### ( 2 ) ガラリ系寄与係数の対象となる系

給気ガラリ系および排気ガラリ系のなかから騒音計算対象の系統を選択します。

削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )に戻ります。

#### 4-3. ガラリ発生騒音入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )で『4.3 ガラリ実効吹出口数・発生騒音』を選択した場合 [ ガラリ騒音、実効吹出口数 ]( 図 3-140 )が表示されます。

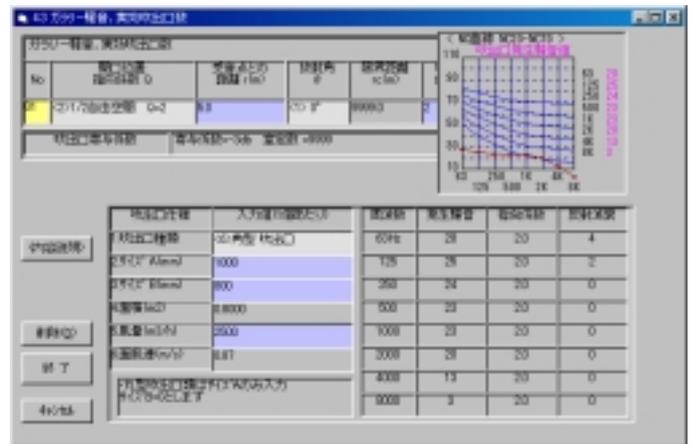


図 3 - 140

##### 《入力操作》

###### ( 1 ) 開口位置指向係数

吹出口類の取付け位置から、開口位置指向係数をリストのなかから選択します。

###### ( 2 ) 受音点との距離

吹出口類し受音点との距離を入力します。

###### ( 3 ) 放射角

放射角をリストのなかから選択します。

###### ( 4 ) 吹出口個数

ガラリの個数を入力します。

###### ( 5 ) 限界距離内実効吹出口個数

限界距離内実効吹出口 ( ガラリ ) 個数を入力します。

###### ( 6 ) 吹出口仕様

ガラリの種類をリストのなかから選択し、サイズおよび風量を入力します。

削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )に戻ります。

#### 4-4. ガラリ騒音チェック・必要減音量計算

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 ) で 『4.4 ガラリ騒音チェック・必要減音量計算』 を選択した場合 [ ガラリ系吹出口騒音チェック・必要減音量計算 ]( 図 3-141 ) が表示されます。

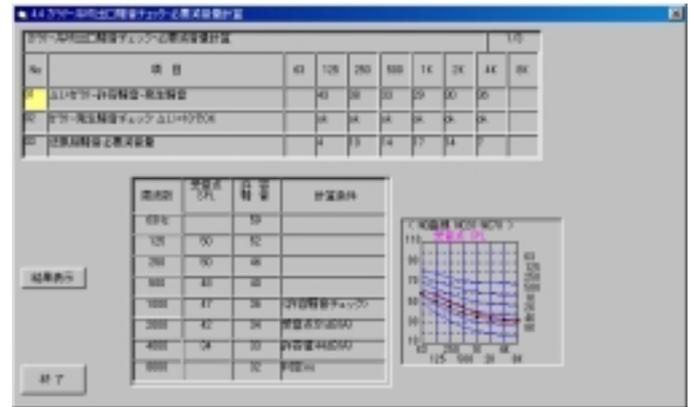


図 3 - 141

『結果表示』 をクリックすると ( 図 3-142 ) が表示されます。

『表示する内容』 でガラリ類騒音チェックとガラリ系必要減音量計算の選択が出来ます。



図 3 - 142

『終了』 で [ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 ) に戻ります。

#### 4-5.消音装置入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ]( 図 3-132 )で [ 4.5 消音装置の設計 ] を選択した場合 [ ガラリ系消音装置の設計 ]( 図 3-143 )が表示されます。

消音装置は消音装置名称をクリックするとリストが表示されます。  
( 図 3-144 ) リストのなかから選択します。

[ 消音装置の設計 ] 入力方法として

- 『 1 . 消音チャンバー 』
- 『 2 . 内張直角エルボ 』
- 『 3 . 消音エルボ ( 角 ) 』
- 『 4 . 消音エルボ ( 丸 ) 』
- 『 5 . 吹出口ボックス 』
- 『 6 . 吸音材内貼ダクト 』
- 『 7 . 建設省データ 』
- 『 8 . その他 ( 直接入力 ) 』

が用意されています。

##### 4-5-1. 消音チャンバー入力

( 図 3-144 )で “ 消音チャンバー ” を選択した場合 ( 図 3-145 )が表示されます。

##### 《入力操作》

- ( 1 ) 吸音材料  
チャンバー内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。
- ( 2 ) 吸音率  
マスター値を変更する場合は入力します。
- ( 3 ) チャンバーサイズ  
チャンバーサイズ a、b、c を入力します。
- ( 4 ) 音源側サイズ  
音源側ダクトサイズ入力します。
- ( 5 ) 出口側サイズ  
出口側ダクトサイズ入力します。
- ( 6 ) 開口位置関係

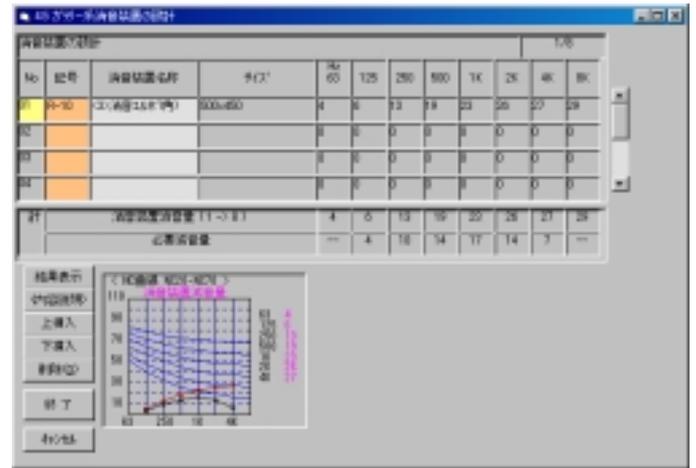


図 3 - 143

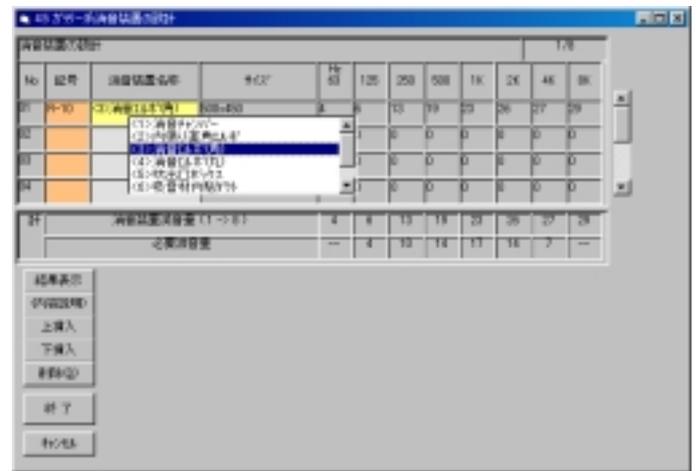


図 3 - 144



図 3 - 145

リストのなかから選択します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-132 ) に戻ります。

#### 4-5-2. 内張直角エルボ入力

( 図 3-144 ) で “ 内張直角エルボ ” を選択した場合 ( 図 3-146 ) が表示されます。

《入力操作》

( 1 ) ダクトサイズ

内張直角エルボサイズを入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

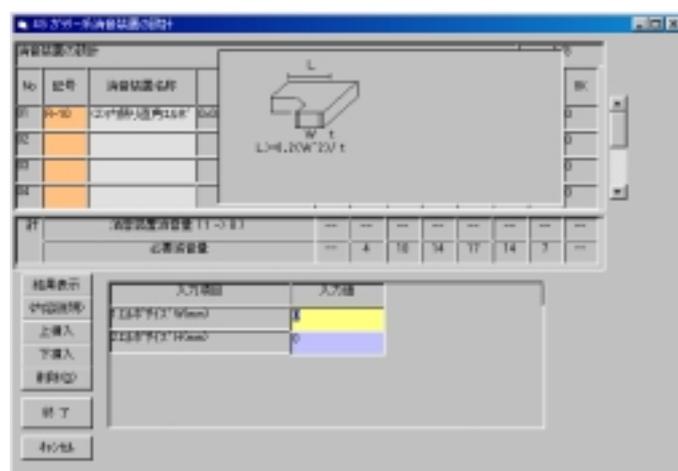


図 3 - 146

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-132 ) に戻ります。

#### 4-5-3. 消音エルボ ( 角 ) 入力

( 図 3-144 ) で “ 消音エルボ ( 角 ) ” を選択した場合 ( 図 3-147 ) が表示されます。

《入力操作》

( 1 ) ダクトサイズ

消音エルボ ( 角 ) サイズを入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

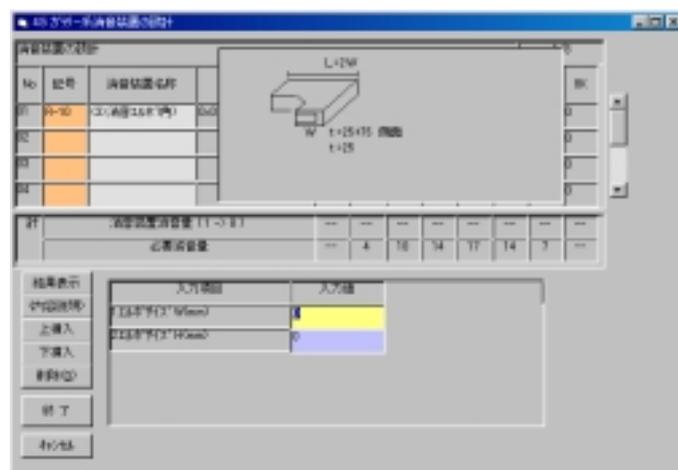


図 3 - 147

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-132 ) に戻ります。

#### 4-5-4. 消音エルボ（丸）入力

（図 3-144）で“消音エルボ（丸）”を選択した場合（図 3-148）が表示されます。

##### 《入力操作》

##### （1）ダクトサイズ

消音エルボ（丸）サイズを入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

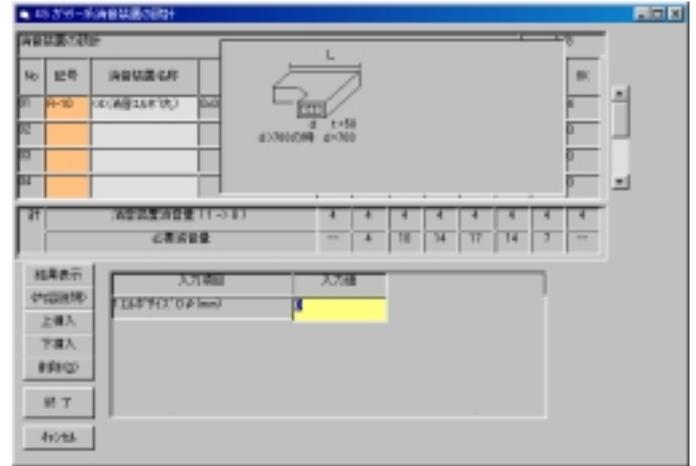


図 3 - 148

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-5-5. 吹出口ボックス入力

（図 3-144）で [ 吹出口ボックス ] を選択した場合（図 3-149）が表示されます。

##### 《入力操作》

##### （1）吸音材料

吹出口ボックス内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。

##### （2）吸音率

マスター値を変更する場合は入力します。

##### （3）チャンバertype

チャンバertypeをリストのなかから選択します。

##### （4）チャンバースize

チャンバースize C1、C2 を入力します。

##### （5）音源側Size

音源側ダクトSize入力します。

##### （6）出口側Size

出口側ダクトSize入力します。

##### （7）内貼チャンバースize

内貼チャンバースize入力します。

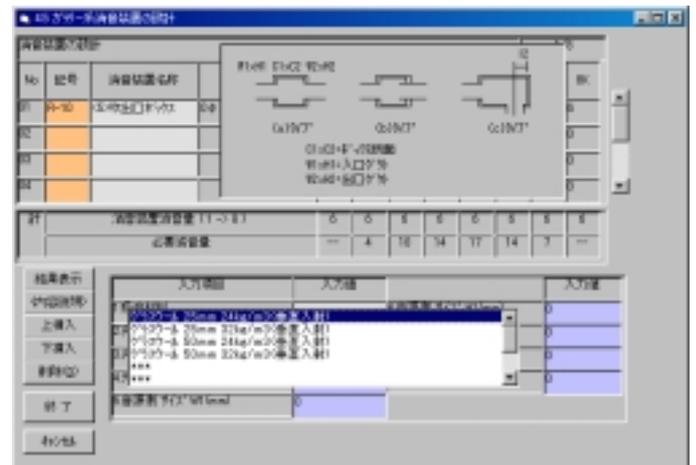


図 3 - 149

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

“終了”、“キャンセル”で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-5-6. 吸音材内貼りダクト入力

(図 3-144) で “吸音材内貼りダクト” を選択した場合 (図 3-150) が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 吸音材料  
ダクト内貼り吸音材料をリストのなかから選択します。
- (2) 吸音率  
マスター値を変更する場合は入力します。
- (3) ダクトサイズ  
ダクトサイズを入力します。
- (4) チャンバーサイズ  
チャンバーサイズ C1、C2 を入力します。
- (5) 内貼りダクト長さ  
内貼りダクト長さを入力します。

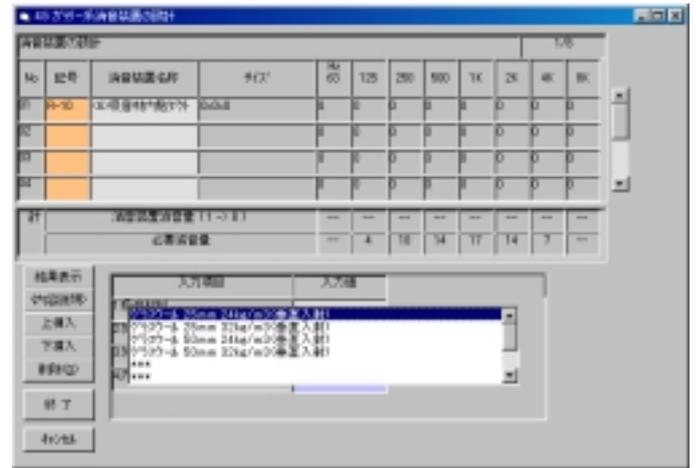


図 3 - 150

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-5-7. 建設省データ入力

(図 3-144) で “建設省データ” を選択した場合 (図 3-151) が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 消音装置選択  
消音装置をリストのなかから選択します。
- (2) 個数または長さ  
選択した消音装置におうじ、個数または長さを入力します。

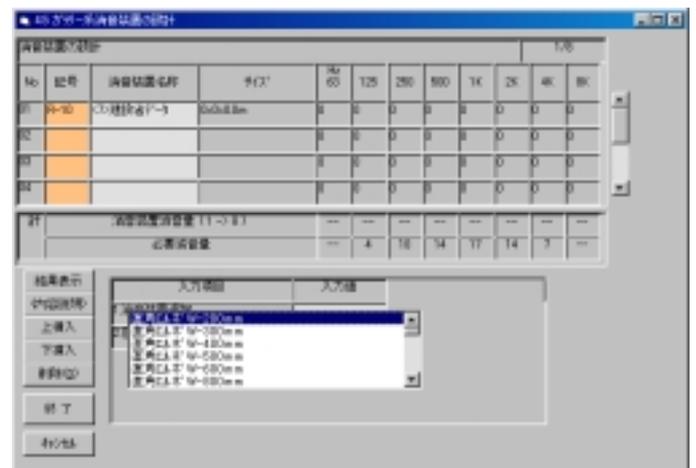


図 3 - 151

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-5-8. 直接入力データ入力

(図 3-144)で“その他(直接入力)”を選択した場合(図 3-152)が表示されます。

##### 《入力操作》

##### (1) メモ

消音装置名称を入力します。

##### (2) 減音値

減音値を入力します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2. 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-132)に戻ります。

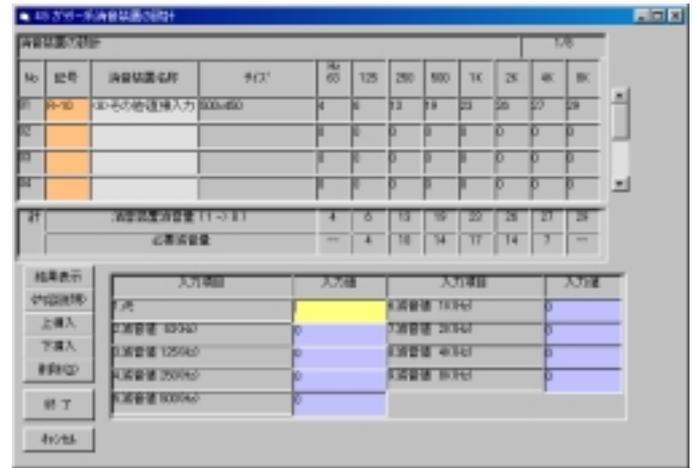


図 3 - 152

#### 4-6. ガラリ系気流騒音チェック入力

詳細にガラリ系の騒音チェックをおこなう場合に入力します。音源側から、順をおって、減音要素と騒音発生要素を入力します。

[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-132)で『4.6 ガラリ系気流騒音計算』を選択した場合[ガラリ系気流騒音チェック入力](図 3-153)が表示されます。

気流騒音チェック要素として

1. 消音装置による減音
2. 風量分岐による減音
3. ダンパー気流騒音
4. 直角エルボ気流騒音
5. 分岐気流騒音
6. 減音要素(減音値)直接入力
7. 騒音発生要素(PWL値)直接入力

が用意されています。



図 3 - 153

#### 4-6-1. 消音装置による減音入力

(図 3-153) で要素をクリックすると(図 3-154)が表示されます。



図 3 - 154

(図 3-154) で“消音装置による減音”を選択した場合(図 3-155)が表示されます。

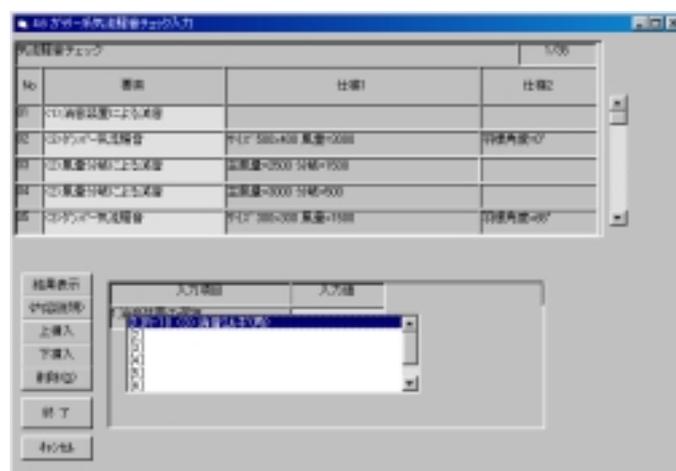


図 3 - 155

#### 《入力操作》

##### (1) 消音装置の選択

消音装置入力で入力した消音装置がリストとして表示されます。このリストのなかから選択します。

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-6-2. 風量分岐による減音入力

(図 3-154) で “ 風量分岐による減音 ” を選択した場合 (図 3-156) が表示されます。

##### 《入力操作》

- ( 1 ) 主ダクト風量  
主ダクト ( 分岐前ダクト ) の風量を入力します。
- ( 2 ) 分岐ダクト風量  
分岐ダクト ( 分岐後のダクト ) の風量を入力します。

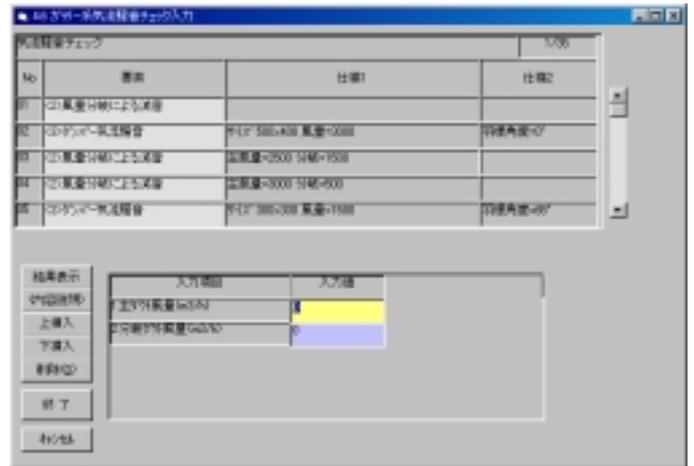


図 3 - 156

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-6-3. ダンパー気流騒音入力

(図 3-154) で “ ダンパー気流騒音 ” を選択した場合 (図 3-157) が表示されます。

##### 《入力操作》

- ( 1 ) ダンパーサイズ  
ダンパーサイズ ( 幅および高さ ) を入力します。
- ( 2 ) 風量  
風量を入力します。
- ( 3 ) 羽根角度  
リストのなかから選択します。

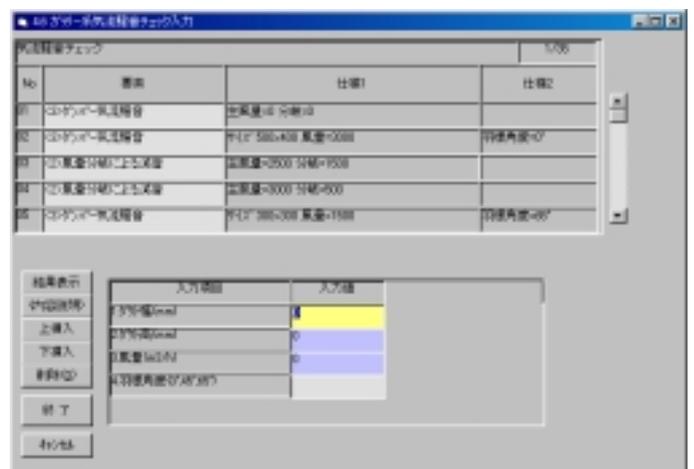


図 3 - 157

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-6-4. 直角エルボ気流騒音入力

(図 3-154) で “ 直角エルボ気流騒音 ” を選択した場合 (図 3-158) が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 直角エルボサイズ  
直角エルボサイズ (幅および高さ) を入力します。
- (2) 風量  
風量を入力します。
- (3) ガイドベーン有無  
ガイドベーンの有無を選択します。

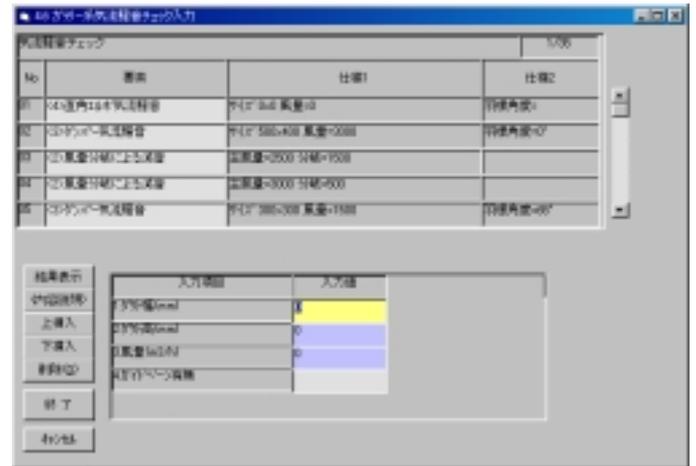


図 3 - 158

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-6-5. 分岐気流騒音入力

(図 3-154) で “ 分岐気流騒音 ” を選択した場合 (図 3-159) が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1) 分岐の形状  
分岐の形状をリストのなかから選択します。
- (2) 分岐方向  
分岐方向をリストのなかから選択します。
- (3) 直管側サイズ  
直管側サイズ (幅および高さ) を入力します。
- (4) 直管側風量  
直管側風量を入力します。
- (5) 枝管側サイズ  
枝管側サイズ (幅および高さ) を入力します。
- (6) 枝管側風量  
枝管側風量を入力します。

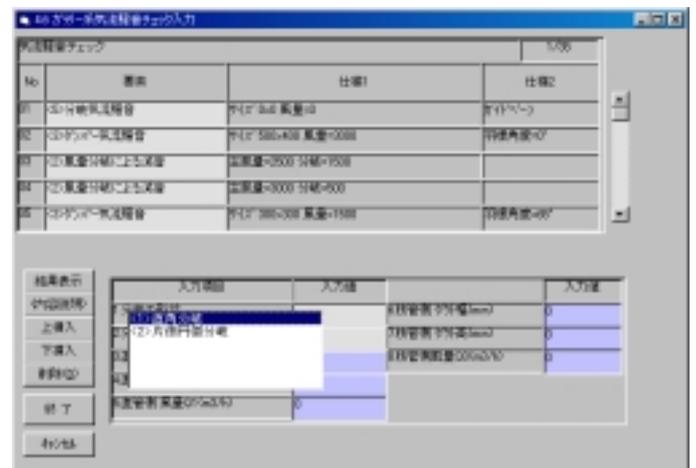


図 3 - 159

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受音室吸音率の入力を参照ください。

“ 終了 ”、“ キャンセル ” で [ 室外系騒音計算総合メニュー ] (図 3-132) に戻ります。

#### 4-6-6.減音要素直接入力

(図 3-154)で“減音要素(減音値)直接入力”を選択した場合(図 3-160)が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1)メモ  
消音装置名称を入力します。
- (2)減音値  
減音値を入力します。

No.	装置名	仕様1	仕様2
01	室内音発生装置直接入力	室内吸音率	室内吸音率
02	コンクリート-気流騒音	外圧=500 Pa 質量=2000	付帯質量=0%
03	20の質量分岐の上向き音	質量=2000 分岐=95%	
04	20の質量分岐の下向き音	質量=3000 分岐=90%	
05	コンクリート-気流騒音	外圧=300 Pa 質量=1500	付帯質量=0%

結果表示	入力項目	入力値	入力位置
室内音発生	室内吸音率	0	0
上挿入	減音値	0	0
下挿入	減音値	0	0
削除	減音値	0	0
終了	減音値	0	0
キャンセル	減音値	0	0

図 3 - 160

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-132)に戻ります。

#### 4-6-7. 騒音発生要素直接入力

(図 3-154)で“騒音発生要素(PWL値)直接入力”を選択した場合(図 3-161)が表示されます。

##### 《入力操作》

- (1)メモ  
騒音発生装置名称を入力します。
- (2)騒音発生値  
騒音発生値(PWL値)を入力します。

No.	装置名	仕様1	仕様2
01	室内音発生装置PWL値直接入力	室内吸音率	室内吸音率
02	コンクリート-気流騒音	外圧=500 Pa 質量=2000	付帯質量=0%
03	20の質量分岐の上向き音	質量=2000 分岐=95%	
04	20の質量分岐の下向き音	質量=3000 分岐=90%	
05	コンクリート-気流騒音	外圧=300 Pa 質量=1500	付帯質量=0%

結果表示	入力項目	入力値	入力位置
室内音発生	室内吸音率	0	0
上挿入	騒音発生値	0	0
下挿入	騒音発生値	0	0
削除	騒音発生値	0	0
終了	騒音発生値	0	0
キャンセル	騒音発生値	0	0

図 3 - 161

上挿入、下挿入、削除、キャンセルは屋内系騒音計算 2 . 受信室吸音率の入力を参照ください。

『終了』、『キャンセル』で[室外系騒音計算総合メニュー](図 3-132)に戻ります。

## 5. 屋外系騒音計算総合チェック表の入力

[ 室外系騒音計算総合メニュー ] ( 図 3-104 )  
 で『 5. 屋外系騒音計算総合チェック表 』を  
 選択した場合 [ 室外系騒音計算総合メニュー ]  
 ( 図 3-162 ) が表示されます。

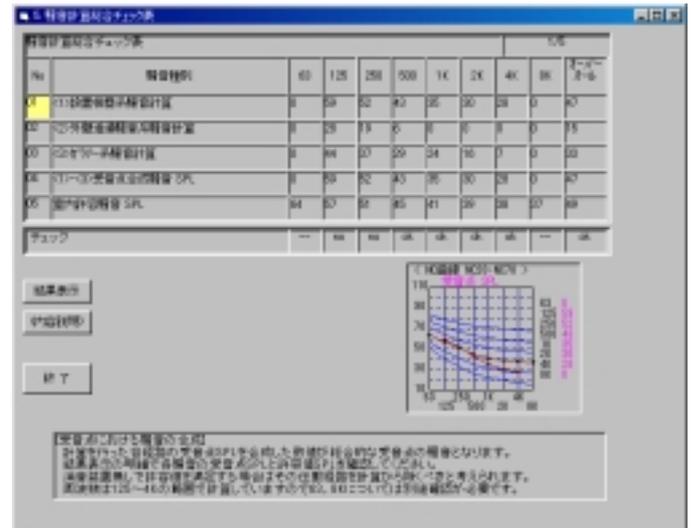


図 3 - 162

『 結果表示 』をクリックすると ( 図 3-163 ) が  
 表示されます。

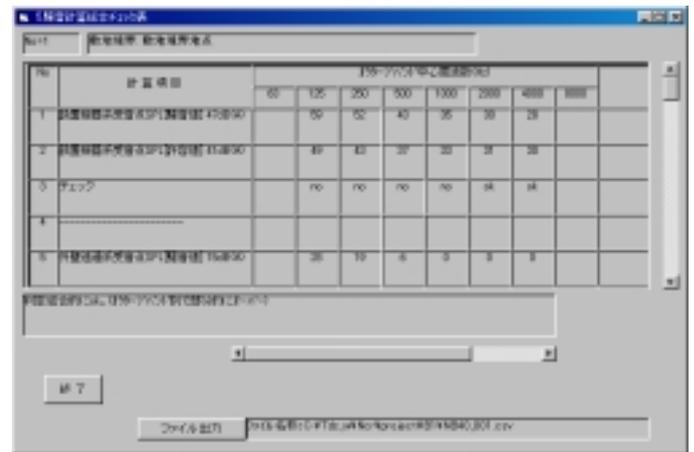


図 3 - 163

『 終了 』で [ 室外系騒音計算総合メニュー ]  
 ( 図 3-164 ) に戻ります。

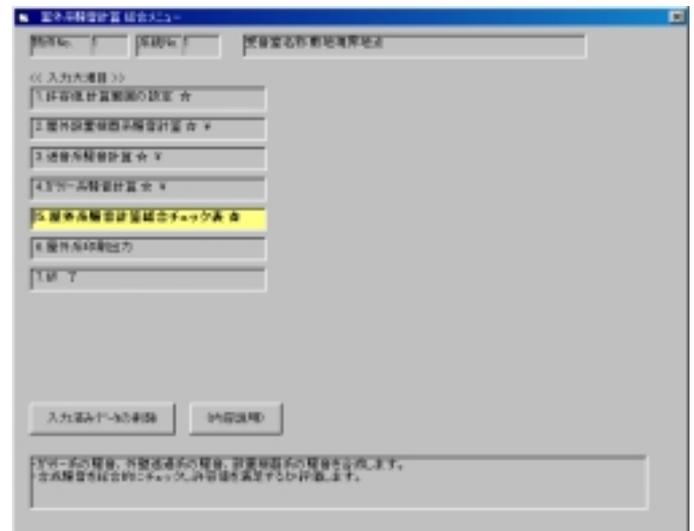


図 3 - 164

## 第4章 騒音計算出力

### 1. 屋内系騒音計算出力

[ A . 入出力選択 ]( 図 4-1) で 『 1 . 屋内系騒音計算データ入出力 』 を選択すると [ 室内系騒音計算系統選択物件名称 ( 1 ) ]( 図 4-2) が表示されます。

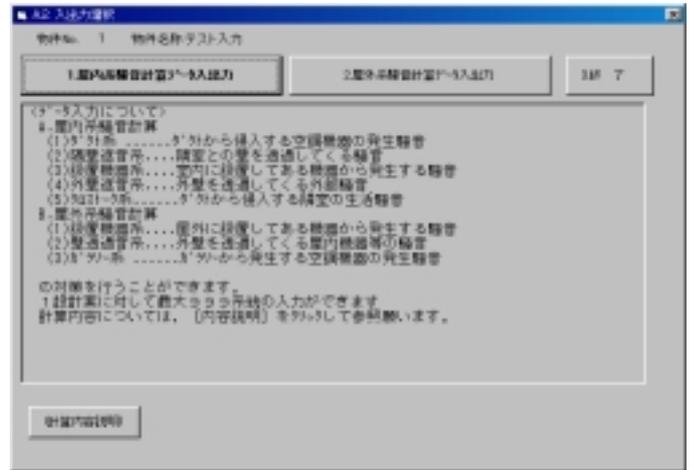


図 4 - 49

更新で 『 出力系統 』 を選択すると [ 室内系騒音計算総合メニュー ]( 図 4-3) が表示されます。



図 4 - 50

[ 室内系騒音計算総合メニュー ]( 図 4-3) で 『 9 . 騒音計算印刷出力 』 を選択すると [ 室内系騒音計算印刷範囲選択 ]( 図 4-4) が表示されます。

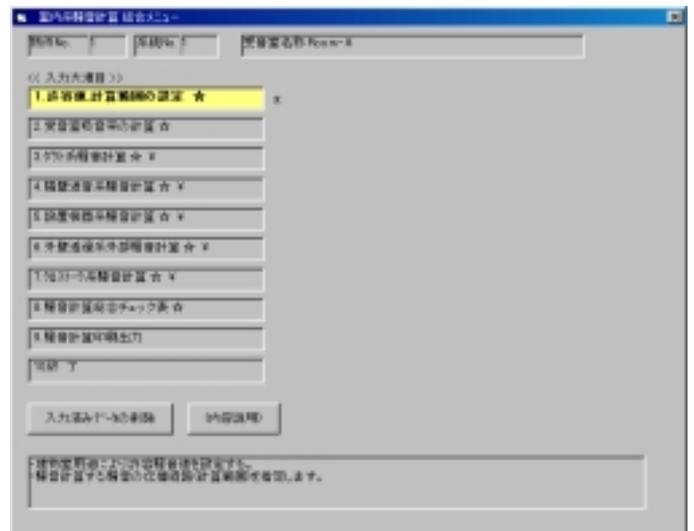


図 4 - 51

《入力操作》

・印刷有無

出力させたい系を選択する。出力させたい系を印刷項目内容の印刷の有無欄にチェックをいれます。

(図 4-4 は「1.ダクト系騒音計算」のみ出力)

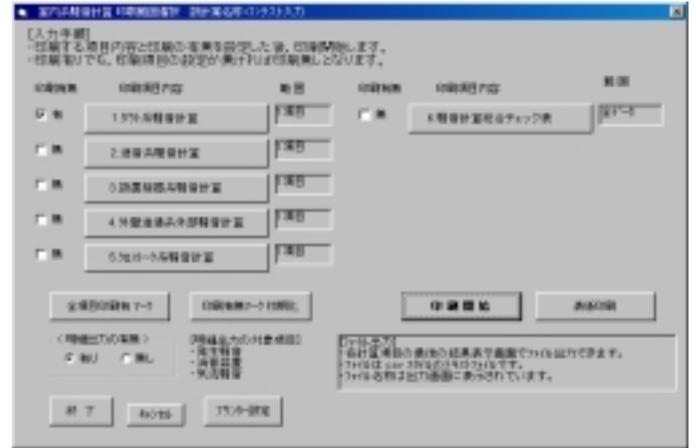


図 4 - 52

・印刷項目内容範囲

各系の騒音計算出力範囲を選択する。たとえば『1.ダクト系騒音計算』をクリックすると(図 4-5)が表示されます。ダクト系騒音計算印刷内容で出力させたい項目にチェックをいれます。

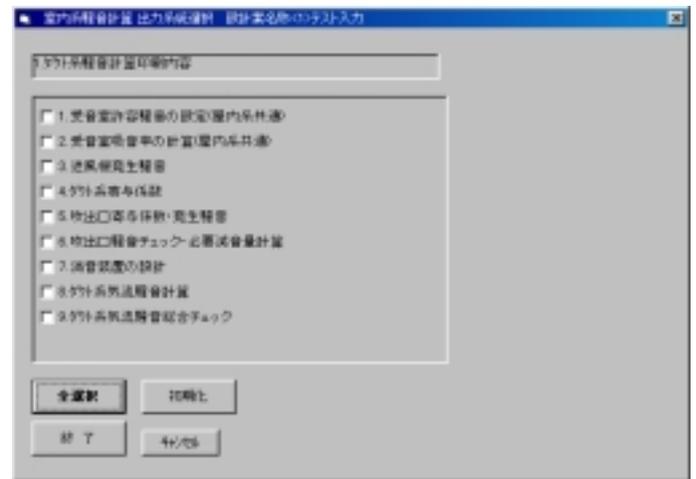


図 4 - 53

(図 4-6) はすべて出力の状態になっています。

・明細出力の有無

発生騒音、消音装置、気流騒音の明細出力の有無を選択する。

・印刷開始

出力条件の設定が完了したのち『印刷開始』をクリックすると計算書が印刷出力されます。

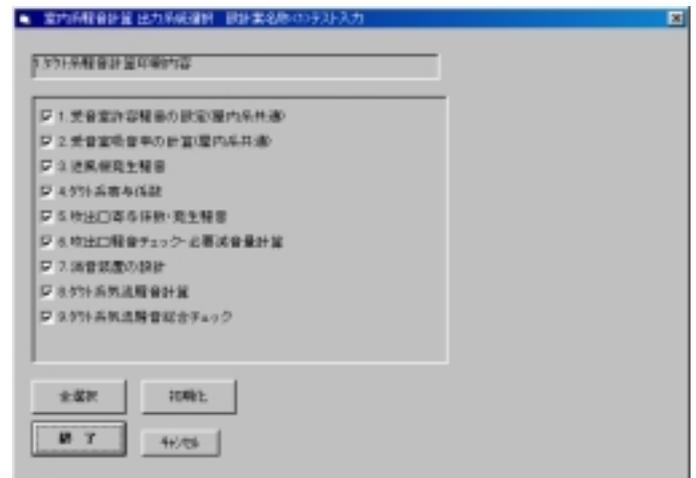


図 4 - 54

・表紙印刷

表紙の設定・印刷を行なう場合『印刷開始』をクリックすると(図 4-7)が表示されます。

『印刷』をクリックすると表紙が出力されます。



図 4-55

2. 屋外系騒音計算出力

[ A. 入出力選択 ](図 4-1)で『2. 屋外系騒音計算データ入出力』を選択すると[ 室外系騒音計算システム選択物件名称 (1) ](図 4-8)が表示されます。



図 4-56

更新で『出力系統』を選択すると[ 室外系騒音計算総合メニュー ](図 4-9)が表示されます。

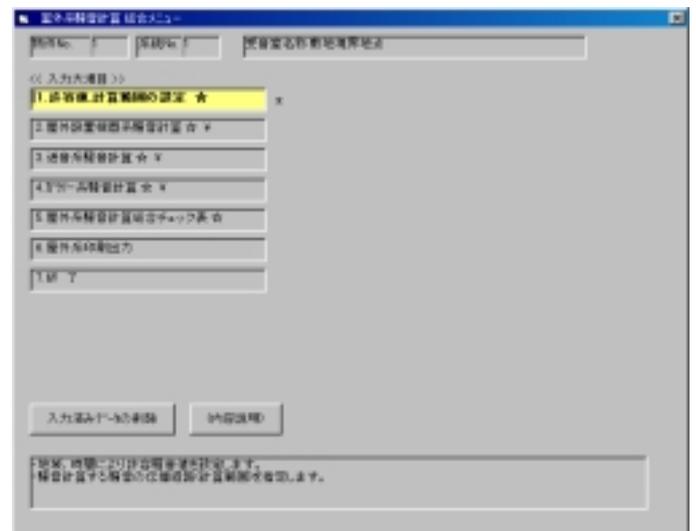


図 4-57

[ 室内系騒音計算総合メニュー ]( 図 4-9 )で『 6 . 屋外系印刷出力 』を選択すると [ 室外系騒音計算印刷範囲選択 ]( 図 4-10 )が表示されます。

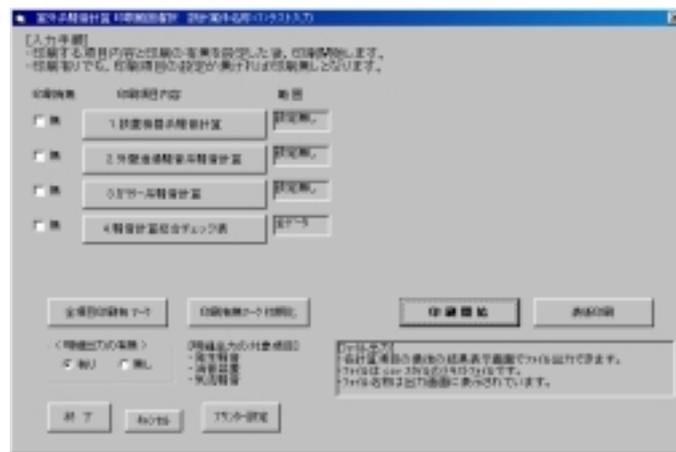


図 4 - 58

### 《入力操作》

#### ・印刷有無

出力させたい系を選択する。出力させたい系を印刷項目内容の印刷の有無欄にチェックをいれます。( 右図は「 1 . 設置機器系騒音計算 」のみ出力)

#### ・印刷項目内容範囲

各系の騒音計算出力範囲を選択する。たとえば『 1 . 設置機器系騒音計算 』をクリックすると( 図 4-11 )が表示されます。

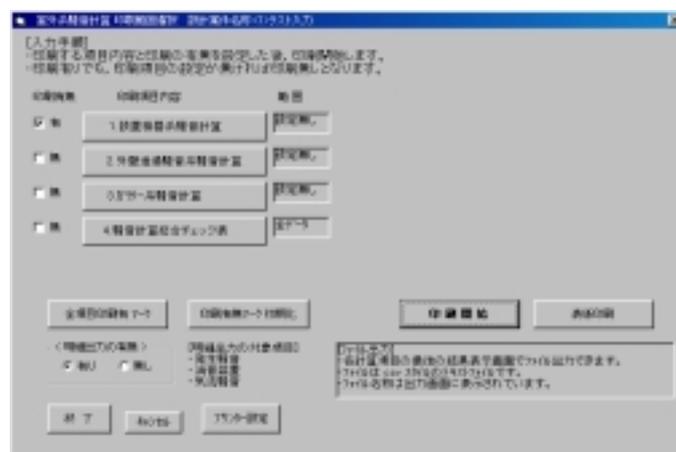


図 4 - 59

設置機器系騒音計算印刷内容で出力させたい項目にチェックをいれます。

( 図 4- 12 ) はすべて出力の状態になっています。



図 4 - 60

・明細出力の有無  
発生騒音、消音装置、気流騒音の明細出力の有無を選択する。

・印刷開始  
出力条件の設定が完了したのち『印刷開始』をクリックすると計算書が印刷出力されます。



図 4 - 61

・表紙印刷  
表紙の設定・印刷を行なう場合『印刷開始』をクリックすると(図 4-13)が表示されます。

『印刷』をクリックすると表紙が出力されます。



図 4 - 62



## 1-2. 建築材料吸音率入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 2 . 建築材料吸音率 』を選択すると [ 2 . 建築材料吸音率 ] ( 図 5-3 ) が表示されます。

- ・材料名称、吸音率を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	材料名称	65	125	250	500	1K	2K	4K	8K
01	建築用エコー付石膏ボード	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04	0.03
02	建築用1.6倍壁(天井)下地 壁	0.00	0.10	0.07	0.05	0.10	0.12	0.14	0.09
03	建築用石膏ボード(9.5mm) 厚3mm	0.00	0.35	0.25	0.19	0.12	0.07	0.04	0.09
04	建築用厚紙地2200x1210x2mm石膏ボード	0.00	0.05	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00
05	建築用厚紙地(厚さの上)石膏ボード	0.00	0.15	0.11	0.10	0.07	0.06	0.07	0.04
06	建築用石膏ボード	0.00	0.03	0.03	0.06	0.06	0.04	0.04	0.12
07	建築用石膏ボード(下地)石膏ボード	0.00	0.09	0.08	0.21	0.26	0.27	0.37	0.03
08	建築用石膏ボード(水性塗料)石膏ボード	0.00	0.18	0.23	0.26	0.20	0.09	0.04	0.03
09	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
10	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
11	エコー付柱なし	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.70
12	石膏ボード	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.80
13	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.00	0.01	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.17
14	石膏ボード	0.00	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.40
15	石膏ボード	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.06
16	石膏ボード	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.10

図 5-3

## 1-3. 室平均吸音率入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 3 . 室平均吸音率 』を選択すると [ 3 . 室平均吸音率 ] ( 図 5-4 ) が表示されます。

- ・建物 室用途、平均吸音率を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	建物 室用途	平均吸音率
01	建築用エコー付石膏ボード 建築用	0.40
02	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.20
03	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.20
04	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.20
05	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.10
06	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.75
07	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.12
08	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.20
09	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.25
10	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.35
11	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.05
12	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.10
13	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.12
14	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.16
15	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.25
16	建築用石膏ボード(厚紙)付柱なし	0.40

図 5-4

## 1-4. 建築材料遮音透過損失入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 4 . 建築材料透過損失 』を選択すると [ 4 . 建築材料遮音透過損失 ] ( 図 5-5 ) が表示されます。

- ・材料名称、遮音透過損失値を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	材料名称	65	125	250	500	1K	2K	4K	8K
01	中空二重石膏ボード 10cm	0	8	5	5	14	19	17	8
02	石膏ボード	0	19	24	29	32	35	40	8
03	石膏ボード(厚紙)付柱なし	18	0	31	27	35	36	40	47
04	石膏ボード(厚紙)付柱なし	18	0	32	34	35	39	42	52
05	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	30	37	42	49	56	57	8
06	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	31	35	45	52	56	56	8
07	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	34	42	47	55	8	8	8
08	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	35	40	52	8	8	8	8
09	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	15	19	24	26	31	44	8
10	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0	18	22	23	25	33	36	8
11	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	19	19	23	32	32	44	8
12	石膏ボード(厚紙)付柱なし(両面)付柱なし	0	23	27	23	29	32	36	8
13	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0	19	25	25	31	34	38	8
14	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0	24	26	32	38	37	50	8
15	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0	29	29	31	35	38	37	8
16	石膏ボード(厚紙)付柱なし	0	34	29	29	34	39	32	8

図 5-5

### 1-5. 消音装置減音量（建設省）入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 5 . 消音装置減音量（建設省）』を選択すると [ 6.建設省消音装置 ] ( 図 5-6 ) が表示されます。

- ・装置名称、減音量、タイプを入力します。タイプは1個当たりの減音量を入力する場合には1を、1m当たりの減音量を入力する場合には2を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	装置名称	63	125	250	500	1K	2K	4K	8K	9K
01	消音パネル N-200mm	0	0	0	3	5	5	4	3	1
02	消音パネル N-300mm	0	0	2	5	5	5	4	3	1
03	消音パネル N-400mm	0	0	3	5	5	4	3	2	1
04	消音パネル N-500mm	0	1	4	5	5	4	3	2	1
05	消音パネル N-600mm	0	2	5	5	5	4	3	2	1
06	消音パネル N-800mm	0	3	5	5	4	3	3	2	1
07	消音パネル N-1,000mm	1	4	5	5	4	3	3	2	1
08	消音パネル N-1,200mm	2	5	5	5	4	3	3	2	1
09	消音パネル N-1,500mm	3	5	5	4	3	3	3	2	1
10	消音パネル N-2,000mm	4	5	5	4	3	2	3	2	1
11	消音パネル N-2,500mm	5	5	5	3	3	3	3	2	1
12	消音パネル N-3,000mm	5	5	4	3	3	3	3	3	1
13	***	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	***	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	***	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	***	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図 5-6

### 1-6. チャンバー内貼消音材吸音率入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 6 . チャンバー内貼消音材（残響室法）』を選択すると [ 6 . チャンバー内貼消音材（残響室法） ] ( 図 5-7 ) が表示されます。

- ・材料名称、吸音率を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	材料名称	63	125	250	500	1K	2K	4K	8K
01	吸音率0.90の25mm	0.06	0.13	0.30	0.56	0.72	0.76	0.82	0.93
02	吸音率0.80の50mm	0.12	0.22	0.50	0.94	0.92	0.90	0.90	0.99
03	吸音率0.70の25mm	0.05	0.10	0.29	0.65	0.70	0.69	0.71	0.76
04	吸音率0.60の50mm	0.09	0.20	0.47	0.65	0.72	0.70	0.70	0.90
05	吸音率0.50の9mm+空気層90mm	0.13	0.26	0.31	0.31	0.12	0.16	0.21	0.26
06	吸音率0.40の12mm+空気層	0.08	0.11	0.22	0.50	0.60	0.40	0.55	0.80
07	吸音率0.30の25mm	0.06	0.15	0.36	0.46	0.96	0.90	0.92	0.98
08	吸音率0.20の40mm	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04	0.04
09	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
10	その他(補入力)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

図 5-7

### 1-7. 屋外騒音規制値入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 7 . 屋外騒音規制値』を選択すると [ 7 . 屋外騒音規制値 ] ( 図 5-8 ) が表示されます。

- ・区域 時間帯名称、屋外騒音規制値（低い、平均、高いの3レベル）を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	区域 時間帯	低い	平均	高い
01	第1種 住居専用地域 昼間 AHS.8 - PWS.8	45	45	45
02	第1種 住居専用地域 昼間 AHS.8 - PWS.8	45	50	55
03	第1種 住居専用地域 夕 PWS.8 - PWS.10	45	45	45
04	第1種 住居専用地域 夜間 PWS.10.11 - AHS.6	45	45	45
05	第2種 住居地区 昼間 AHS.6 - PWS.8	45	45	55
06	第2種 住居地区 昼間 AHS.6 - PWS.8	45	50	60
07	第2種 住居地区 夕 PWS.8 - PWS.10	45	45	55
08	第2種 住居地区 夜間 PWS.10.11 - AHS.6	45	45	55
09	第3種 商業地区 昼間 AHS.8 - PWS.8	55	55	65
10	第3種 商業地区 昼間 AHS.8 - PWS.8	55	60	65
11	第3種 商業地区 夕 PWS.8 - PWS.10	55	55	65
12	第3種 商業地区 夜間 PWS.10.11 - AHS.6	45	50	55
13	第4種 工業地区 昼間 AHS.6 - PWS.8	55	60	70
14	第4種 工業地区 昼間 AHS.6 - PWS.8	55	70	75
15	第4種 工業地区 夕 PWS.8 - PWS.10	55	60	70
16	第4種 工業地区 夜間 PWS.10.11 - AHS.6	55	55	65

図 5-8

## 1-8. ダクト内貼消音材吸音率入力

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 8 . ダクト内貼吸音材 ( 垂直入射 ) 』を選択すると [ 8 . ダクト内貼吸音材 ( 垂直入射 ) ] ( 図 5-9 ) が表示されます。

- ・材料名称、吸音率を入力します。
- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

No	材料名称	63	125	250	500	1K	2K	4K	8K
01	ダクト内貼 20mm 24kg/m <sup>3</sup> 垂直入射	0.00	0.06	0.08	0.22	0.45	0.81	0.93	0.00
02	ダクト内貼 25mm 23kg/m <sup>3</sup> 垂直入射	0.00	0.06	0.11	0.22	0.51	0.86	0.96	0.00
03	ダクト内貼 50mm 24kg/m <sup>3</sup> 垂直入射	0.00	0.10	0.17	0.49	0.96	0.96	0.00	0.00
04	ダクト内貼 80mm 22kg/m <sup>3</sup> 垂直入射	0.00	0.09	0.23	0.56	0.91	0.99	0.00	0.00
05	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
06	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
07	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
08	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
09	***	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
10	子の値を継承入力	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

図 5 - 9

## 2 . マスターデータの印刷

[ B . マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) で『 11 . マスターデータ印刷 』を選択すると [ 11 . マスターデータ印刷 ] ( 図 5-10 ) が表示されます。

図 5 - 10

- ・印刷したい各印刷項目の“印刷有無”にチェックをつけて設定します ( 図 5-11 では 1 ~ 6 が設定されています )。

『印刷開始 ( P ) 』をクリックすると設定された内容が印刷出力されます。

『全項目印刷有マーク』…………… 全項目の“印刷有無”を有りにする場合

『印刷有無マーク初期化』…………… 全項目の“印刷有無”を無しにする場合

- ・『終了』で [ マスターデータ入出力 ] ( 図 5-1 ) へ戻ります。

## 第6章 システムユーティリティ

### 1. ドライブ環境の設定

起動メニューの『C. システムユーティリティ』を選択すると[C. システムユーティリティ](図 6-1)が表示されます。

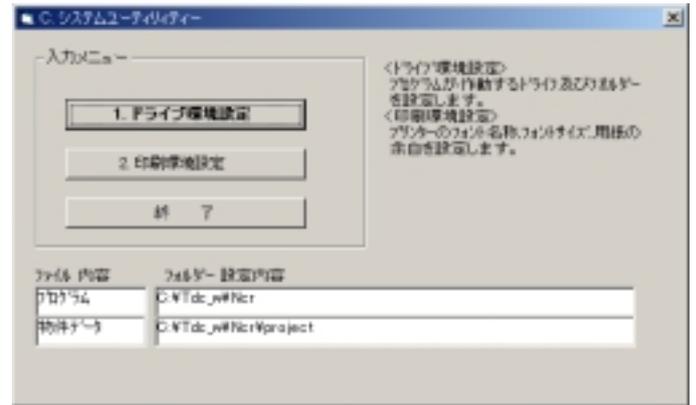


図 6-63

- 『1. ドライブ環境設定』を選択すると [1. ドライブ環境設定](図 6-2)が表示されます。

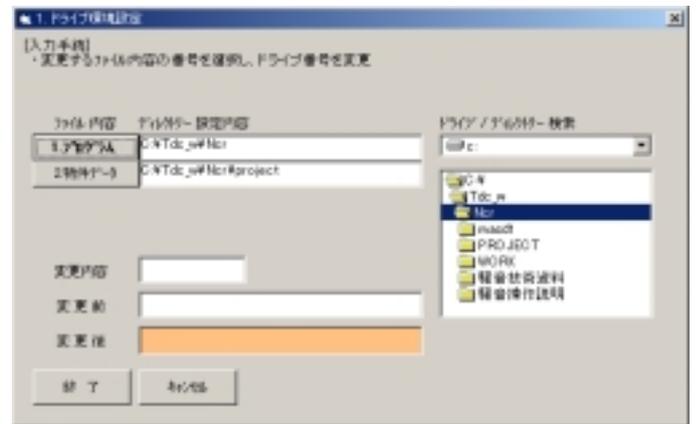


図 6-64

- プログラムおよび物件データのいずれかの変更したい方をクリックすると、図 6-3 が表示されます(図はプログラムを変更)。
- 変更後のドライブ、フォルダを入力します。ただし、プログラムのフォルダを変更することはできません。

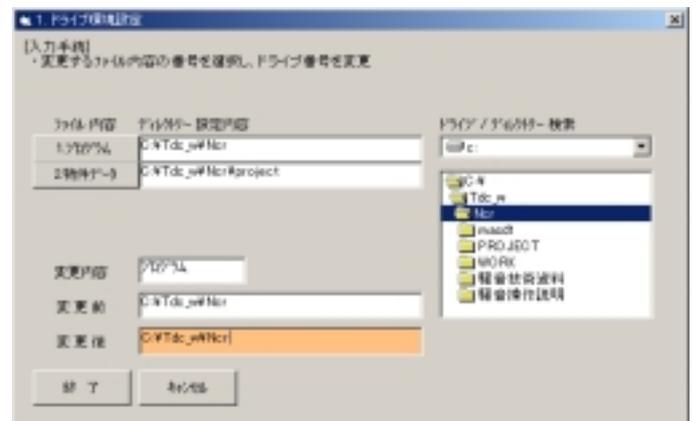


図 6-65

物件データは「project」を最後に入力してください。

- ・ 物件データを変更する場合『2. 物件データ』をクリックします(図 6-4)。

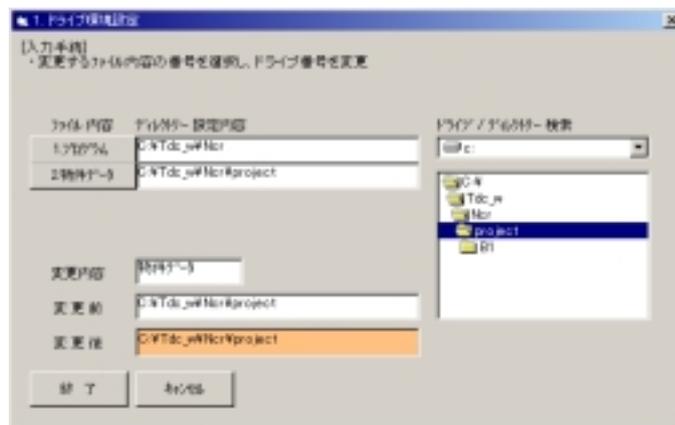


図 6-66

- ・ 『ドライブ/ディレクトリ検索』のドライブのドロップダウンリストをクリックすると、画面は図 6-5 のようになります。

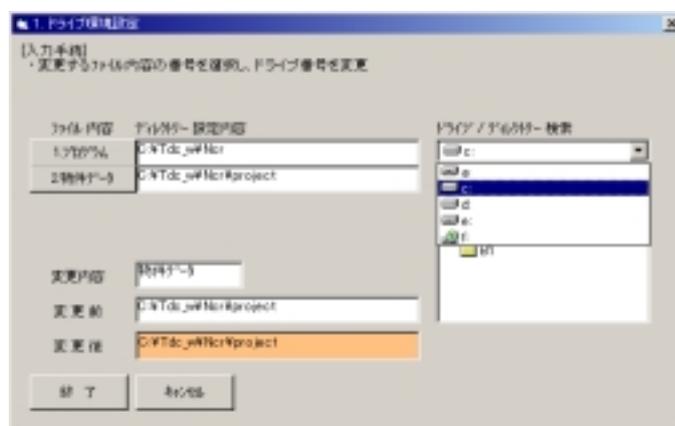


図 6-67

- ・ 物件データが入っているドライブを選択します(例はBドライブを選択) 図 6-6 が表示されます。



図 6-68

- ・ 『ドライブ/ディレクトリ検索』のリストで「project」を選択します。

図 6-7 が表示されます。

- ・ 図では物件データは B ドライブの「¥tdc\_w¥Ncr¥project」にあるデータを使用することになります。

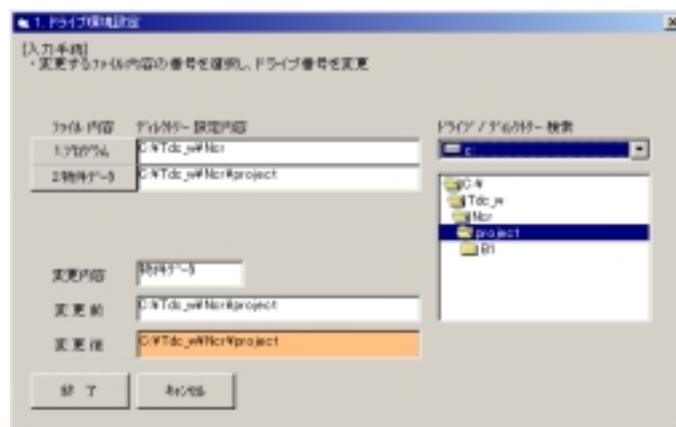


図 6-69

- ・ 『終了』で [ C . システムユーティリティ ] (図 6-8) へ戻ります。

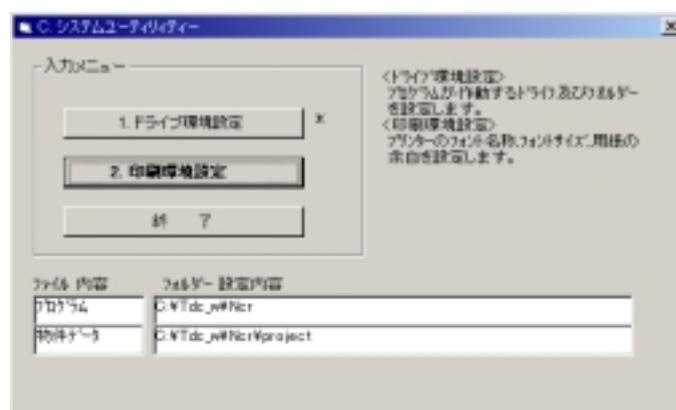


図 6-70

## 2 . 印刷環境の設定

[ C . システムユーティリティ ] (図 6-1) で 『 2 . 印刷環境設定 』 を選択すると [ 2 . 印刷環境設定 ] (図 6-9 ) が表示されます。

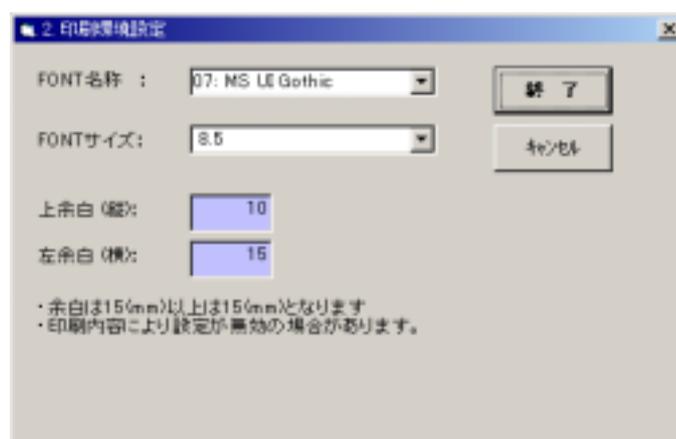


図 6-71

- ・ FONT 名称、FONT サイズを選択します。
- ・ 上余白、左余白を入力します。
- ・ 『終了』で [ C . システムユーティリティ ] (図 6-1) へ戻ります。